

# 男女共同参画社会に関するアンケート調査 結果報告書



平成27年度 男女共同参画ポスター「優秀賞」  
青山小学校 丸川茅沙さん

平成28年3月

利府町政策課地域協働班

# 目 次

---

<b>1 調査の概要</b>	<b>1</b>
<b>2 男女共同参画社会に関する住民意識調査結果（個人）</b>	<b>2</b>
(1) 属性等 .....	2
(2) 男女平等の意識 .....	11
(3) 結婚観、家庭生活 .....	16
(4) 教育 .....	20
(5) 高齢社会 .....	22
(6) 職業 .....	24
(7) 人権 .....	32
(8) 地域活動 .....	35
(9) 男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み .....	36
<b>3 男女共同参画社会に関する事業所アンケート調査結果（法人）</b>	<b>38</b>
(1) 属性等 .....	38
(2) 募集・採用 .....	42
(3) 配置・昇進 .....	44
(4) セクシュアル・ハラスメント防止に向けた取り組み .....	47
(5) 育児・介護等 .....	48
(6) パートタイム等 .....	52
(7) 積極的女性の活用 .....	54
(8) 男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み .....	55
<b>4 男女共同参画社会についてのご意見、ご要望等</b>	<b>56</b>

---

## 1. 調査の概要

---

### ① 調査の目的

町民の家庭、職場などの日常生活の様々な場面における行動実態や男女平等の意識を把握・分析し、第2次利府町男女共同参画基本計画の推進状況を確認し、今後の事業の参考とする。

### ② 調査の対象及び抽出方法

個人：18歳以上80歳未満の町民1,000名（無作為抽出）

法人：町内の従業員5名以上の商工業者、農協、企業など200社（無作為抽出）

### ③ 回収・集計状況

	配布数	回収数	回収率 (回収数/配布数)
個人	1,000 通	388 通	38.8%
法人	200 通	58 通	29.0%
計	1,200 通	446 通	37.2%

### ④ 調査方法

郵送による配布及び回収。

### ⑤ 調査の実施時期

平成27年10月30日から11月30日まで

### ⑥ 調査報告書の見方

- ・ 図表における数値の表記は、小数点以下第2位で四捨五入しているため、各回答の合計が100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答の設問では、回答者数に対する比率を示している。
- ・ 男女別に集計している図表については、性別無記名の回答があるため、回答数と一致しない場合がある。

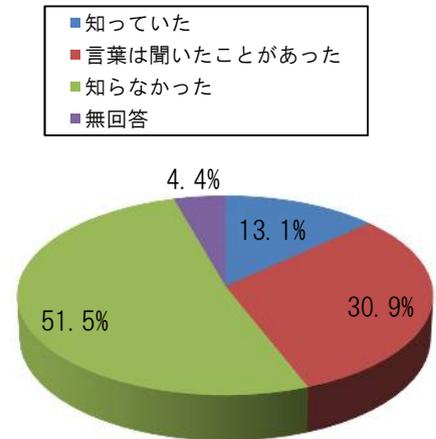
## 2. 男女共同参画社会に関する住民意識調査結果（個人）

### （1）属性等

#### F 0 【利府町男女共同参画基本計画を知っていましたか】

計画を「知っていた」が全体の13.1%、「言葉は聞いたことがあった」を合わせると44%であった。

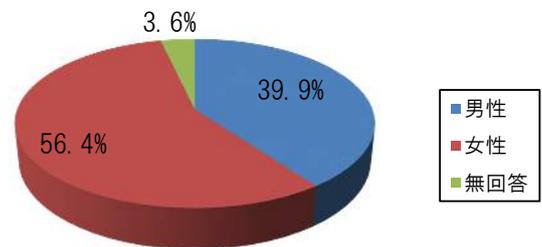
選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
知っていた	51	13.1%	41	10.7%
言葉は聞いたことがあった	120	30.9%	120	31.3%
知らなかった	200	51.5%	202	52.6%
無回答	17	4.4%	21	5.4%
計	388	100.0%	384	100.0%



#### F 1 【性別】

回答者の性別は、男性39.9%、女性56.4%となっており、前回調査と比較して男性の関心が低く、女性の関心が高い傾向である。

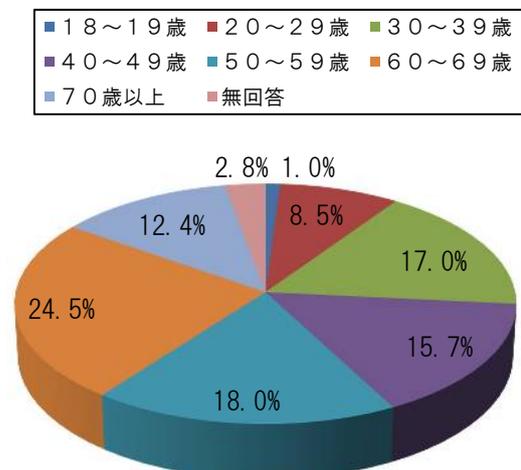
選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
男性	155	39.9%	183	47.7%
女性	219	56.4%	191	49.7%
無回答	14	3.6%	10	2.6%
計	388	100.0%	384	100.0%



#### F 2 【年齢】

回答者の年齢は、「60～69歳」「50～59歳」「30～39歳」で割合が高くなっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
18～19歳	4	1.0%	1.0%
20～29歳	33	8.5%	8.6%
30～39歳	66	17.0%	13.3%
40～49歳	61	15.7%	20.6%
50～59歳	70	18.0%	21.6%
60～69歳	95	24.5%	20.1%
70歳以上	48	12.4%	12.5%
無回答	11	2.8%	2.3%
計	388	100.0%	100.0%

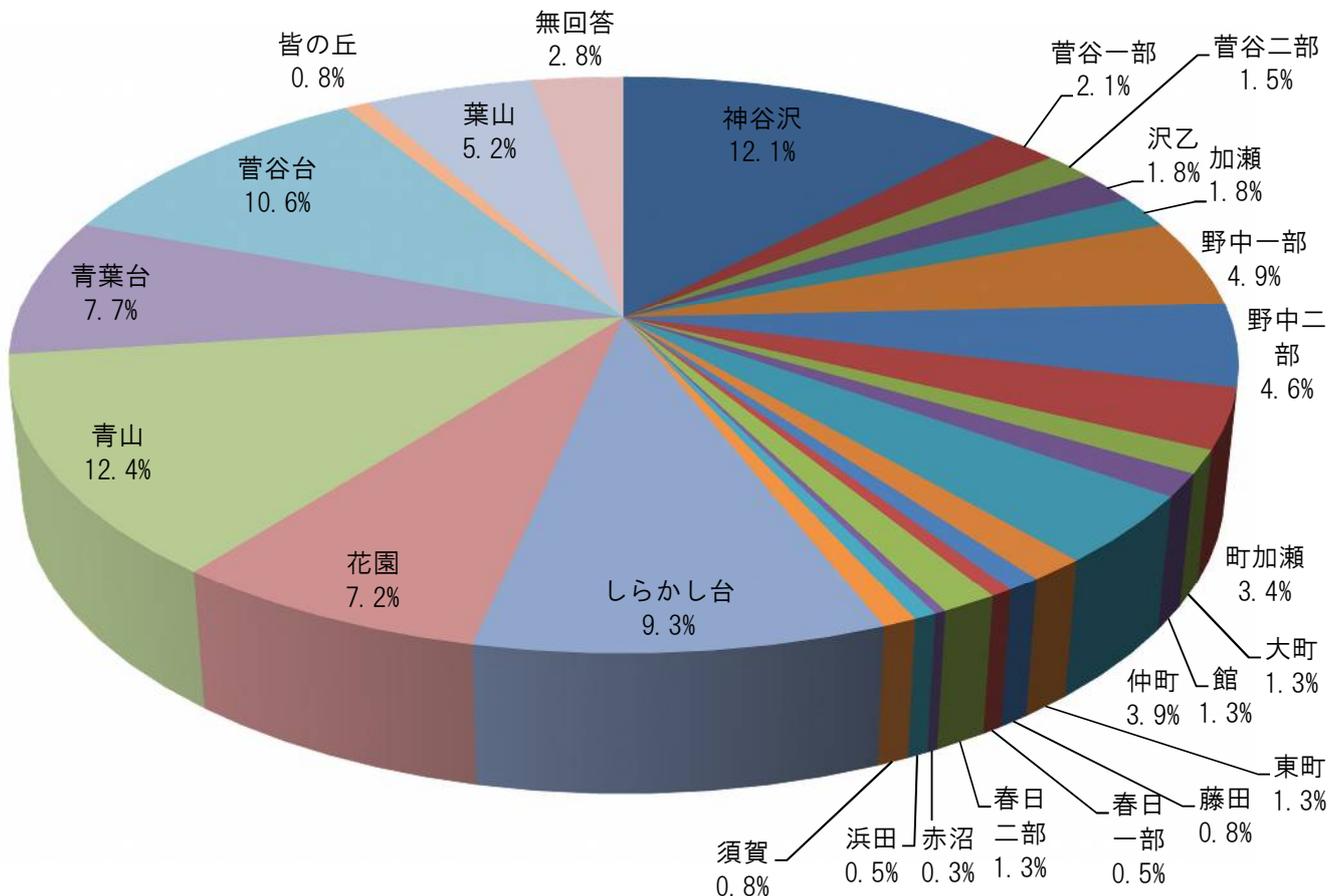


### F 3 【居住地区】

既存地区にお住まいの方は全体の44.2%、新興住宅地は53.2%となっており、前回調査同様、新興住宅地の割合が多くなっている。

\* 新興住宅地…しらかし台、花園、青山、青葉台、菅谷台、皆の丘、葉山

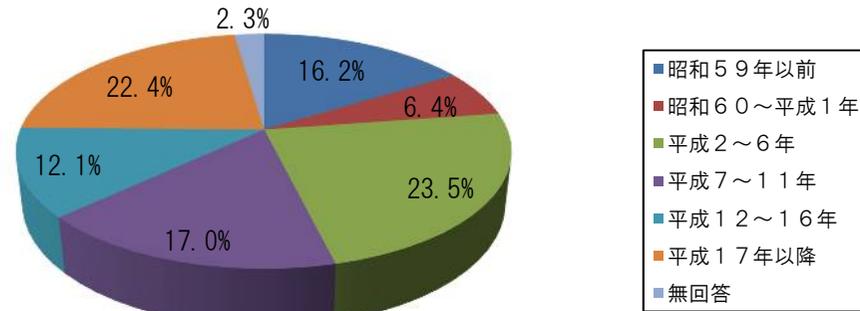
選択項目	今回		前回	選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比		回答数	構成比	構成比
神谷沢	47	12.1%	10.4%	春日一部	2	0.5%	1.6%
菅谷一部	8	2.1%	1.8%	春日二部	5	1.3%	3.1%
菅谷二部	6	1.5%	1.6%	赤沼	1	0.3%	0.3%
沢乙	7	1.8%	1.6%	浜田	2	0.5%	0.8%
加瀬	7	1.8%	2.1%	須賀	3	0.8%	0.5%
野中一部	19	4.9%	4.2%	しらかし台	36	9.3%	11.5%
野中二部	18	4.6%	6.5%	花園	28	7.2%	7.8%
町加瀬	13	3.4%	2.9%	青山	48	12.4%	12.5%
大町	5	1.3%	1.0%	青葉台	30	7.7%	7.3%
館	5	1.3%	1.3%	菅谷台	41	10.6%	9.1%
仲町	15	3.9%	2.1%	皆の丘	3	0.8%	1.5%
東町	5	1.3%	2.1%	葉山	20	5.2%	3.6%
藤田	3	0.8%	0.5%	無回答	11	2.8%	2.3%
				計	388	100.0%	100.0%



## F 4 【居住年数】

平成 2～6 年に居住した方が全体の 23.5%と最も多く、次いで、平成 17 年以降の方が 22.4%となっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
昭和 59 年以前	63	16.2%	18.2%
昭和 60～平成 1 年	25	6.4%	8.1%
平成 2～6 年	91	23.5%	13.0%
平成 7～11 年	66	17.0%	19.8%
平成 12～16 年	47	12.1%	25.8%
平成 17 年以降	87	22.4%	12.5%
無回答	9	2.3%	2.6%
計	388	100.0%	100.0%

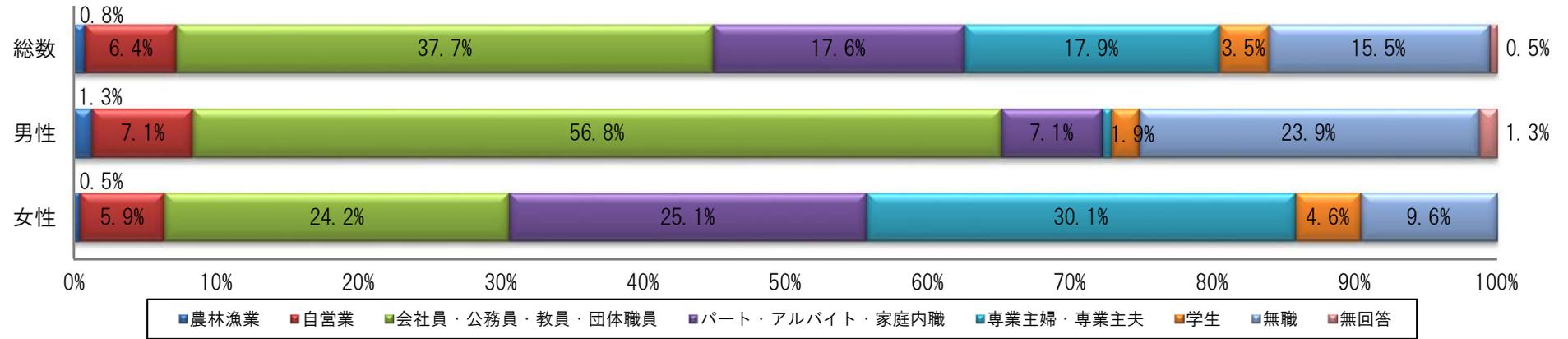


## F 5 【職業】

全体では、職業を持っている方は 62.5%、職業を持っていない方は 36.9%となっている。男女別に見ると、「男性」で職業を持っている方は男性全体の 72.3%、「会社員・公務員・教員・団体職員」が 56.8%と高い割合となっており、一方「女性」で職業を持っている方は女性全体の 55.7%、職業を持っていない「専業主婦」の割合が 30.1%と最も多く、次いで「パート・アルバイト・家庭内職」が 25.1%となっている。

選択項目	全体				男性				女性			
	今回		前回		今回		前回		今回		前回	
	回答数	構成比										
農林漁業	3	0.8%	6	1.6%	2	1.3%	4	2.2%	1	0.5%	2	1.1%
自営業	24	6.4%	28	7.5%	11	7.1%	20	10.9%	13	5.9%	8	4.2%
会社員・公務員・教員・団体職員	141	37.7%	159	42.5%	88	56.8%	106	57.9%	53	24.2%	53	27.7%
パート・アルバイト・家庭内職	66	17.6%	54	14.4%	11	7.1%	10	5.5%	55	25.1%	44	23.0%
専業主婦・専業主夫	67	17.9%	59	15.8%	1	0.6%	0	0.0%	66	30.1%	59	30.9%
学生	13	3.5%	14	3.7%	3	1.9%	4	2.2%	10	4.6%	10	5.2%
無職	58	15.5%	53	14.2%	37	23.9%	38	20.8%	21	9.6%	15	7.9%
無回答	2	0.5%	1	0.3%	2	1.3%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
計	374	100.0%	374	100.0%	155	100.0%	183	100.0%	219	100.0%	191	100.0%

F 5 【職業】



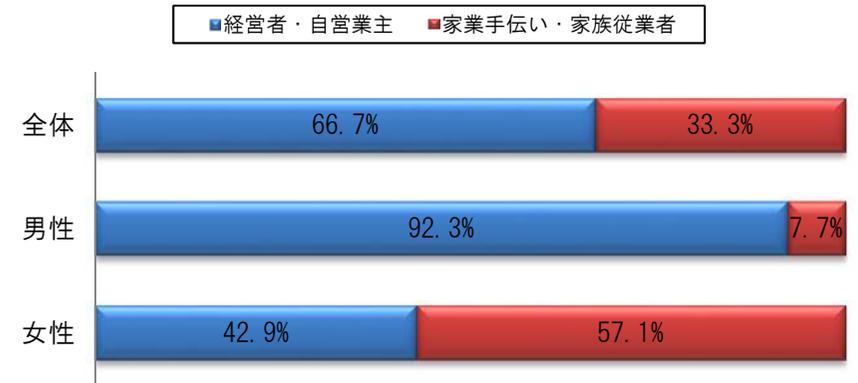
F 5 - 参考 - 【職業・年齢別】

選択項目	全体		18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
農林漁業	3	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	1	1.1%	1	2.1%	0	0.0%
自営業	24	6.2%	0	0.0%	1	3.0%	2	3.0%	3	4.9%	4	5.7%	10	10.5%	4	8.3%	0	0.0%
会社員・公務員・教員・団体職員	142	36.6%	0	0.0%	12	36.4%	35	53.0%	32	52.5%	36	51.4%	25	26.3%	1	2.1%	1	9.1%
パート・アルバイト・家庭内職	66	17.0%	0	0.0%	5	15.2%	10	15.2%	18	29.5%	17	24.3%	14	14.7%	2	4.2%	0	0.0%
専業主婦・専業主夫	68	17.5%	0	0.0%	1	3.0%	17	25.8%	7	11.5%	10	14.3%	26	27.4%	6	12.5%	1	9.1%
学生	13	3.4%	3	75.0%	10	30.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無職	62	16.0%	1	25.0%	3	9.1%	2	3.0%	1	1.6%	2	2.9%	19	20.0%	33	68.8%	1	9.1%
無回答	10	2.5%	0	0.0%	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	8	72.7%
計	388	100.0%	4	100.0%	33	100.0%	66	100.0%	61	100.0%	70	100.0%	95	100.0%	48	100.0%	11	100.0%

## F 5 【職業】「農林漁業」及び「自営業」を選ばれた方

農林漁業及び自営業の方では、男性、女性ともに前回調査と比較して「経営者・自営業主」の割合が高くなっているが、女性は「家事手伝い・家族従事者」が57.1%と前回同様高い割合となっている。

選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
経営者・自営業主	18	66.7%	73.5%	12	92.3%	87.5%	6	42.9%	40.0%
家事手伝い・家族従事者	9	33.3%	26.5%	1	7.7%	12.5%	8	57.1%	60.0%
計	27	100.0%	100.0%	13	100.0%	100.0%	14	100.0%	100.0%

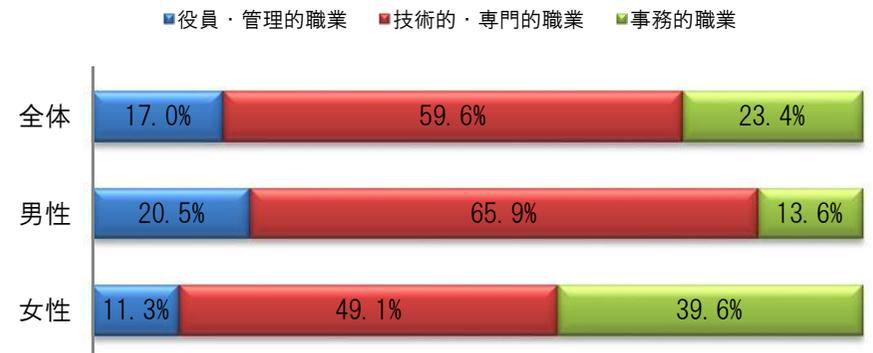


## F 5 【職業】「会社員・公務員・教員・団体職員」を選ばれた方

「会社員・公務員・教員・団体職員」を選ばれた方では、男性は「技術的・専門的職業」が65.9%と割合が高く、女性は「技術的・専門的職業」「事務的職業」がほぼ前回同様の割合となっている。

「役員・管理的職業」では、女性は前回調査と比較して高い割合となっているが、男性は前回より低い結果となった。

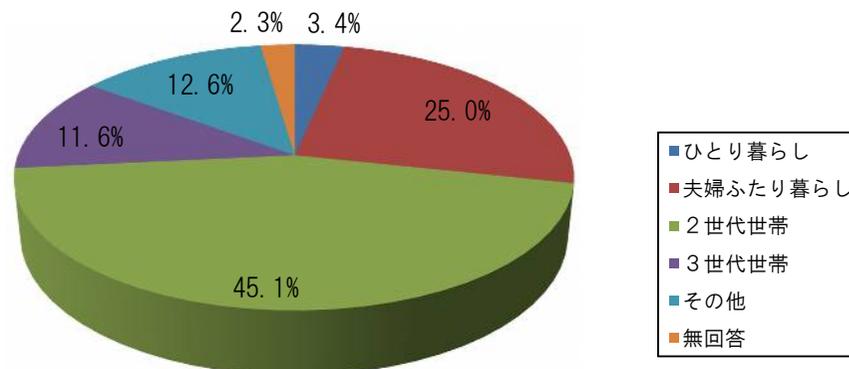
選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
役員・管理的職業	24	17.0%	18.9%	18	20.5%	23.6%	6	11.3%	9.4%
技術的・専門的職業	84	59.6%	58.5%	58	65.9%	64.2%	26	49.1%	47.2%
事務的職業	33	23.4%	22.6%	12	13.6%	12.2%	21	39.6%	43.4%
計	141	100.0%	100.0%	88	100.0%	100.0%	53	100.0%	100.0%



## F 6 【家族構成】あなたが現在同居しているご家族の構成は、次のうちどれですか。

「2世代世帯」の割合が45.1%と最も高く、次いで「夫婦ふたり暮らし」の割合が25.0%と高く、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
ひとり暮らし	13	3.4%	22	5.7%
夫婦ふたり暮らし	97	25.0%	85	22.1%
2世代世帯	175	45.1%	214	55.7%
3世代世帯	45	11.6%	39	10.2%
その他	49	12.6%	18	4.7%
無回答	9	2.3%	6	1.6%
計	388	100.0%	384	100.0%



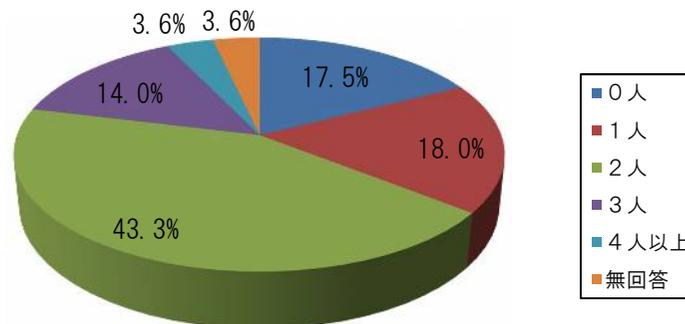
## F 6 - 参考 - 【家族構成・年齢別】

選択項目	全体		18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		年齢不明	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ひとり暮らし	13	3.4%	0	0.0%	1	3.0%	3	4.5%	1	1.6%	2	2.9%	2	2.1%	4	8.3%	0	0.0%
夫婦ふたり暮らし	97	25.0%	0	0.0%	4	12.1%	8	12.1%	5	8.2%	19	27.1%	39	41.1%	21	43.8%	1	9.1%
2世代世帯	175	45.1%	3	75.0%	19	57.6%	37	56.1%	40	65.6%	35	50.0%	29	30.5%	11	22.9%	1	9.1%
3世代世帯	45	11.6%	1	25.0%	3	9.1%	7	10.6%	8	13.1%	10	14.3%	11	11.6%	5	10.4%	0	0.0%
その他	49	12.6%	0	0.0%	6	18.2%	11	16.7%	7	11.5%	4	5.7%	14	14.7%	7	14.6%	0	0.0%
無回答	9	2.3%	0	0.0%	0	0.0%		0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	81.8%
計	388	100.0%	4	100.0%	33	100.0%	66	100.0%	61	100.0%	70	100.0%	95	100.0%	48	100.0%	11	100.0%

## F 7 【子どもの数】あなたのお子さんは何人ですか。

「2人」の割合が43.3%と最も高く、次いで「1人」の割合が18.0%と高くなっている。前回調査と比較して「0人」の割合が低い結果となっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
0人	68	17.5%	21.4%
1人	70	18.0%	14.6%
2人	168	43.3%	39.3%
3人	54	14.0%	19.0%
4人以上	14	3.6%	2.9%
無回答	14	3.6%	2.9%
計	388	100.0%	100.0%



F 7 - 参考 - 【子どもの数・年齢別】

選択項目	全体		18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	68	17.5%	3	75.0%	28	84.8%	16	24.2%	3	4.9%	8	11.4%	6	6.3%	2	4.2%	2	18.2%
1人	70	18.0%	0	0.0%	4	12.2%	17	25.8%	17	27.9%	14	20.0%	11	11.6%	7	14.6%	0	0.0%
2人	168	43.3%	1	25.0%	1	3.0%	23	34.8%	28	45.9%	33	47.1%	51	53.7%	31	64.5%	0	0.0%
3人	54	14.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	9.2%	12	19.7%	9	13.0%	22	23.2%	5	10.4%	0	0.0%
4人以上	14	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.0%	1	1.6%	5	7.1%	5	5.2%	1	2.1%	0	0.0%
無回答	14	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	2	4.2%	9	81.8%
計	388	100.0%	4	100.0%	33	100.0%	66	100.0%	61	100.0%	70	100.0%	95	100.0%	48	100.0%	11	100.0%

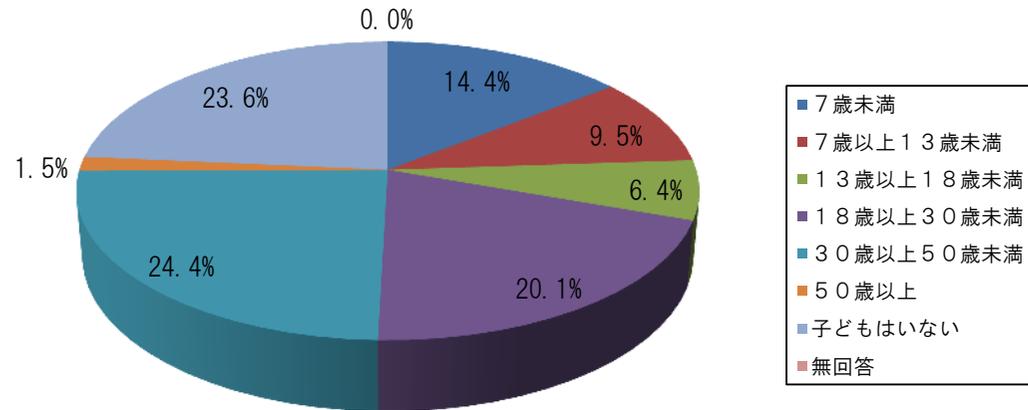
F 5・F 7 - 参考 - 【職業・女性の職業と末子の年齢】

選択項目	全体			7歳未満			7歳以上18歳未満			18歳以上			子供はいない			無回答		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
農林漁業（自営の方のみ）	1	0.5%	1.0%	0	0.0%	3.4%	0	0.0%	0.0%	1	1.0%	1.2%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
自営業 （商業、工業、サービス業など）	13	5.9%	4.2%	0	0.0%	6.9%	3	0.0%	0.0%	9	8.9%	7.4%	1	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
会社員・公務員・教員・団体職員	53	24.2%	27.7%	12	36.4%	13.8%	9	22.0%	24.2%	17	16.8%	21.0%	14	35.9%	55.8%	0	0.0%	0.0%
パート・アルバイト・家庭内職	55	25.1%	23.0%	7	21.2%	31.0%	18	43.9%	33.3%	21	20.8%	24.7%	6	15.4%	9.3%	0	0.0%	0.0%
専業主婦・専業主夫（パートタイム やアルバイトで働いていない方）	66	30.1%	31.0%	14	42.4%	44.9%	10	24.4%	42.5%	37	36.6%	34.6%	5	12.8%	4.6%	2	40.0%	40.0%
学生	10	4.6%	5.2%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	10	25.6%	23.3%	0	0.0%	0.0%
無職	21	9.6%	7.9%	0	0.0%	0.0%	1	2.4%	0.0%	16	15.8%	11.1%	3	7.7%	7.0%	3	60.0%	60.0%
無回答	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	219	100.0%	100.0%	33	100.0%	100.0%	41	100.0%	100.0%	101	100.0%	100.0%	39	100.0%	100.0%	5	100.0%	100.0%

## F 8 【末子の年齢】一番下のお子さんはいくつですか。

「30歳以上50歳未満」の割合が24.5%と最も高く、次いで「子どもはいない」の割合が23.6%、「18歳以上30歳未満」が20.1%となっている。前回調査と比較して「30歳以上50歳未満」の割合が高くなっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
7歳未満	56	14.4%	12.0%
7歳以上13歳未満	37	9.5%	8.6%
13歳以上18歳未満	25	6.4%	7.8%
18歳以上30歳未満	78	20.1%	25.3%
30歳以上50歳未満	95	24.5%	19.0%
50歳以上	6	1.5%	1.0%
子どもはいない	91	23.6%	26.3%
無回答	0	0.0%	0.0%
計	388	100.0%	100.0%



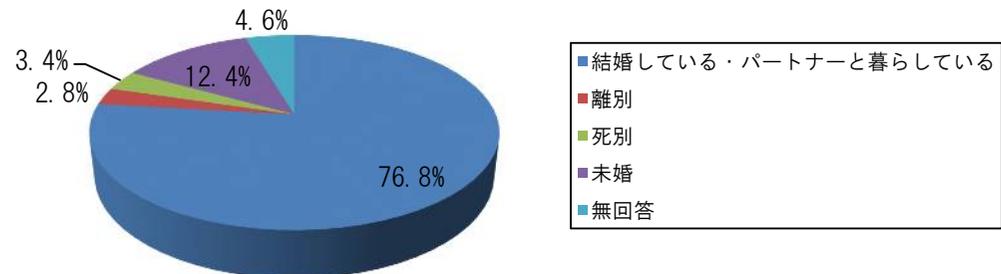
## F 8 - 参考 - 【末子の年齢・年齢別】

選択項目	全体		18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
7歳未満	56	14.4%	0	0.0%	5	15.2%	36	54.5%	14	23.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7歳以上13歳未満	37	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	10	15.2%	25	41.0%	2	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
13歳以上18歳未満	25	6.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	26.2%	9	12.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
18歳以上30歳未満	78	20.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	44	62.9%	33	34.7%	0	0.0%	0	0.0%
30歳以上50歳未満	95	24.5%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	8.6%	50	52.6%	38	79.2%	0	0.0%
50歳以上	6	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	4	8.3%	0	0.0%
子どもはいない	91	23.5%	3	75.0%	28	84.8%	19	28.8%	5	8.2%	8	11.4%	11	11.6%	6	12.5%	11	100.0%
計	388	100.0%	4	100.0%	33	100.0%	66	100.0%	61	100.0%	70	100.0%	95	100.0%	48	100.0%	11	100.0%

## F 9 【結婚】現在、あなたは結婚（婚姻届を出していない場合も含む）していますか。

「結婚している・パートナーと暮らしている」の割合が76.8%と大半を占め、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

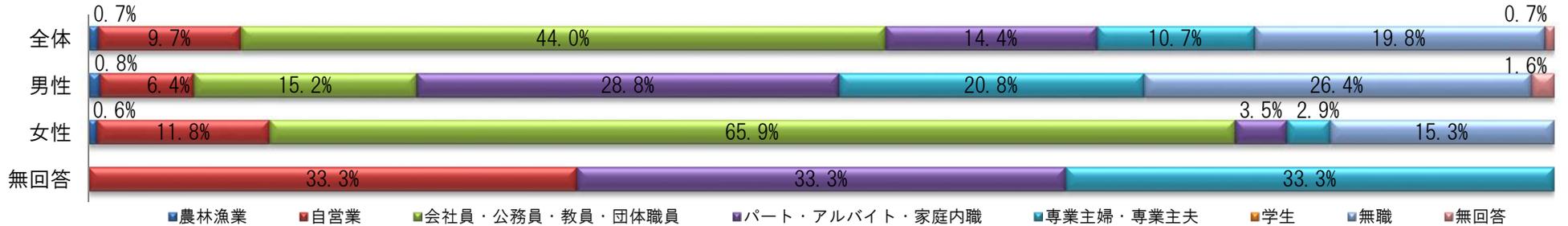
選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
結婚している・パートナーと暮らしている	298	76.8%	290	75.5%
離別	11	2.8%	16	4.2%
死別	13	3.4%	14	3.6%
未婚	48	12.4%	48	12.5%
無回答	18	4.6%	16	4.2%
計	388	100.0%	384	100.0%



F10 【配偶者・パートナーの職業】「結婚している・パートナーと暮らしている方」

男性の配偶者（妻）は、「パート・アルバイト・家庭内職」の割合が28.8%で最も高く、次いで「無職」の割合が26.4%となっている。また、女性の配偶者（夫）は、「会社員・公務員・教員・団体職員」の割合が65.9%と大半を占め、前回調査とほぼ同様の内容となっている。

選択項目	全体			男性			女性			無回答		
	今回		前回									
	回答数	構成比	構成比									
農林漁業	2	0.7%	1.7%	1	0.8%	1.4%	1	0.6%	2.2%	0	0.0%	0.0%
自営業	29	9.7%	7.6%	8	6.4%	4.7%	20	11.8%	10.9%	1	33.3%	0.0%
会社員・公務員・教員・団体職員	131	44.0%	43.4%	19	15.2%	17.6%	112	65.9%	71.7%	0	0.0%	25.0%
パート・アルバイト・家庭内職	43	14.4%	18.3%	36	28.8%	33.8%	6	3.5%	2.2%	1	33.3%	0.0%
専業主婦・専業主夫	32	10.7%	11.4%	26	20.8%	19.6%	5	2.9%	2.9%	1	33.3%	0.0%
学生	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
無職	59	19.8%	17.6%	33	26.4%	22.9%	26	15.3%	10.1%	0	0.0%	75.0%
無回答	2	0.7%	0.0%	2	1.6%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	298	100.0%	100.0%	125	100.0%	100.0%	170	100.0%	100.0%	3	100.0%	100.0%



F10 - 参考 -

【共働き・今回】

選択項目	回答数	共働き世帯	
		回答数	構成比
結婚している・パートナーと暮らしている	296	205	69.3%
子どもがいる人	278	193	69.4%
子どもがいない人	18	12	66.7%

【共働き・前回】

選択項目	回答数	共働き世帯	
		回答数	構成比
結婚している・パートナーと暮らしている	290	206	71.0%
子どもがいる人	262	182	69.5%
子どもがいない人	28	24	85.7%

## (2) 男女平等の意識

【問1】あなたは、各分野における男女平等についてどのように思いますか。

「男性の方が非常に優遇されている」では、「(エ)政治の場」で割合が28.6%と最も高い。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」では、「(イ)職場」「(エ)政治の場」「(カ)社会通念・慣習・しきたり」「(キ)社会全体」で割合が最も高く、「男性の方が非常に優遇されている」を合わせると約6割から7割となっており、前回調査とほぼ同様の結果となっている。これに対し、「平等」では、「(ア)家庭生活」「(ウ)学校教育」「(オ)法律や制度の上」で割合が最も高く、こちらも前回調査とほぼ同様の結果となっている。

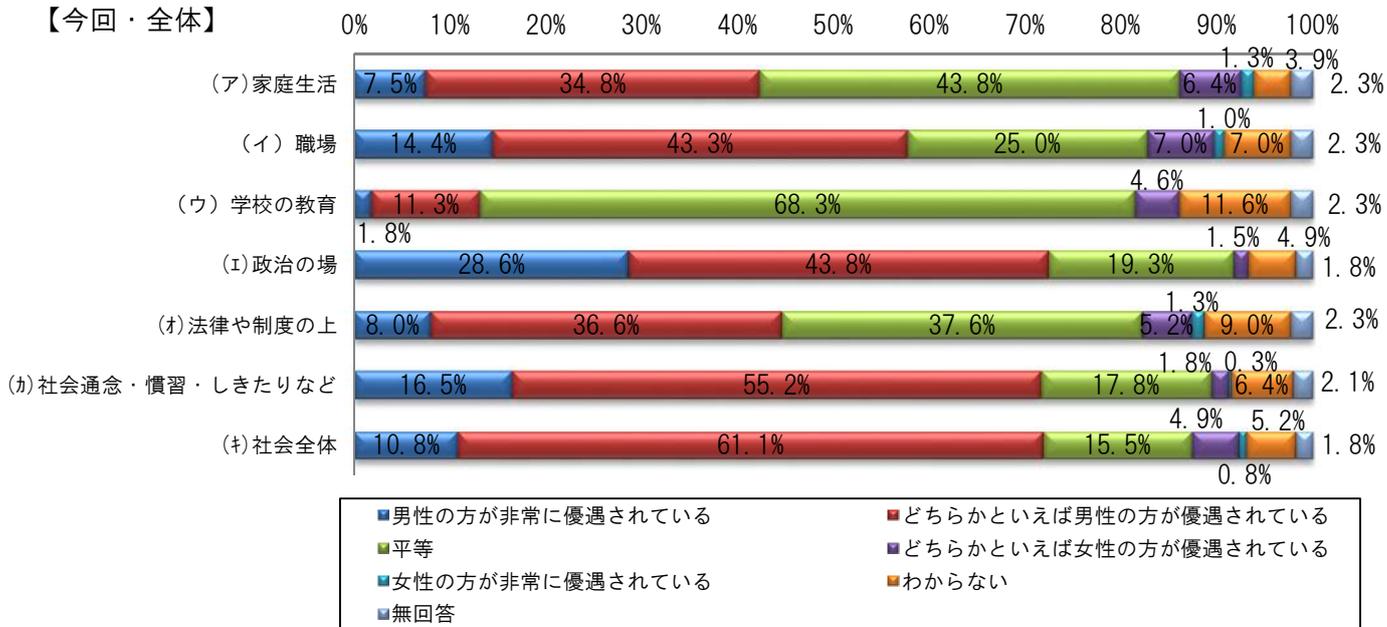
【今回・全体】

選択項目	(7)家庭生活		(イ)職場		(ウ)学校教育の場		(エ)政治の場		(オ)法律や制度上		(カ)社会通念・慣習・しきたりなど		(キ)社会全体	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
男性の方が非常に優遇されている	29	7.5%	56	14.4%	7	1.8%	111	28.6%	31	8.0%	64	16.5%	42	10.8%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	135	34.8%	168	43.3%	44	11.3%	170	43.8%	142	36.6%	214	55.2%	237	61.1%
平等	170	43.8%	97	25.0%	265	68.3%	75	19.3%	146	37.6%	69	17.8%	60	15.5%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	25	6.4%	27	7.0%	18	4.6%	6	1.5%	20	5.2%	7	1.8%	19	4.9%
女性の方が非常に優遇されている	5	1.3%	4	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.3%	1	0.3%	3	0.8%
わからない	15	3.9%	27	7.0%	45	11.6%	19	4.9%	35	9.0%	25	6.4%	20	5.2%
無回答	9	2.3%	9	2.3%	9	2.3%	7	1.8%	9	2.3%	8	2.1%	7	1.8%
計	388	100.0%	388	100.0%	388	100.0%	388	100.0%	388	100.0%	388	100.0%	388	100.0%

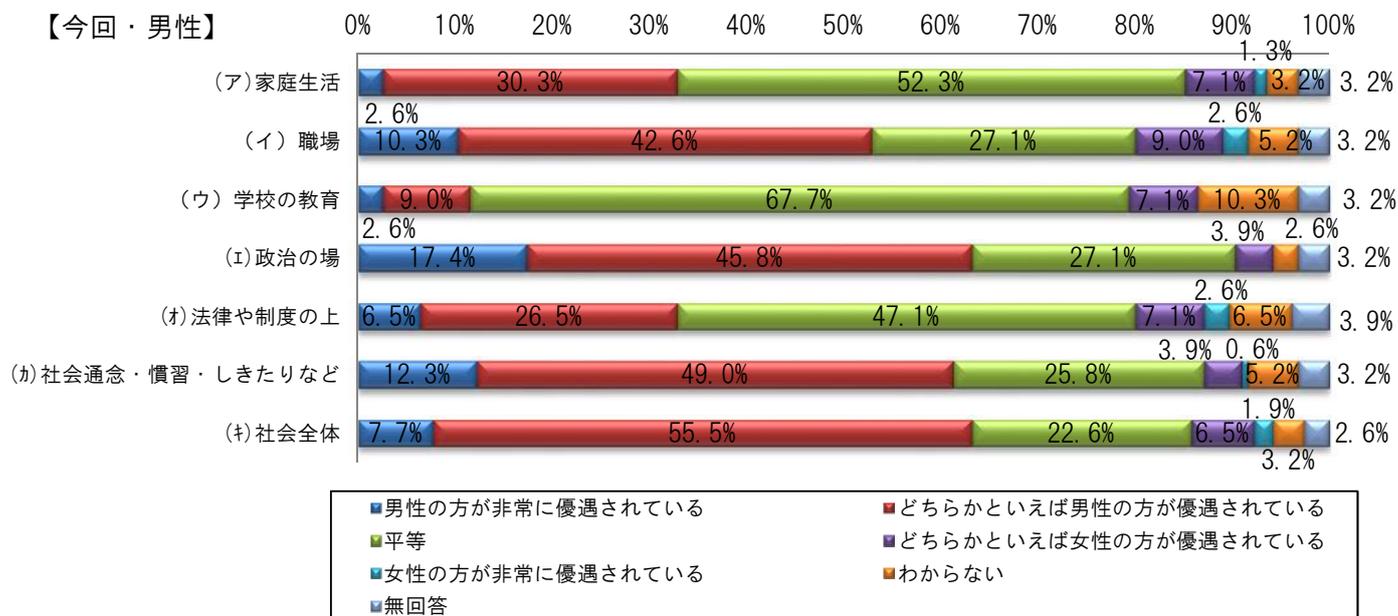
【前回・全体】

選択項目	(7)家庭生活		(イ)職場		(ウ)学校教育の場		(エ)政治の場		(オ)法律や制度の上		(カ)社会通念・慣習・しきたりなど		(キ)社会全体	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
男性の方が非常に優遇されている	20	5.2%	44	11.5%	4	1.0%	83	21.6%	24	6.3%	65	16.9%	38	9.9%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	130	33.9%	184	47.9%	50	13.0%	190	49.5%	129	33.6%	219	57.0%	229	59.7%
平等	179	46.6%	103	26.8%	246	64.1%	64	16.7%	144	37.5%	44	11.5%	56	14.6%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	22	5.7%	15	3.9%	10	2.6%	2	0.5%	22	5.7%	12	3.1%	14	3.6%
女性の方が非常に優遇されている	5	1.3%	4	1.0%	2	0.5%	1	0.3%	4	1.0%	1	0.3%	0	0.0%
わからない	18	4.7%	21	5.5%	52	13.5%	32	8.3%	49	12.8%	31	8.1%	33	8.6%
無回答	10	2.6%	13	3.4%	20	5.2%	12	3.1%	12	3.1%	12	3.1%	14	3.6%
計	384	100.0%	384	100.0%	384	100.0%	384	100.0%	384	100.0%	384	100.0%	384	100.0%

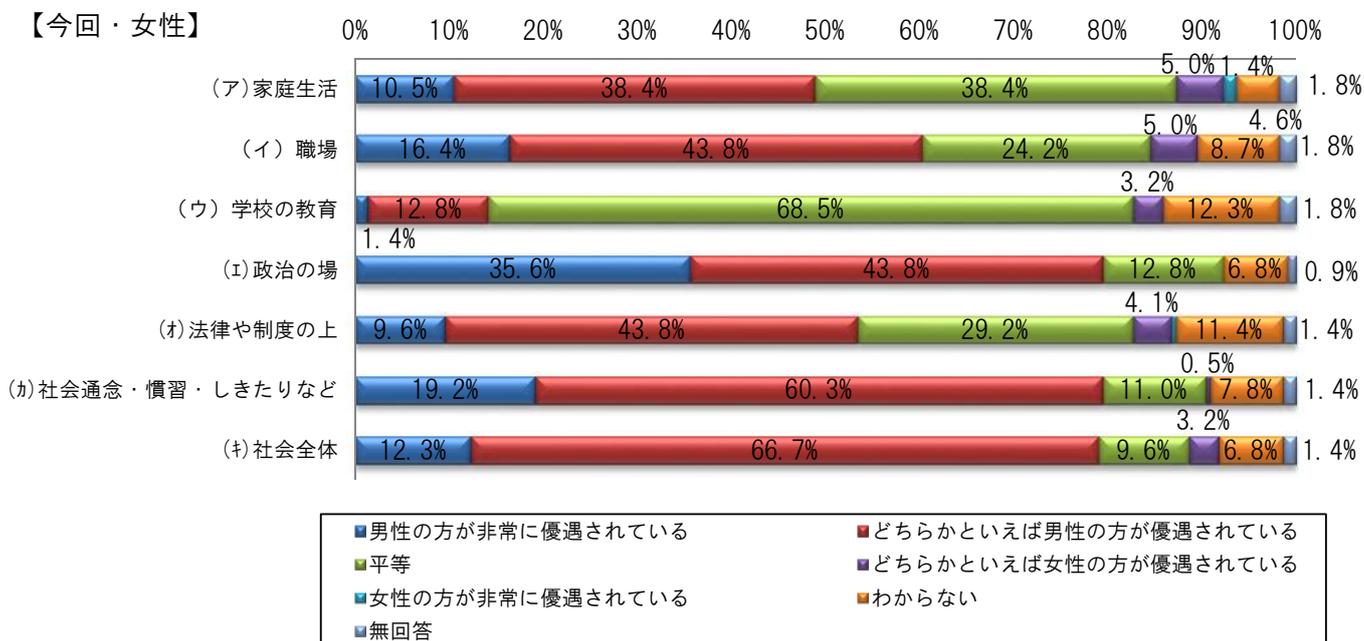
【今回・全体】



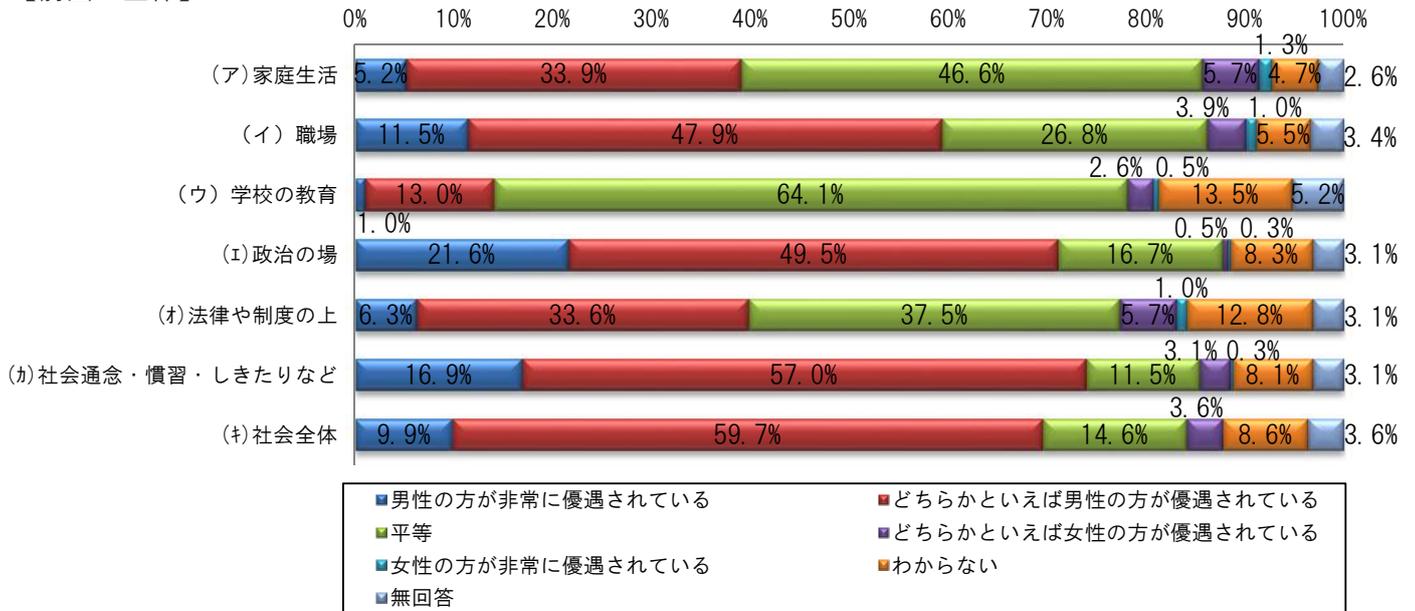
【今回・男性】



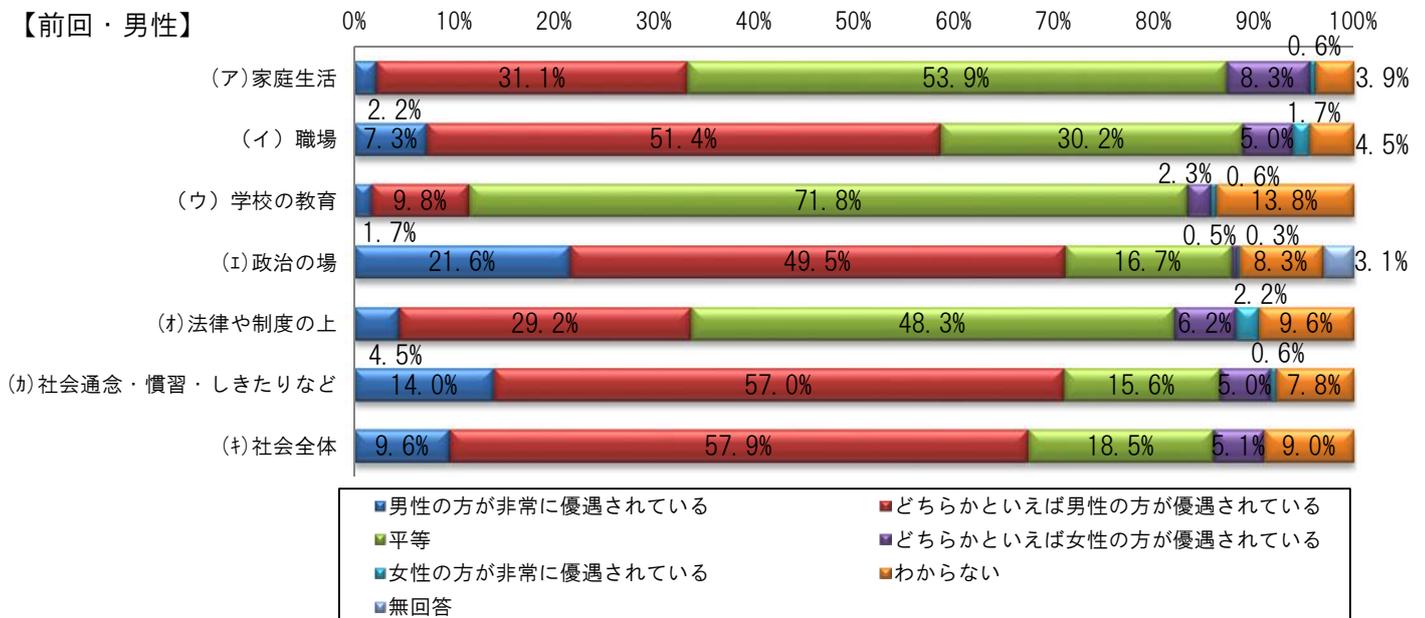
【今回・女性】



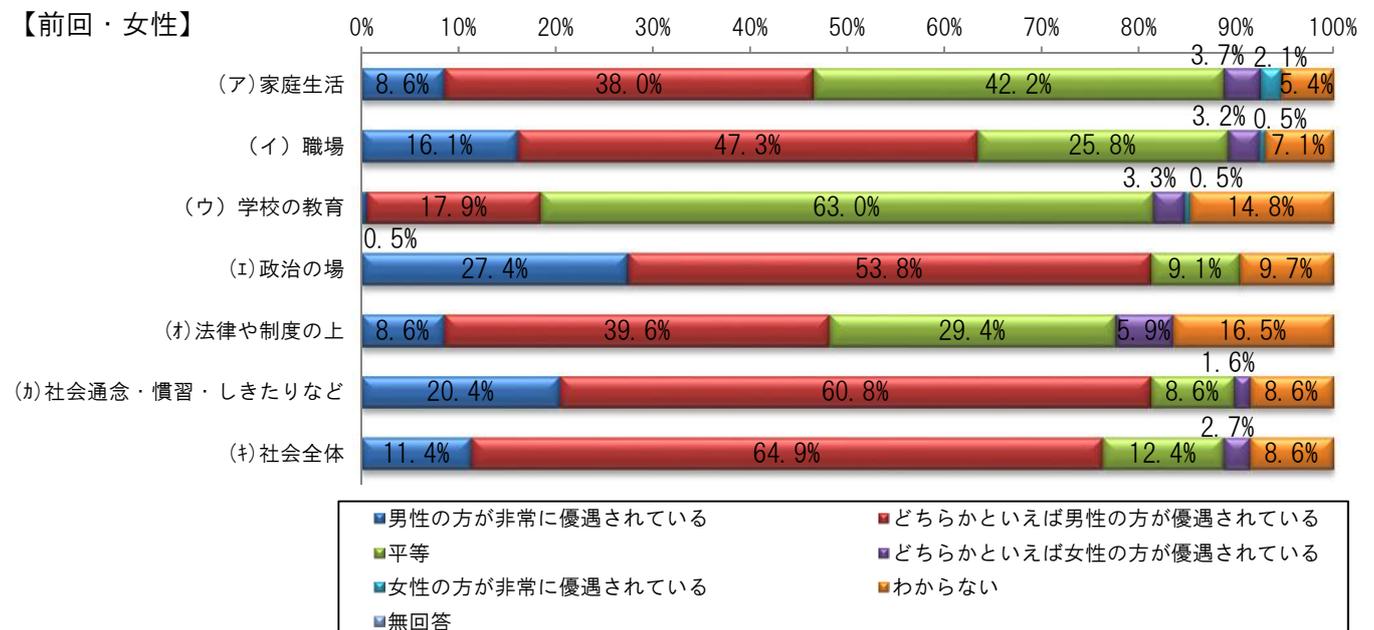
【前回・全体】



【前回・男性】



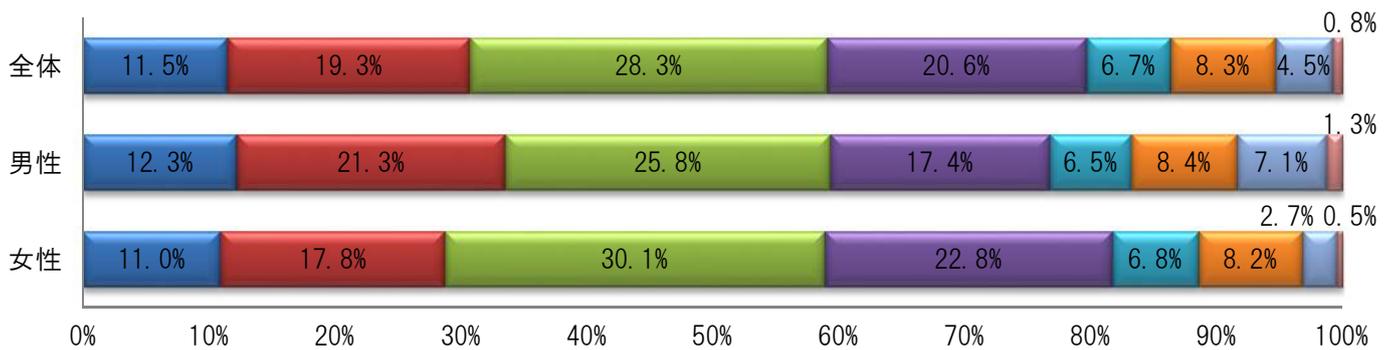
【前回・女性】



【問2】あなたは、社会全体で男女がもっと平等になるために、最も必要だと思うことは何ですか。

「男女が、それぞれの個性と能力を發揮できるよう、女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」の割合が最も高くなっている。前回調査と比較して「法律や制度上での見直しを行い、男女差別につながるものを改めること」が「全体」で8ポイント低くしている。

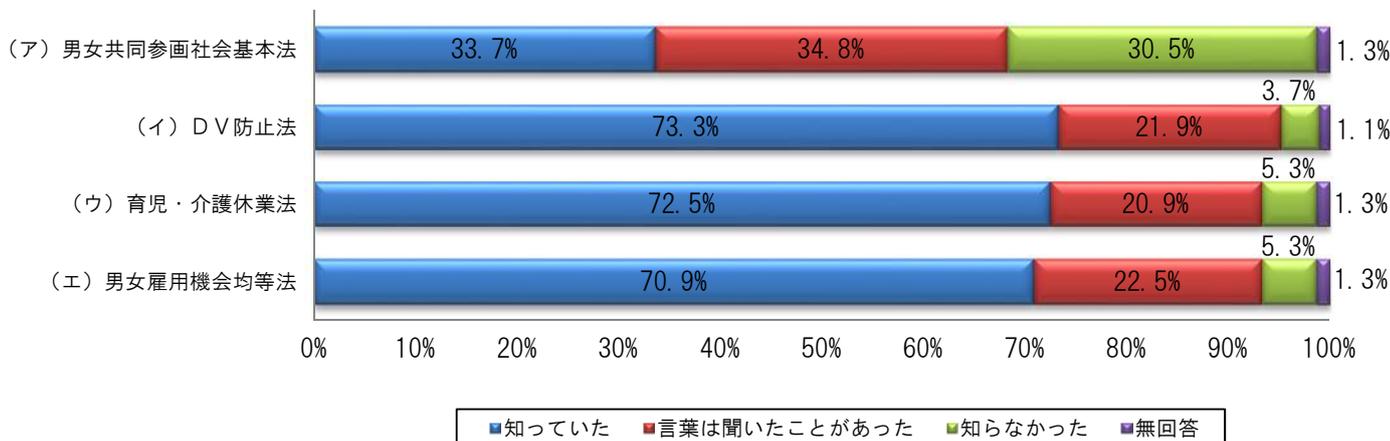
選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
法律や制度上での見直しを行い、男女差別につながるものを改めること	43	11.5%	19.5%	19	12.3%	16.9%	24	11.0%	23.0%
「男は仕事」「女は家庭」といった、固定的な社会通念、しきたりを改めること	72	19.3%	11.5%	33	21.3%	16.4%	39	17.8%	7.3%
男女が、それぞれの個性と能力を發揮できるよう、女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	106	28.3%	24.0%	40	25.8%	23.5%	66	30.1%	24.6%
男女の就業機会や社会参加の機会が平等に確保されるよう、支援する施設やサービスの充実を図ること	77	20.6%	23.7%	27	17.4%	23.0%	50	22.8%	23.6%
政府や、企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	25	6.7%	7.8%	10	6.5%	7.1%	15	6.8%	7.9%
わからない	31	8.3%	7.6%	13	8.4%	8.2%	18	8.2%	7.3%
その他	17	4.5%	3.4%	11	7.1%	4.4%	6	2.7%	2.6%
無回答	3	0.8%	2.6%	2	1.3%	0.5%	1	0.5%	3.7%
計	374	100.0%	100.0%	155	100.0%	100.0%	219	100.0%	100.0%



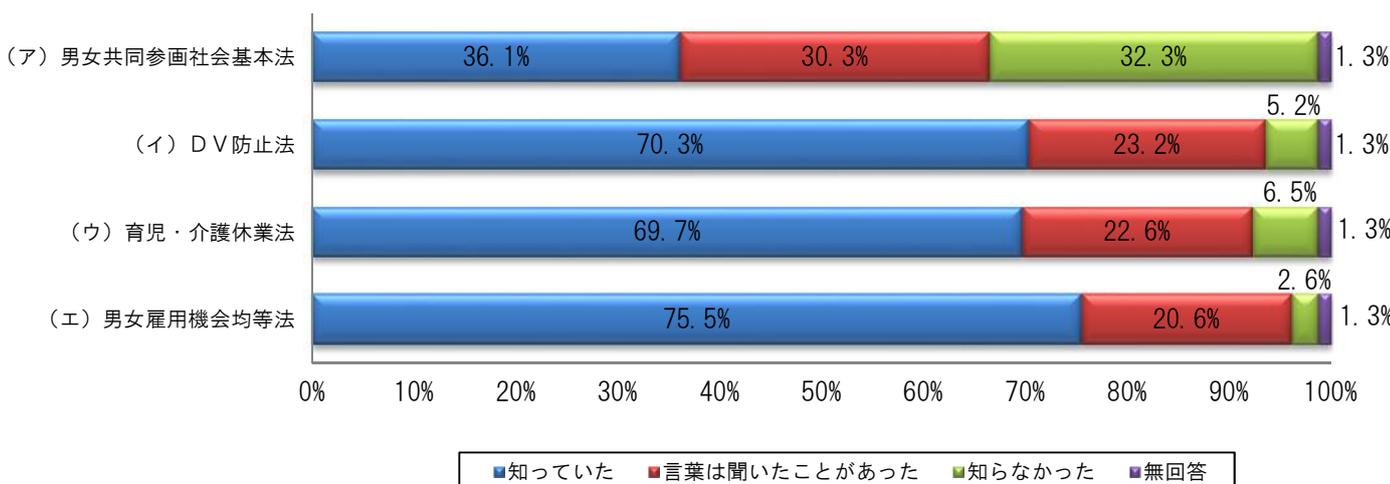
【問3】男女が、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて、近年、様々な法整備がなされてきましたが、次の法律等についてご存知ですか。

「(イ)DV防止法」、「(ウ)育児・介護休業法」、「(エ)男女雇用機会均等法」については、「知っていた」が約7割以上と多く、「(ア)男女共同参画社会基本法」は、「知っていた」が他の法律に比べ33.7%と少なく、前回調査と同様の結果であった。

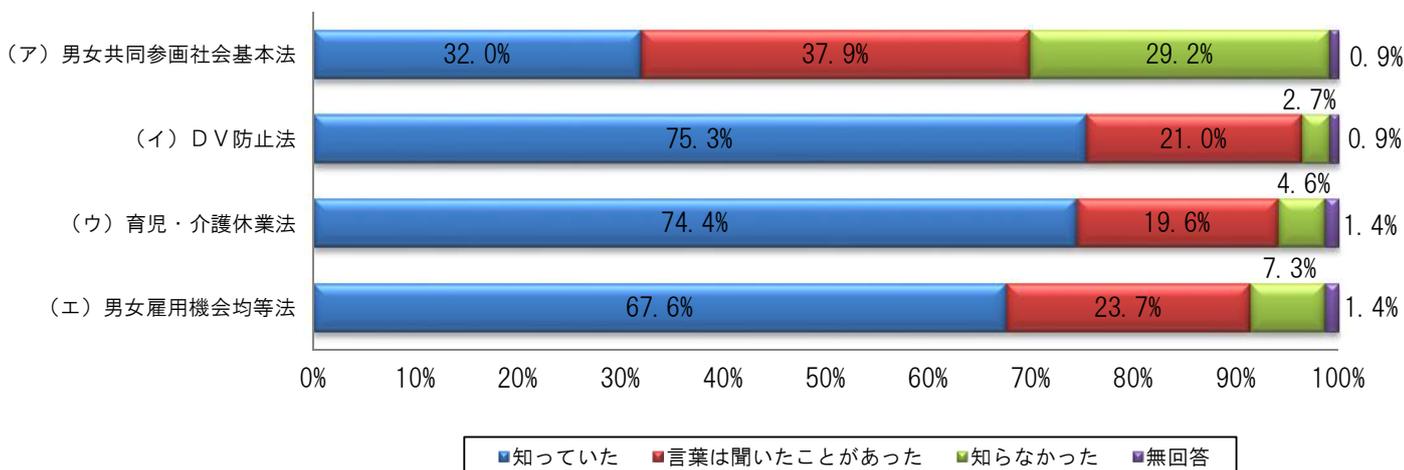
【全体】



【男性】



【女性】

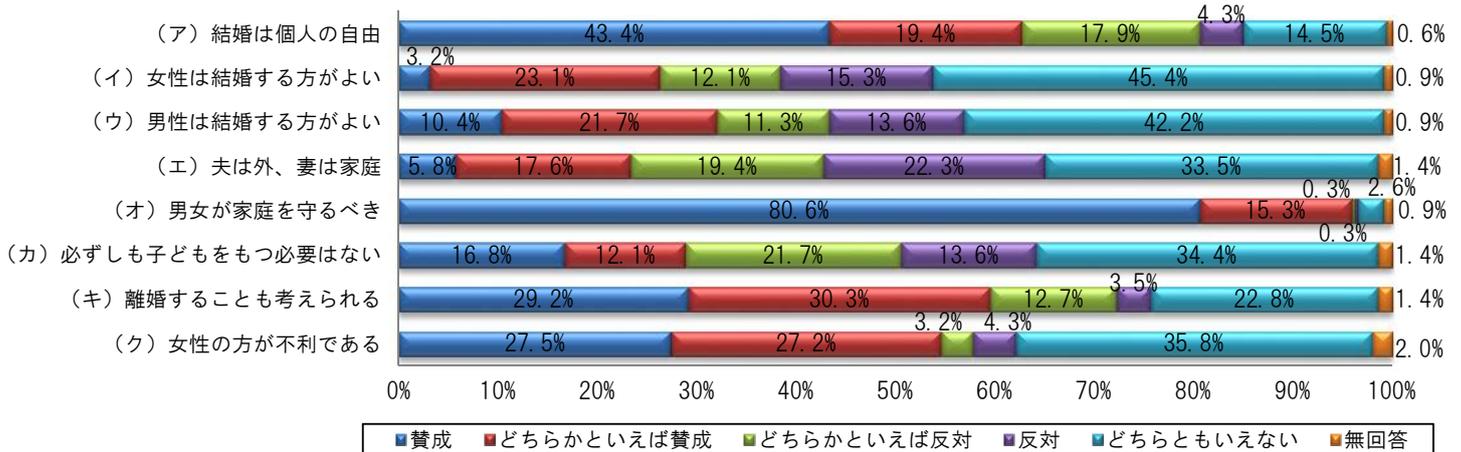


### (3) 結婚観、家庭生活

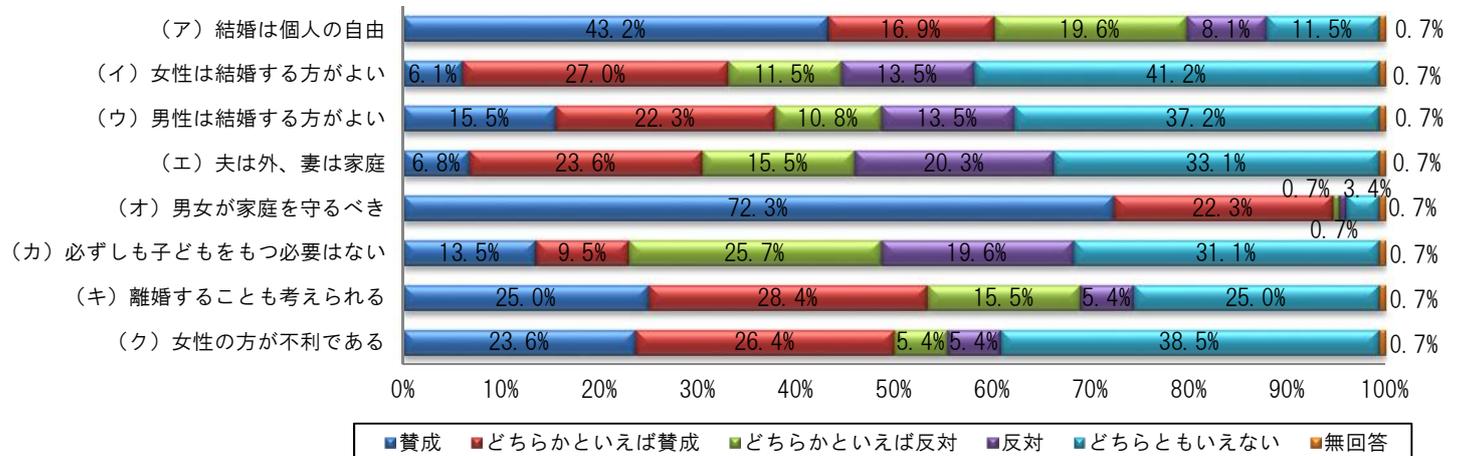
【問4】あなたは、結婚、家庭、離婚について、どのようにお考えですか。

結婚については「個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」が、「賛成」「どちらかといえば賛成」合わせて5割を超えている。家庭については、「(オ) 男女がお互いに協力し合い、家庭を守るべきである」は「賛成」「どちらかといえば賛成」合わせて9割を超えている。また、「(エ) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」では、女性は男性に比べ「反対」が多く、「どちらかといえば反対」を合わせると45.9%であった。

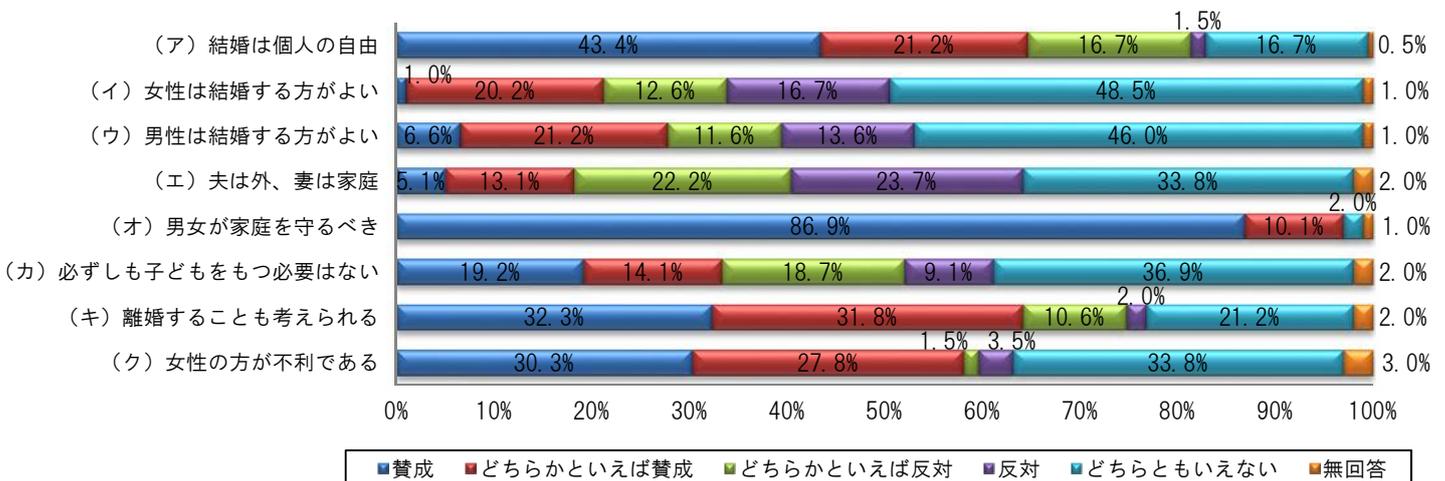
#### 【全体】



#### 【男性】



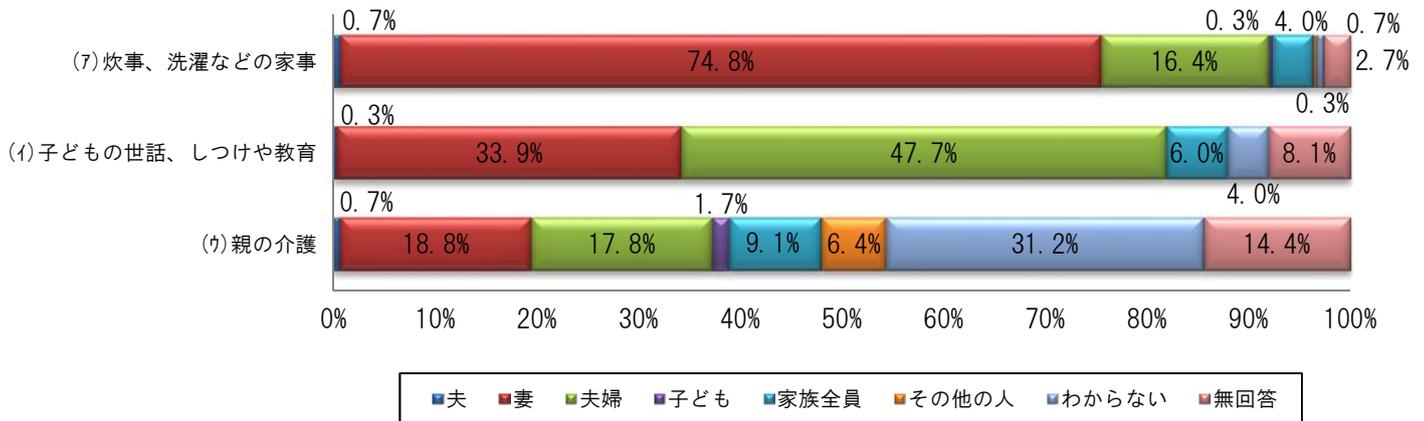
#### 【女性】



【問5】あなたのご家庭では、家事等は主に誰が分担していますか。（配偶者がいる方のみ回答）

「(ア)炊事、洗濯などの家事」については、「妻」が74.8%と最も多くなっている。「(イ)子どもの世話、しつけや教育」「(ウ)親の介護」では、「夫婦」の割合が前回調査より高くなっている。

選択項目	(ア)炊事、洗濯などの家事			(イ)子どもの世話、しつけや教育			(ウ)親の介護		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
夫	2	0.7%	1.4%	1	0.3%	0.3%	2	0.7%	1.0%
妻	223	74.8%	74.8%	101	33.9%	38.3%	56	18.8%	16.9%
夫婦	49	16.4%	16.2%	142	47.7%	41.7%	53	17.8%	14.8%
子ども	1	0.3%	0.7%	0	0.0%	0.3%	5	1.7%	0.7%
家族全員	12	4.0%	5.5%	18	6.0%	6.6%	27	9.1%	10.0%
その他の人	1	0.3%	0.7%	0	0.0%	0.3%	19	6.4%	7.2%
わからない	2	0.7%	0.0%	12	4.0%	5.2%	93	31.2%	33.8%
無回答	8	2.7%	0.7%	24	8.1%	7.2%	43	14.4%	15.5%
計	298	100.0%	100.0%	298	100.0%	100.0%	298	100.0%	100.0%

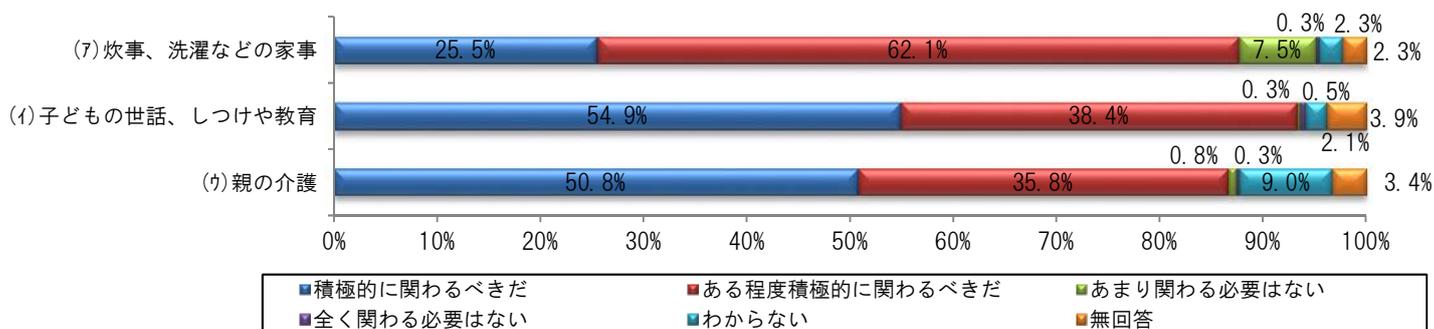


【問6】あなたは家庭における役割について、男性がどの程度関わるべきだと思いますか。

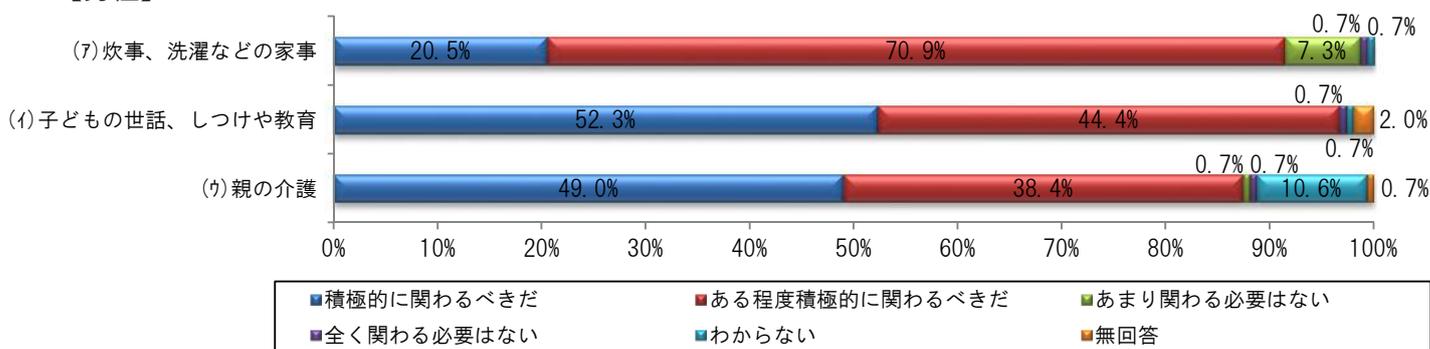
「(ア)炊事、洗濯などの家事」では、「ある程度積極的に関わるべきだ」が62.1%と最も多く、「積極的に関わるべきだ」を合わせると8割を超えている。「(イ)子どもの世話、しつけや教育」「(ウ)親の介護」では、「積極的に関わるべきだ」が最も多く5割を超えており、男性が積極的に関わることを望む傾向がみられている。

選択項目	(ア)炊事、洗濯などの家事			(イ)子どもの世話、しつけや教育			(ウ)親の介護		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
積極的に関わるべきだ	99	25.5%	27.6%	213	54.9%	57.8%	197	50.8%	51.3%
ある程度積極的に関わるべきだ	241	62.1%	60.7%	149	38.4%	35.9%	139	35.8%	37.8%
あまり関わる必要はない	29	7.5%	6.8%	1	0.3%	2.1%	3	0.8%	1.0%
全く関わる必要はない	1	0.3%	1.0%	2	0.5%	0.0%	1	0.3%	0.3%
わからない	9	2.3%	1.3%	8	2.1%	1.3%	35	9.0%	5.2%
無回答	9	2.3%	2.6%	15	3.9%	2.9%	13	3.4%	4.4%
計	388	100.0%	100.0%	388	100.0%	100.0%	388	100.0%	100.0%

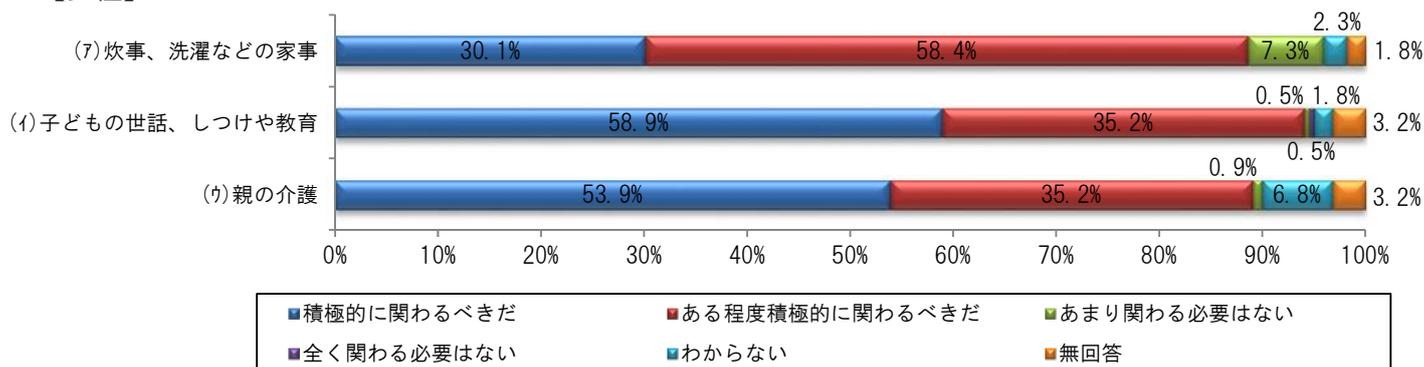
【全体】



【男性】



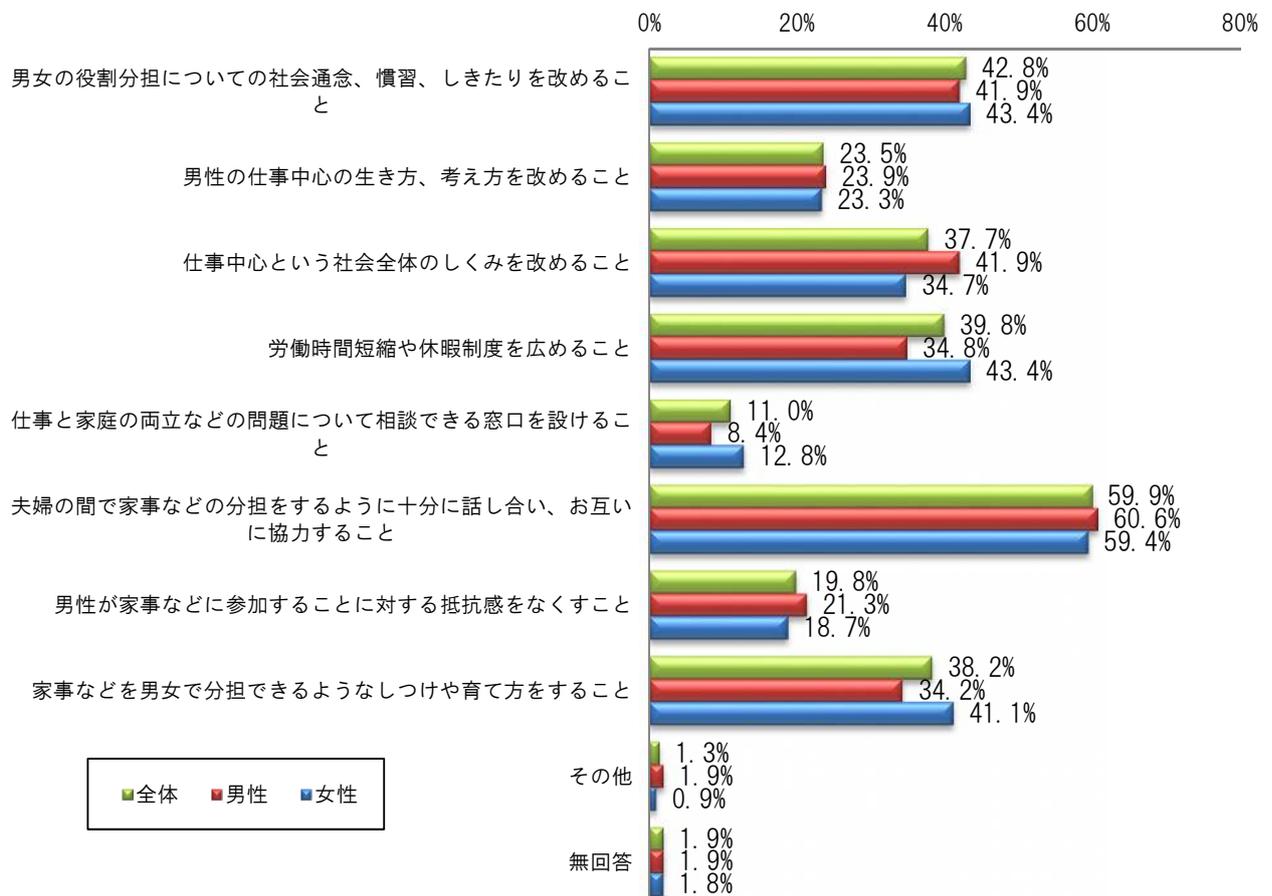
【女性】



【問7】あなたは、今後、男女がともに家事、子育てや教育、介護など家庭での活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だとお考えですか。（3つ以内）

「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合い、お互いに協力すること」が「全体」で59.9%と最も多く、次いで、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が前回調査より増加している。

選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	160	42.8%	36.2%	65	41.9%	35.0%	95	43.4%	38.2%
男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	88	23.5%	21.4%	37	23.9%	21.3%	51	23.3%	22.0%
仕事中心という社会全体のしきみを改めること	141	37.7%	37.5%	65	41.9%	40.4%	76	34.7%	35.1%
労働時間短縮や休暇制度を広めること	149	39.8%	38.5%	54	34.8%	40.4%	95	43.4%	36.6%
仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	41	11.0%	11.7%	13	8.4%	9.3%	28	12.8%	14.1%
夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合い、お互いに協力すること	224	59.9%	57.8%	94	60.6%	54.1%	130	59.4%	61.8%
男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	74	19.8%	22.9%	33	21.3%	20.2%	41	18.7%	26.2%
家事などを男女で分担できるようなしつけや育て方をすること	143	38.2%	38.3%	53	34.2%	38.3%	90	41.1%	38.2%
その他	5	1.3%	1.8%	3	1.9%	2.2%	2	0.9%	1.6%
無回答	7	1.9%	2.6%	3	1.9%	3.8%	4	1.8%	1.0%
計	1,032	275.9%	268.8%	420	271.0%	265.0%	612	279.5%	274.9%
回答者数	374	-	-	155	-	-	219	-	-

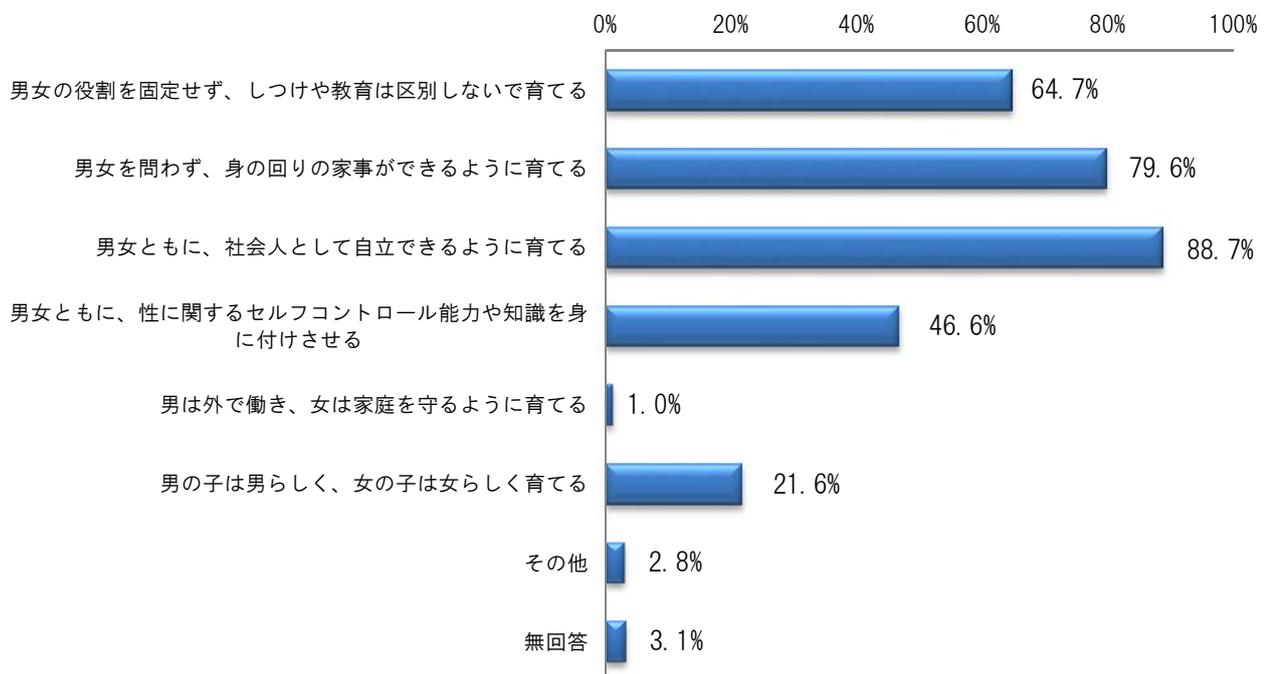


## (4) 教育

【問8】あなたは、家庭で子どもを育てる場合、どのように育てたいと思いますか。お子さんがいらっしゃる場合も、いと仮定してお答えください。(あてはまるものすべて)

「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」が88.7%と最も多く、次いで「男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てる」「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」となっており、前回調査と同様の結果となっている。

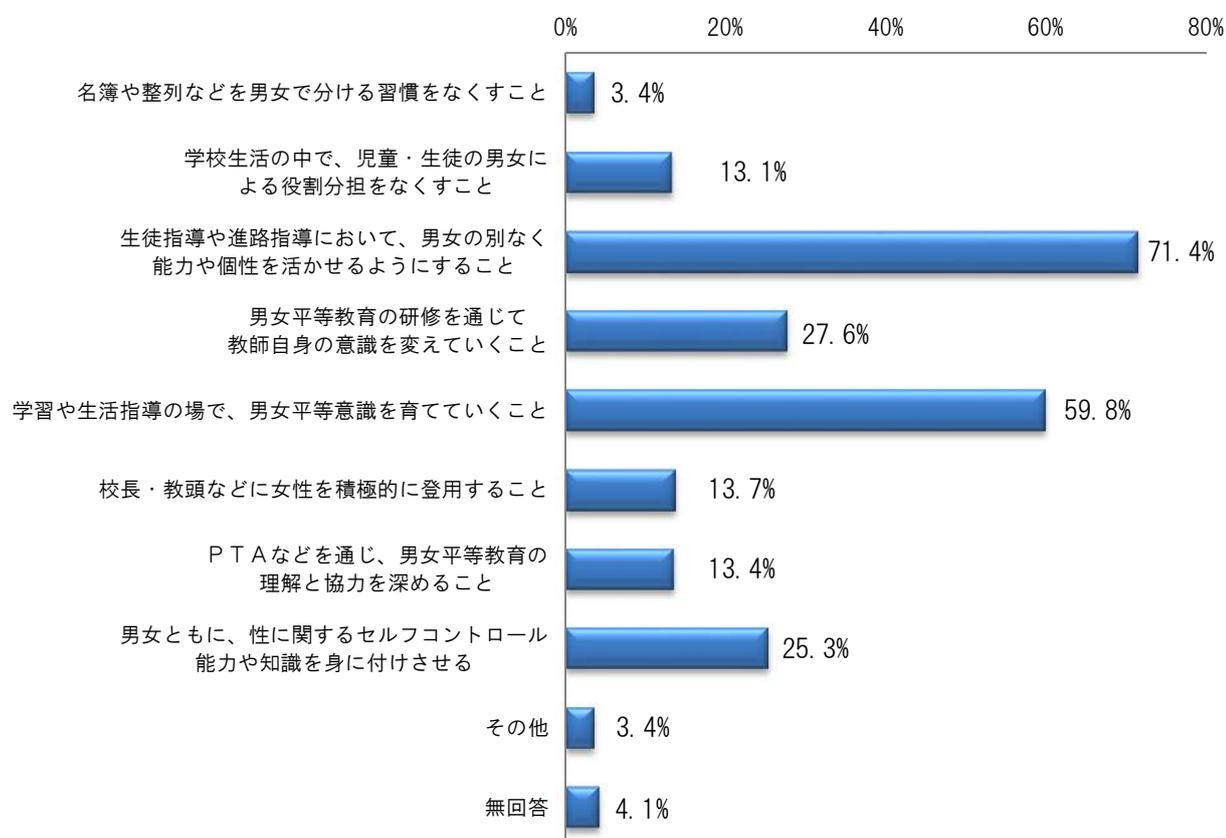
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる	251	64.7%	65.4%
男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てる	309	79.6%	76.8%
男女ともに、社会人として自立できるように育てる	344	88.7%	89.6%
男女ともに、性に関するセルフコントロール能力や知識を身に付けさせる	181	46.6%	45.1%
男は外で働き、女は家庭を守るように育てる	4	1.0%	2.3%
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	84	21.6%	24.5%
その他	11	2.8%	1.6%
無回答	12	3.1%	1.0%
計	1,196	308.2%	306.3%
回答者数	388	-	-



【問9】あなたは、男女共同参画社会を形成するために、学校教育の場で必要なことは何だと思いますか。  
(3つ以内)

「生徒指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにすること」が71.4%と最も多く、次いで「学習や生活指導の場で、男女平等意識を育てていくこと」となっているが、「学校生活の中で、児童・生徒の男女による役割分担をなくすこと」が前回より減少している。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
名簿や整列などを男女で分ける習慣をなくすこと	13	3.4%	5.7%
学校生活の中で、児童・生徒の男女による役割分担をなくすこと	51	13.1%	24.2%
生徒指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにすること	277	71.4%	64.6%
男女平等教育の研修を通じて教師自身の意識を変えていくこと	107	27.6%	25.8%
学習や生活指導の場で、男女平等意識を育てていくこと	232	59.8%	57.6%
校長・教頭などに女性を積極的に登用すること	53	13.7%	15.4%
P T Aなどを通じ、男女平等教育の理解と協力を深めること	52	13.4%	9.9%
男女ともに、性に関するセルフコントロール能力や知識を身に付けさせる	98	25.3%	29.4%
その他	13	3.4%	1.8%
無回答	16	4.1%	5.2%
計	912	235.1%	239.6%
回答者数	388	-	-

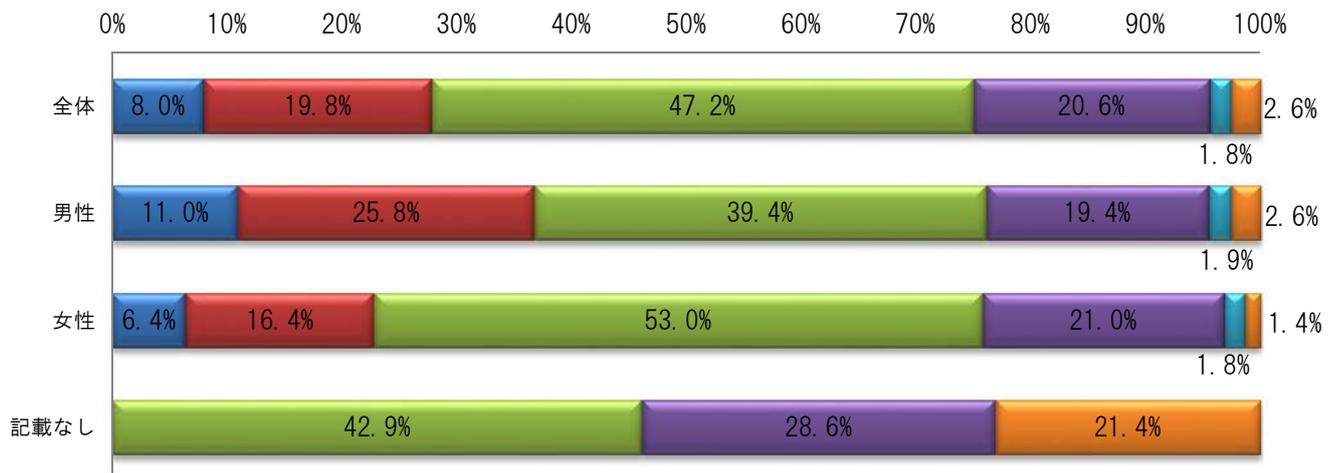


## (5) 高齢社会

【問10】あなたは、将来自分自身の介護が必要になった場合、どのように世話をしてもらいたいですか。

「主にデイサービスやヘルパーなどの社会支援を利用し、家族には負担にならない程度に世話をしてもらいたい」が「全体」で47.2%と最も多くなっている。前回調査と比べ、女性の「主に家族に世話をしてもらい、必要な場合はデイサービスなどの社会支援を利用したい」が減少し、「男性」の施設入所を希望する割合が増加している。

選択項目	全体			男性			女性			記載なし	
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回	
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比
家族、親族に世話をしてもらいたい	31	8.0%	9.4%	17	11.0%	13.7%	14	6.4%	5.2%	0	0.0%
主に家族に世話をしてもらい、必要な場合はデイサービスなどの社会支援を利用したい	77	19.8%	22.1%	40	25.8%	24.6%	36	16.4%	20.9%	1	0.0%
主にデイサービスやヘルパーなどの社会支援を利用し、家族には負担にならない程度に世話をしてもらいたい	183	47.2%	43.8%	61	39.4%	39.9%	116	53.0%	46.6%	6	42.9%
特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい	80	20.6%	19.5%	30	19.4%	17.5%	46	21.0%	22.0%	4	28.6%
その他	7	1.8%	2.9%	3	1.9%	3.8%	4	1.8%	1.6%	0	0.0%
無回答	10	2.6%	2.3%	4	2.6%	0.5%	3	1.4%	3.7%	3	21.4%
計	388	100.0%	100.0%	155	100.0%	100.0%	219	100.0%	100.0%	14	100.0%

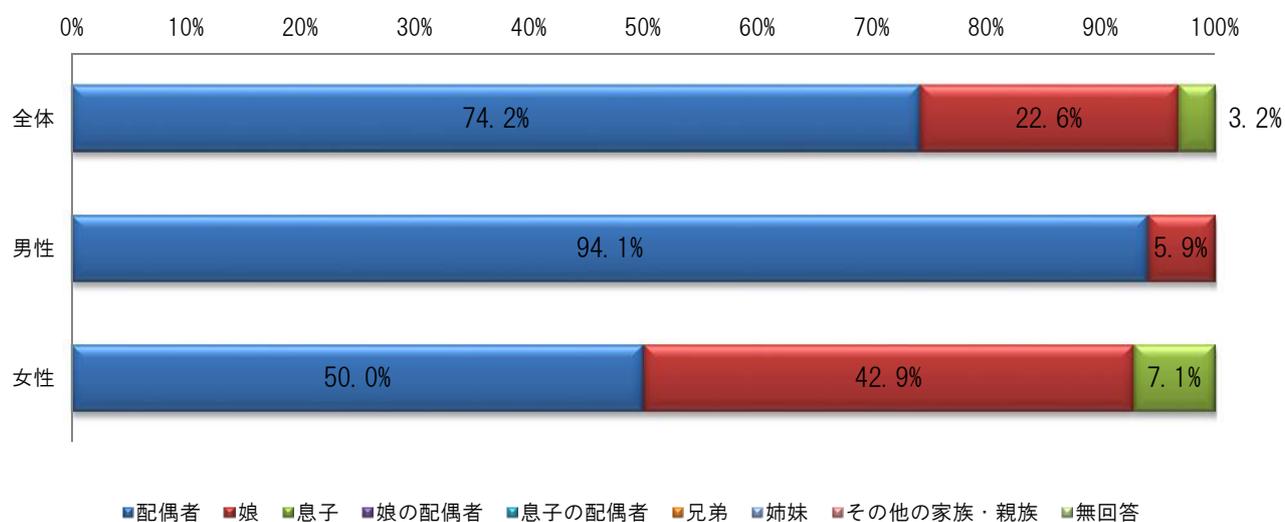


- 家族、親族に世話をしてもらいたい
- 主に家族に世話をしてもらい、必要な場合はデイサービスなどの社会支援を利用したい
- 主にデイサービスやヘルパーなどの社会支援を利用し、家族には負担にならない程度に世話をしてもらいたい
- 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい
- その他
- 無回答

【問10-2】「家族、親族に世話をしてもらいたい」を選ばれた方  
⇒ 誰に世話をしてもらいたいですか。

「配偶者」と回答している方が「全体」で74.2%と最も多く、前回調査に比べ、男女共に「配偶者」の比率が大幅に増加している。

選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
配偶者	23	74.2%	58.3%	16	94.1%	72.0%	7	50.0%	30.0%
娘	7	22.6%	19.4%	1	5.9%	16.0%	6	42.9%	30.0%
息子	1	3.2%	5.6%	0	0.0%	0.0%	1	7.1%	20.0%
娘の配偶者	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
息子の配偶者	0	0.0%	2.8%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	10.0%
兄弟	0	0.0%	8.3%	0	0.0%	8.0%	0	0.0%	10.0%
姉妹	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
その他の家族・親族	0	0.0%	2.8%	0	0.0%	4.0%	0	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	2.8%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	31	100.0%	100.0%	17	100.0%	100.0%	14	100.0%	100.0%



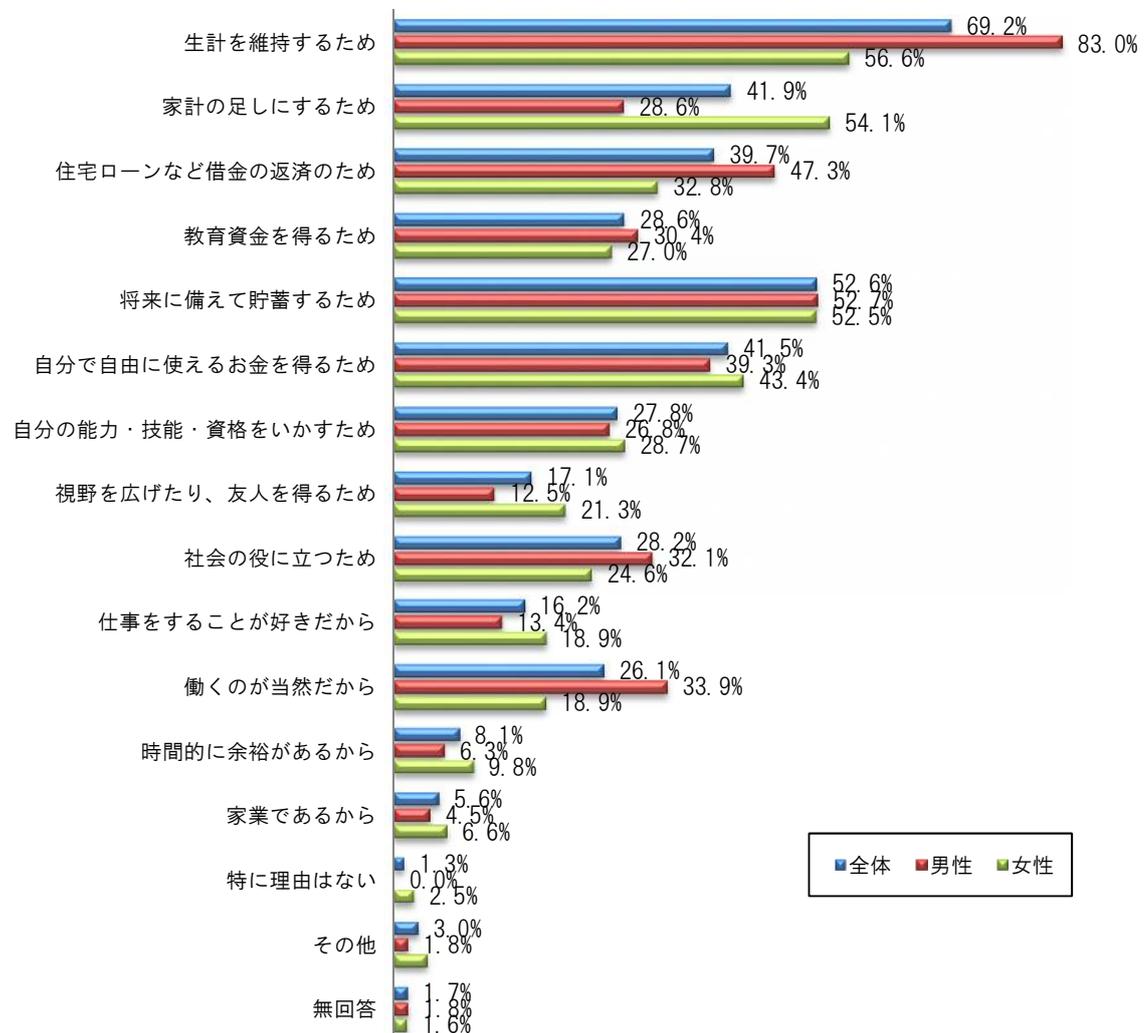
## (6) 職業

### 【問11】職業をお持ちの方

⇒ あなたが現在働いているのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべて)

「生計を維持するため」が「全体」では69.2%と最も多く、次いで、「将来に備えて貯蓄するため」、「自分で自由に使えるお金を得るため」「家計の足しにするため」となっている。前回調査と比べ「女性」では「住宅ローンなど借金の返済のため」が増加するなど、家計のための理由が増加している。

選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
生計を維持するため	162	69.2%	74.5%	93	83.0%	84.3%	69	56.6%	61.7%
家計の足しにするため	98	41.9%	36.4%	32	28.6%	25.7%	66	54.1%	50.5%
住宅ローンなど借金の返済のため	93	39.7%	31.6%	53	47.3%	37.1%	40	32.8%	24.3%
教育資金を得るため	67	28.6%	23.1%	34	30.4%	26.4%	33	27.0%	18.7%
将来に備えて貯蓄するため	123	52.6%	46.6%	59	52.7%	45.7%	64	52.5%	47.7%
自分で自由に使えるお金を得るため	97	41.5%	38.5%	44	39.3%	29.3%	53	43.4%	50.5%
自分の能力・技能・資格をいかすため	65	27.8%	26.3%	30	26.8%	27.1%	35	28.7%	25.2%
視野を広げたり、友人を得るため	40	17.1%	19.8%	14	12.5%	13.6%	26	21.3%	28.0%
社会の役に立つため	66	28.2%	27.5%	36	32.1%	29.3%	30	24.6%	25.2%
仕事をすることが好きだから	38	16.2%	16.2%	15	13.4%	12.1%	23	18.9%	21.5%
働くのが当然だから	61	26.1%	32.8%	38	33.9%	37.9%	23	18.9%	26.2%
時間的に余裕があるから	19	8.1%	9.3%	7	6.3%	7.1%	12	9.8%	12.1%
家業であるから	13	5.6%	5.3%	5	4.5%	5.0%	8	6.6%	5.6%
特に理由はない	3	1.3%	1.2%	0	0.0%	0.7%	3	2.5%	1.9%
その他	7	3.0%	2.4%	2	1.8%	1.4%	5	4.1%	3.7%
無回答	4	1.7%	2.8%	2	1.8%	4.3%	2	1.6%	0.9%
計	956	408.5	394.3	464	414.3	387.1	492	403.3	403.7
回答者数	234	-	-	112	-	-	122	-	-



【問12】職業をお持ちの方

⇒ あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性と男性の差別はあると思われますか。

「そのようなことはないと思う」が「全体」で 61.5%となっている。前回調査と比べ、「差別されていると思う」では、「男性」で13ポイント減少し、女性では8.7ポイント増加している。

選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
差別されていると思う	57	24.4%	27.9%	27	24.1%	37.1%	30	24.6%	15.9%
そのようなことはないと思う	144	61.5%	56.7%	66	58.9%	48.6%	78	63.9%	67.3%
わからない	25	10.7%	10.5%	16	14.3%	8.6%	9	7.4%	13.1%
無回答	8	3.4%	4.9%	3	2.7%	5.7%	5	4.1%	3.7%
計	234	100.0%	100.0%	112	100.0%	100.0%	122	100.0%	100.0%



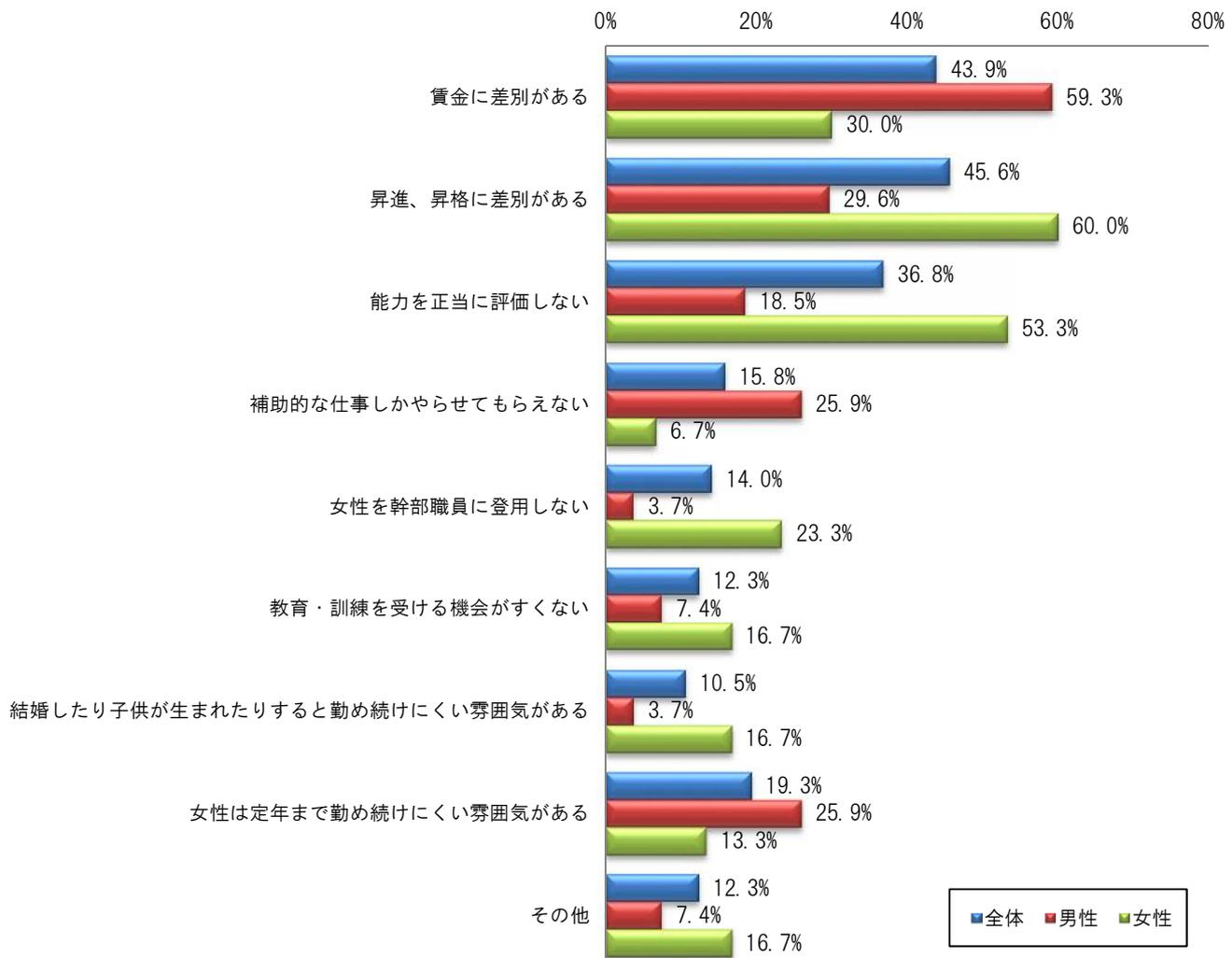
■ 差別されていると思う ■ そのようなことはないと思う ■ わからない ■ 無回答

【問12-2】「差別されていると思う」を選ばれた方

⇒ それは具体的にどのようなことですか。(3つ以内)

「昇進、昇格に差別がある」が「全体」で45.6%と最も多く、次いで「賃金に差別がある」となっている。特に、「女性」では、「昇進、昇格に差別がある」「賃金に差別がある」「能力を正当に評価しない」については5割以上と多く、前回同様の結果となっている。

選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
賃金に差別がある	25	43.9%	46.4%	16	59.3%	40.4%	9	30.0%	52.9%
昇進、昇格に差別がある	26	45.6%	52.2%	8	29.6%	44.2%	18	60.0%	64.7%
能力を正当に評価しない	21	36.8%	30.4%	5	18.5%	21.2%	16	53.3%	52.9%
補助的な仕事しかやらせてもらえない	9	15.8%	10.1%	7	25.9%	9.6%	2	6.7%	11.8%
女性を幹部職員に登用しない	8	14.0%	21.7%	1	3.7%	23.1%	7	23.3%	17.6%
教育・訓練を受ける機会がすくない	7	12.3%	15.9%	2	7.4%	17.3%	5	16.7%	11.8%
結婚したり子供が生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	6	10.5%	34.8%	1	3.7%	34.6%	5	16.7%	35.3%
女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	11	19.3%	11.6%	7	25.9%	11.5%	4	13.3%	5.9%
その他	7	12.3%	7.2%	2	7.4%	9.6%	5	16.7%	0.0%
計	120	210.5%	230.4%	49	181.5%	211.5%	71	236.7%	252.9%
回答者数	57	-	-	27	-	-	30	-	-

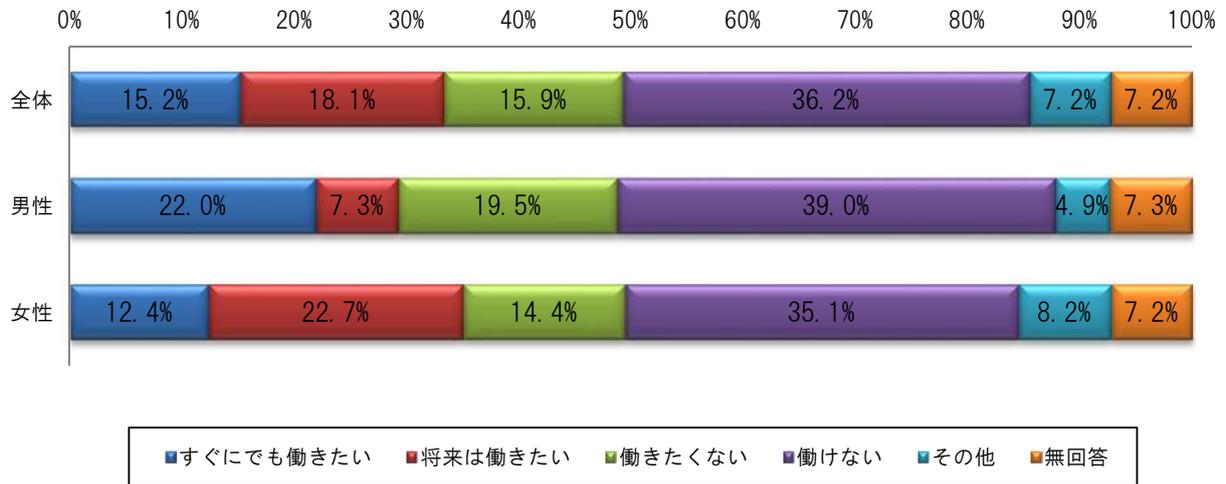


【問13】職業をお持ちでない方

⇒ あなたは働きたいとお考えですか。

「働けない」が「全体」で36.2%と最も多く、特に「男性」で39.0%と多くなっている。

選択項目	全体			男			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
すぐにも働きたい	21	15.2%	15.4%	9	22.0%	18.6%	12	12.4%	11.9%
将来は働きたい	25	18.1%	17.7%	3	7.3%	11.6%	22	22.7%	21.4%
働きたくない	22	15.9%	13.1%	8	19.5%	18.6%	14	14.4%	10.7%
働けない	50	36.2%	33.1%	16	39.0%	25.6%	34	35.1%	36.9%
その他	10	7.2%	13.1%	2	4.9%	20.9%	8	8.2%	9.5%
無回答	10	7.2%	7.7%	3	7.3%	4.7%	7	7.2%	9.5%
計	138	100.0%	100.0%	41	100.0%	100.0%	97	100.0%	100.0%

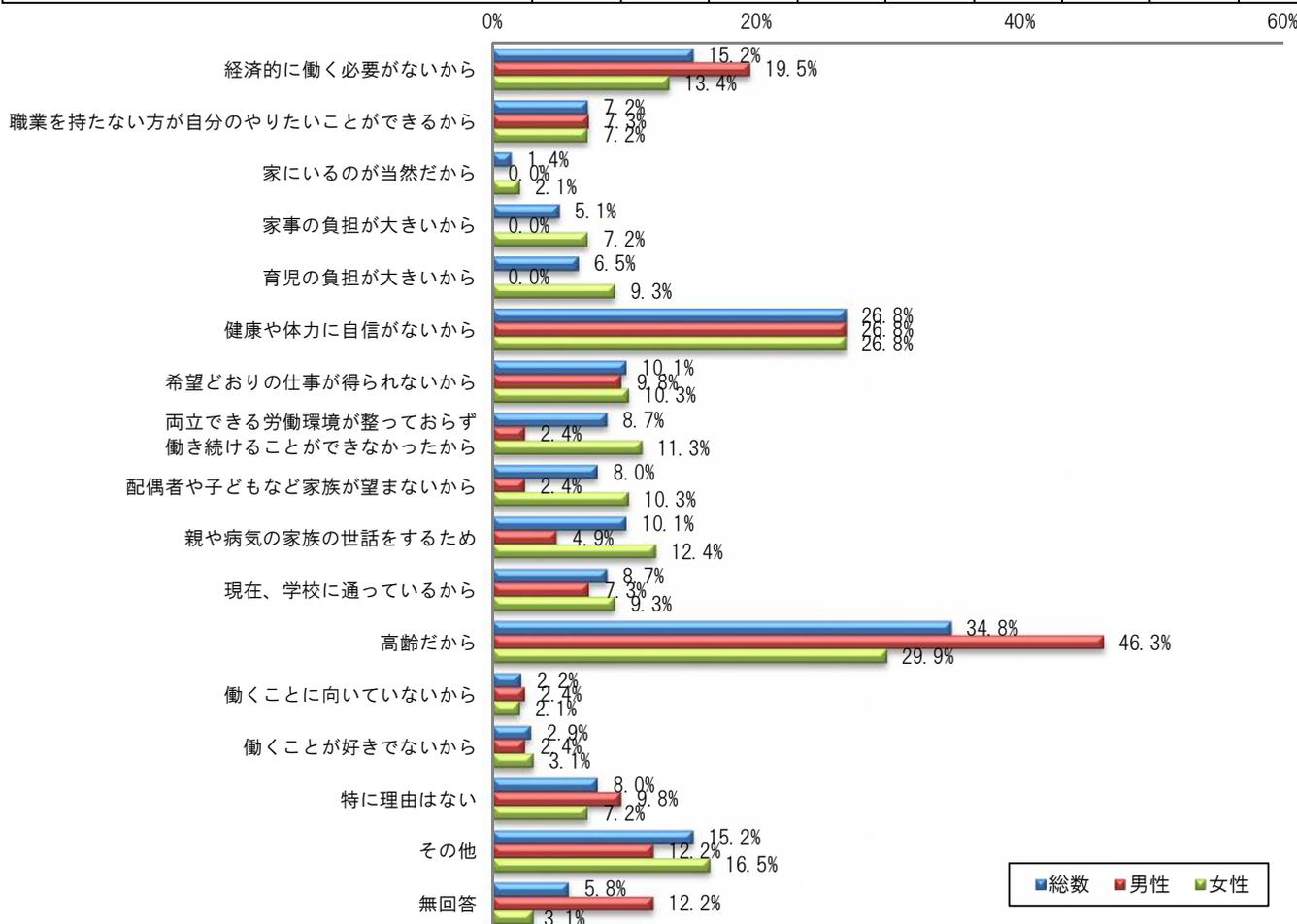


【問14】職業をお持ちでない方

⇒ あなたが働いていないのはどのような理由からですか。(あてはまるものすべて)

「高齢だから」が「全体」で34.8%と最も多く、次いで「健康や体力に自信がないから」となっている。また、「育児の負担が大きいから」「両立できる労働環境が整っておらず働き続けることができなかったから」「配偶者や子どもなど家族が望まないから」については「女性」が多くなっている。

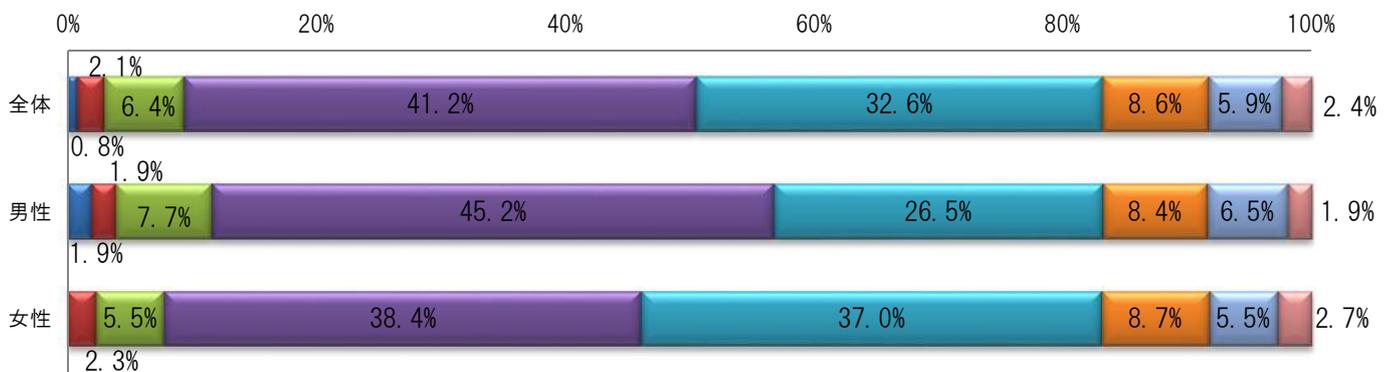
選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
経済的に働く必要がないから	21	15.2%	10.8%	8	19.5%	18.6%	13	13.4%	7.1%
職業を持たない方が自分のやりたいことができるから	10	7.2%	4.6%	3	7.3%	9.3%	7	7.2%	2.4%
家にいるのが当然だから	2	1.4%	0.8%	0	0.0%	2.3%	2	2.1%	0.0%
家事の負担が大きいから	7	5.1%	6.2%	0	0.0%	2.3%	7	7.2%	8.3%
育児の負担が大きいから	9	6.5%	12.3%	0	0.0%	0.0%	9	9.3%	19.0%
健康や体力に自信がないから	37	26.8%	25.4%	11	26.8%	30.2%	26	26.8%	23.8%
希望どおりの仕事が得られないから	14	10.1%	14.6%	4	9.8%	23.3%	10	10.3%	10.7%
両立できる労働環境が整っておらず働き続けることができなかったから	12	8.7%	10.0%	1	2.4%	0.0%	11	11.3%	15.5%
配偶者や子どもなど家族が望まないから	11	8.0%	6.9%	1	2.4%	0.0%	10	10.3%	10.7%
親や病気の家族の世話をするため	14	10.1%	6.2%	2	4.9%	4.7%	12	12.4%	7.1%
現在、学校に通っているから	12	8.7%	8.5%	3	7.3%	4.7%	9	9.3%	10.7%
高齢だから	48	34.8%	32.3%	19	46.3%	44.2%	29	29.9%	25.0%
働くことに向いていないから	3	2.2%	2.3%	1	2.4%	2.3%	2	2.1%	2.4%
働くことが好きでないから	4	2.9%	0.0%	1	2.4%	0.0%	3	3.1%	0.0%
特に理由はない	11	8.0%	3.8%	4	9.8%	2.3%	7	7.2%	4.8%
その他	21	15.2%	6.9%	5	12.2%	7.0%	16	16.5%	6.0%
無回答	8	5.8%	8.5%	5	12.2%	9.3%	3	3.1%	8.3%
計	244	176.8%	160.0%	68	165.9%	160.5%	176	181.4%	161.9%
回答者数	138	-	-	41	-	-	97	-	-



【問15】あなたは、一般に女性が職業をもつことについて、どのようにお考えですか。

「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が「全体」で41.2%と最も多く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が32.6%となっている。前回調査と比べると、男性の「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が9.6ポイント減少している。

選択項目	全体				男性				女性			
	今回		前回		今回		前回		今回		前回	
	回答数	構成比										
女性は職業をもたない方がよい	3	0.8%	3	0.8%	3	1.9%	3	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
結婚するまでは職業を持つ方がよい	8	2.1%	8	2.1%	3	1.9%	4	2.2%	5	2.3%	4	2.1%
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	24	6.4%	29	7.6%	12	7.7%	13	7.1%	12	5.5%	16	8.4%
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	154	41.2%	148	38.5%	70	45.2%	67	36.6%	84	38.4%	77	40.3%
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	122	32.6%	135	35.2%	41	26.5%	66	36.1%	81	37.0%	67	35.1%
わからない	32	8.6%	37	9.6%	13	8.4%	19	10.4%	19	8.7%	16	8.4%
その他	22	5.9%	12	3.1%	10	6.5%	7	3.8%	12	5.5%	5	2.6%
無回答	9	2.4%	12	3.1%	3	1.9%	4	2.2%	6	2.7%	6	3.1%
計	374	100.0%	384	100.0%	155	100.0%	183	100.0%	219	100.0%	191	100.0%

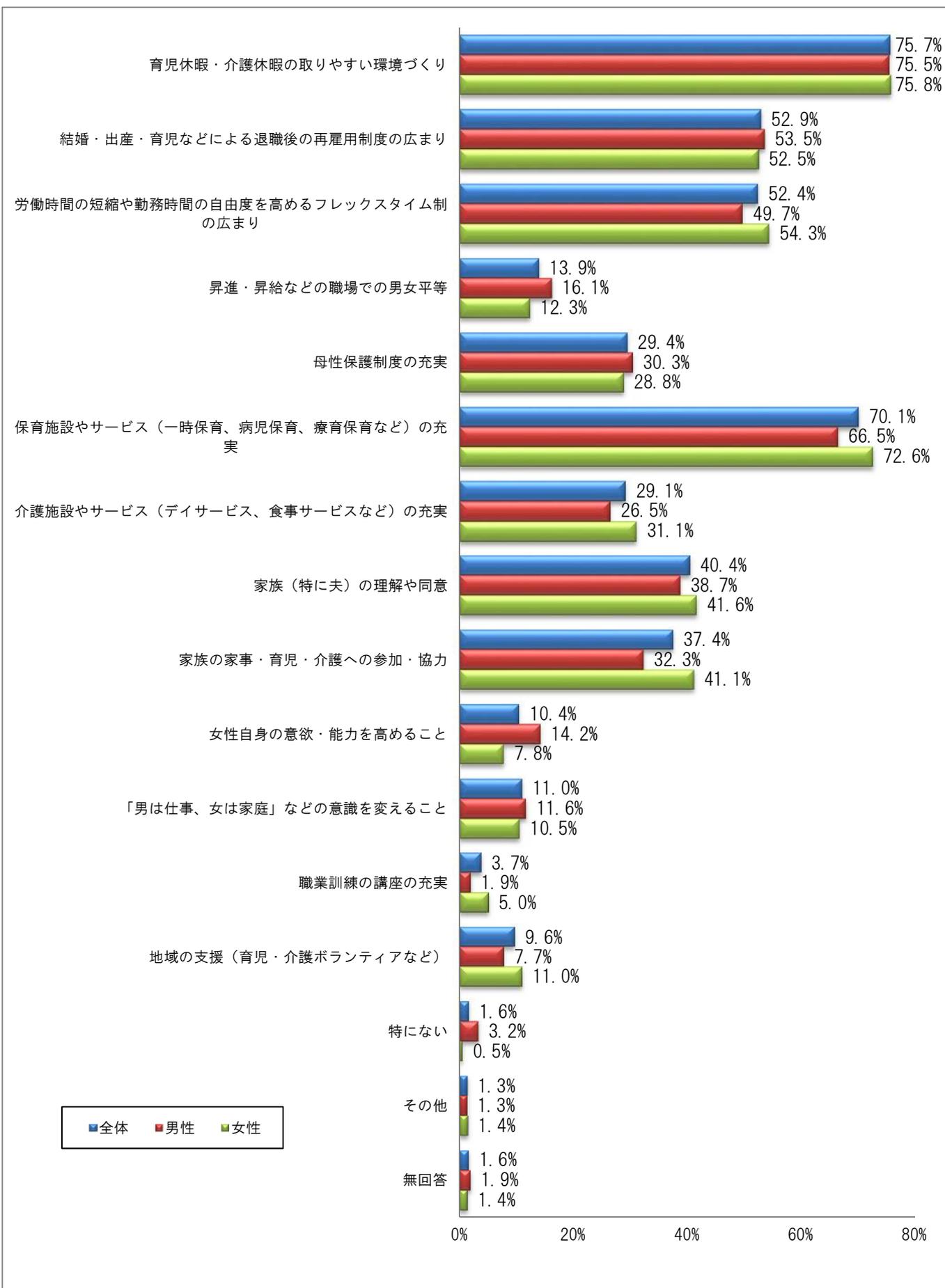


- 女性は無職業の方がよい
- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- わからない
- その他
- 無回答

【問16】あなたは、女性が働き続けたり、再就職したりするために、どのようなことが必要だと思いますか。  
(5つ以内)

「育児休暇・介護休暇の取りやすい環境づくり」が「全体」で75.7%と最も多く、次いで「保育施設やサービスの充実」、「結婚・出産、育児などによる退職後の再雇用制度の広まり」、「労働時間の短縮や勤務時間の自由度を高めるフレックスタイム制の広まり」と前回同様の結果となっている。

選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
育児休暇・介護休暇の取りやすい環境づくり	283	75.7%	77.0%	117	75.5%	74.9%	166	75.8%	79.1%
結婚・出産・育児などによる退職後の再雇用制度の広まり	198	52.9%	50.5%	83	53.5%	51.4%	115	52.5%	49.7%
労働時間の短縮や勤務時間の自由度を高めるフレックスタイム制の広まり	196	52.4%	50.0%	77	49.7%	46.4%	119	54.3%	53.4%
昇進・昇給などの職場での男女平等	52	13.9%	16.3%	25	16.1%	18.6%	27	12.3%	14.1%
母性保護制度の充実	110	29.4%	28.6%	47	30.3%	23.5%	63	28.8%	33.5%
保育施設やサービス（一時保育、病児保育、療育保育など）の充実	262	70.1%	64.2%	103	66.5%	62.8%	159	72.6%	65.4%
介護施設やサービス（デイサービス、食事サービスなど）の充実	109	29.1%	23.0%	41	26.5%	19.1%	68	31.1%	26.7%
家族（特に夫）の理解や同意	151	40.4%	36.4%	60	38.7%	35.5%	91	41.6%	37.2%
家族の家事・育児・介護への参加・協力	140	37.4%	35.6%	50	32.3%	30.6%	90	41.1%	40.3%
女性自身の意欲・能力を高めること	39	10.4%	14.2%	22	14.2%	18.0%	17	7.8%	10.5%
「男は仕事、女は家庭」などの意識を変えること	41	11.0%	11.8%	18	11.6%	14.2%	23	10.5%	9.4%
職業訓練の講座の充実	14	3.7%	5.3%	3	1.9%	3.3%	11	5.0%	7.3%
地域の支援（育児・介護ボランティアなど）	36	9.6%	9.4%	12	7.7%	9.3%	24	11.0%	9.4%
特にない	6	1.6%	1.3%	5	3.2%	2.2%	1	0.5%	0.5%
その他	5	1.3%	1.6%	2	1.3%	2.2%	3	1.4%	1.0%
無回答	6	1.6%	2.9%	3	1.9%	1.6%	3	1.4%	4.2%
計	1,648	440.6%	428.1%	668	431.0%	413.7%	980	447.5%	441.9%
回答者数	374	-	-	155	-	-	219	-	-

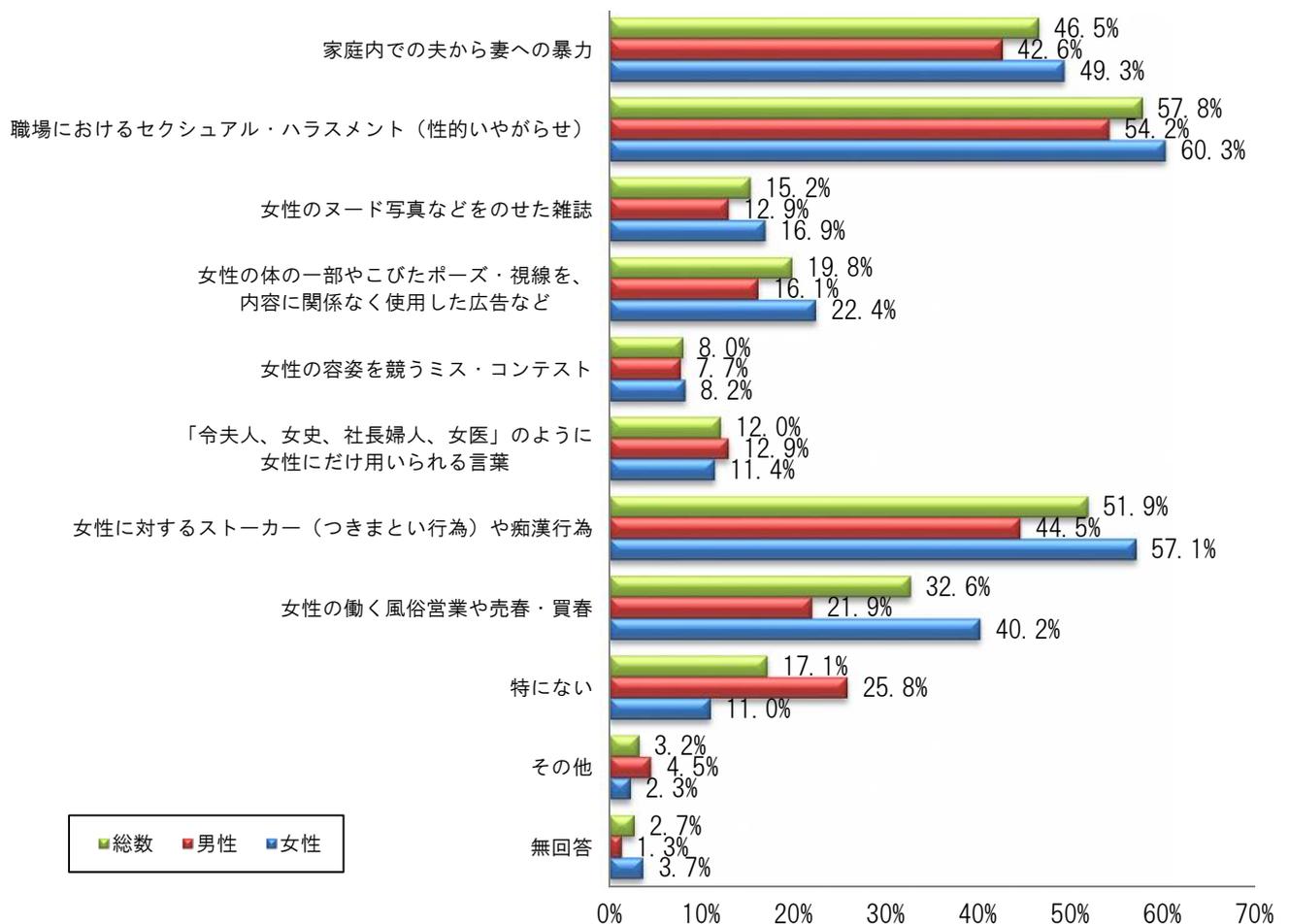


## (7) 人権

【問17】あなたは、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのような場合ですか。(あてはまるものをすべて)

「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が「全体」で57.8%と最も多く、次いで「女性に対するストーカーや痴漢行為」「家庭内での夫から妻への暴力」となっている。

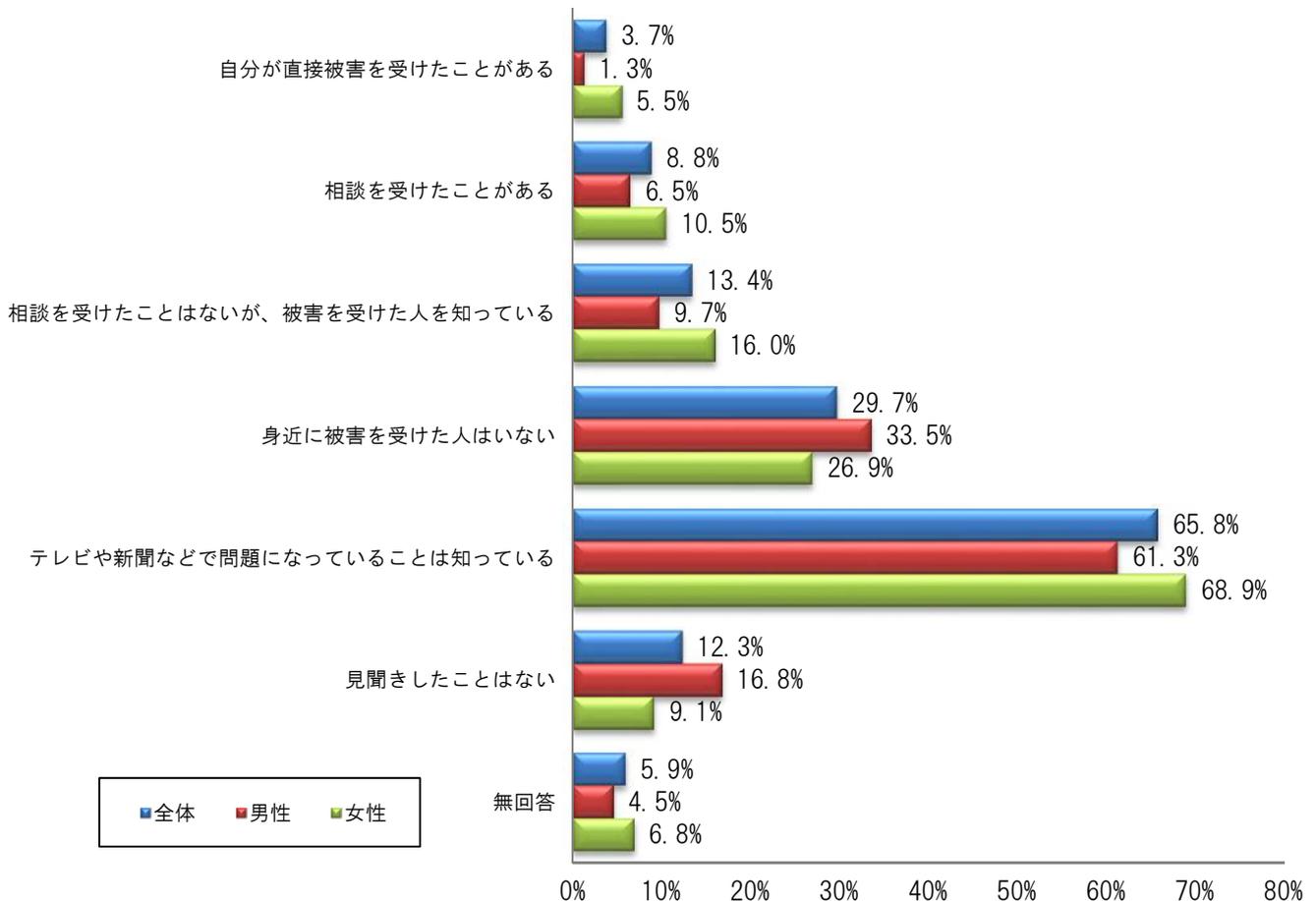
選択項目	全体				男性				女性			
	今回		前回		今回		前回		今回		前回	
	回答数	構成比										
家庭内での夫から妻への暴力	174	46.5%	187	48.7%	66	42.6%	83	45.4%	108	49.3%	101	52.9%
職場におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	216	57.8%	217	56.5%	84	54.2%	99	54.1%	132	60.3%	113	59.2%
女性のヌード写真などをのせた雑誌	57	15.2%	57	14.8%	20	12.9%	24	13.1%	37	16.9%	33	17.3%
女性の体の一部やこびたポーズ・視線を内容に関係なく使用	74	19.8%	65	16.9%	25	16.1%	30	16.4%	49	22.4%	35	18.3%
女性の容姿を競うミス・コンテスト	30	8.0%	30	7.8%	12	7.7%	20	10.9%	18	8.2%	10	5.2%
「令夫人、女史、社長婦人、女医」のように女性にだけ用いら	45	12.0%	43	11.2%	20	12.9%	24	13.1%	25	11.4%	17	8.9%
女性に対するストーカー(つきまとい行為)や痴漢行為	194	51.9%	181	47.1%	69	44.5%	74	40.4%	125	57.1%	102	53.4%
女性の働く風俗営業や売春・買春	122	32.6%	129	33.6%	34	21.9%	55	30.1%	88	40.2%	72	37.7%
特にない	64	17.1%	59	15.4%	40	25.8%	35	19.1%	24	11.0%	23	12.0%
その他	12	3.2%	6	1.6%	7	4.5%	3	1.6%	5	2.3%	3	1.6%
無回答	10	2.7%	17	4.4%	2	1.3%	6	3.3%	8	3.7%	9	4.7%
計	998	266.8	991	258.1	379	244.5	453	247.5	619	282.6	518	271.2
回答者数	374	-	384	-	155	-	183	-	219	-	191	-



【問18】最近、夫婦、恋人同士などの親しい人からの身体的・心理的な暴力について問題となっています。あなたはこのような被害経験や、身近で見聞きしたことはありますか。(あてはまるものすべて)

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が「全体」で65.8%と最も多く、次いで「身近に被害を受けた人はいない」となっている。「女性」では、「身近に被害を受けた人はいない」が減り、「相談を受けたことがある」「相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている」との回答が増えている。

選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
自分が直接被害を受けたことがある	14	3.7%	5.2%	2	1.3%	2.2%	12	5.5%	8.4%
相談を受けたことがある	33	8.8%	6.5%	10	6.5%	6.6%	23	10.5%	6.8%
相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている	50	13.4%	10.9%	15	9.7%	11.5%	35	16.0%	9.9%
身近に被害を受けた人はいない	111	29.7%	33.9%	52	33.5%	27.9%	59	26.9%	39.8%
テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	246	65.8%	62.0%	95	61.3%	63.9%	151	68.9%	61.8%
見聞きしたことはない	46	12.3%	12.0%	26	16.8%	15.3%	20	9.1%	9.4%
無回答	22	5.9%	6.5%	7	4.5%	4.9%	15	6.8%	6.8%
計	522	139.6%	137.0%	207	133.5%	132.2%	315	143.8%	142.9%
回答者数	374	-	-	155	-	-	219	-	-

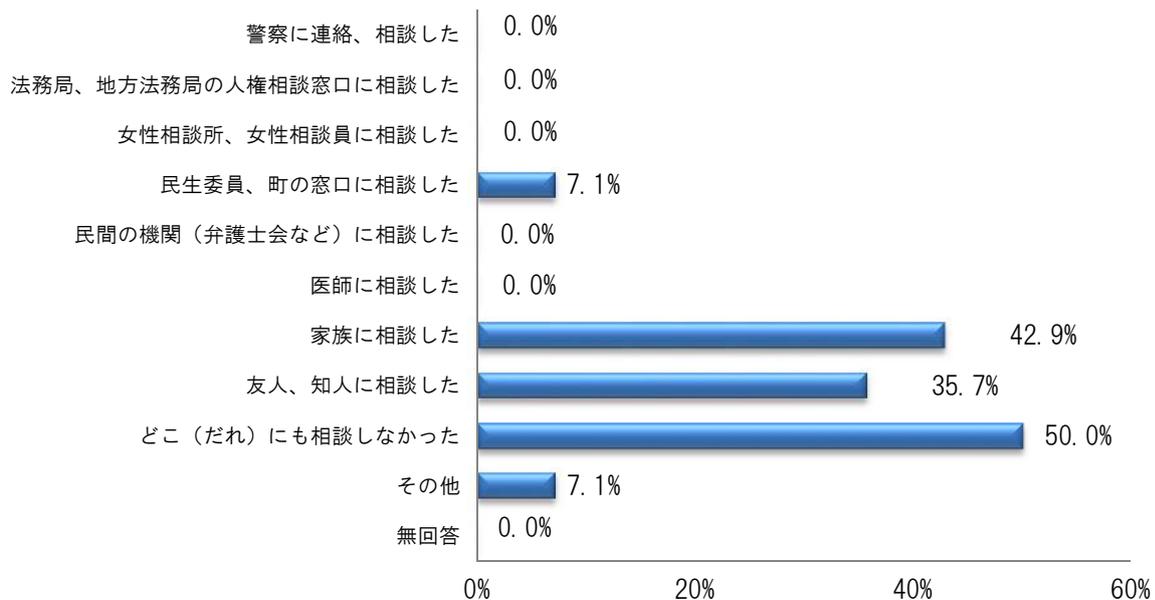


【問18-2】「自分が直接被害を受けたことがある」を選ばれた方

⇒ あなたがそのような経験をされた時、誰か（どこか）に相談しましたか。（あてはまるものすべて）

「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 50.0%と最も多く、次いで「家族に相談した」、「友人、知人に相談した」となっている。前回調査と比べ、警察や女性相談所等の公的機関での相談が減少している。

選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
警察に連絡、相談した	0	0.0%	4	20.0%
法務局、地方法務局の人権相談窓口、人権擁護委員に相談した	0	0.0%	0	0.0%
女性相談所、女性相談員に相談した	0	0.0%	3	15.0%
民生委員、町の窓口に相談した	1	7.1%	1	5.0%
民間の機関（弁護士会など）に相談した	0	0.0%	1	5.0%
医師に相談した	0	0.0%	1	5.0%
家族に相談した	6	42.9%	7	35.0%
友人、知人に相談した	5	35.7%	6	30.0%
どこ（だれ）にも相談しなかった	7	50.0%	7	35.0%
その他	1	7.1%	1	5.0%
無回答	0	0.0%	1	5.0%
計	20	142.9%	32	160.0%
回答者数	14	-	20	-

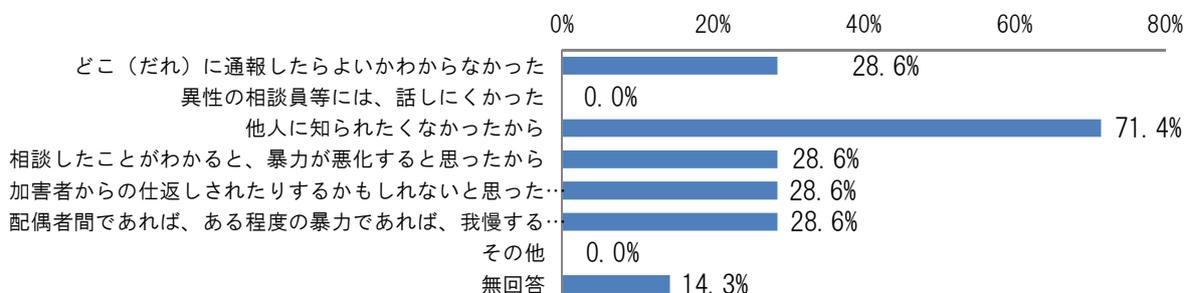


【問18-3】「どこにも相談しなかった」を選ばれた方

⇒ どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべて）

「他人に知られなくなかったから」が71.4%と最も多くなっている。

選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
どこ（だれ）に通報したらよいかわからなかった	2	28.6%	3	42.9%
異性の相談員等には、話しにくかった	0	0.0%	2	28.6%
他人に知られなくなかったから	5	71.4%	5	71.4%
相談したことがわかると、暴力が悪化すると思ったから	2	28.6%	1	14.3%
加害者からの仕返しされたりするかもしれないと思ったから	2	28.6%	1	14.3%
配偶者間であれば、ある程度の暴力であれば、我慢するべきと思ったから	2	28.6%	1	14.3%
その他	0	0.0%	1	14.3%
無回答	1	14.3%	0	0.0%
計	14	200.0%	14	200.0%
回答者数	7	-	7	-

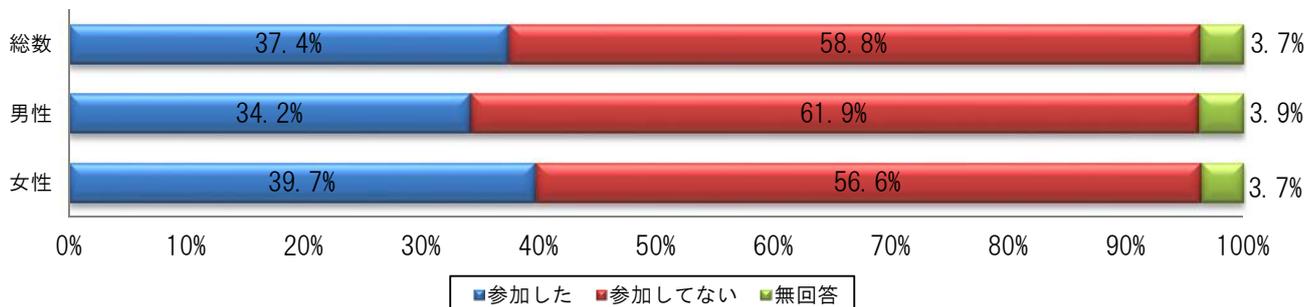


(8) 地域活動

【問19】あなたは、この1年間に地域活動（ボランティア活動、まちづくり活動、サークル活動など）に参加されましたか。

「参加した」が、「全体」で37.4%、「参加してない」が58.8%となっており、ほぼ前回と同様の結果となっている。

選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
参加した	140	37.4%	34.9%	53	34.2%	38.3%	87	39.7%	31.9%
参加してない	220	58.8%	58.3%	96	61.9%	55.7%	124	56.6%	61.3%
無回答	14	3.7%	6.8%	6	3.9%	6.0%	8	3.7%	6.8%
計	374	100.0%	100.0%	155	100.0%	100.0%	219	100.0%	100.0%

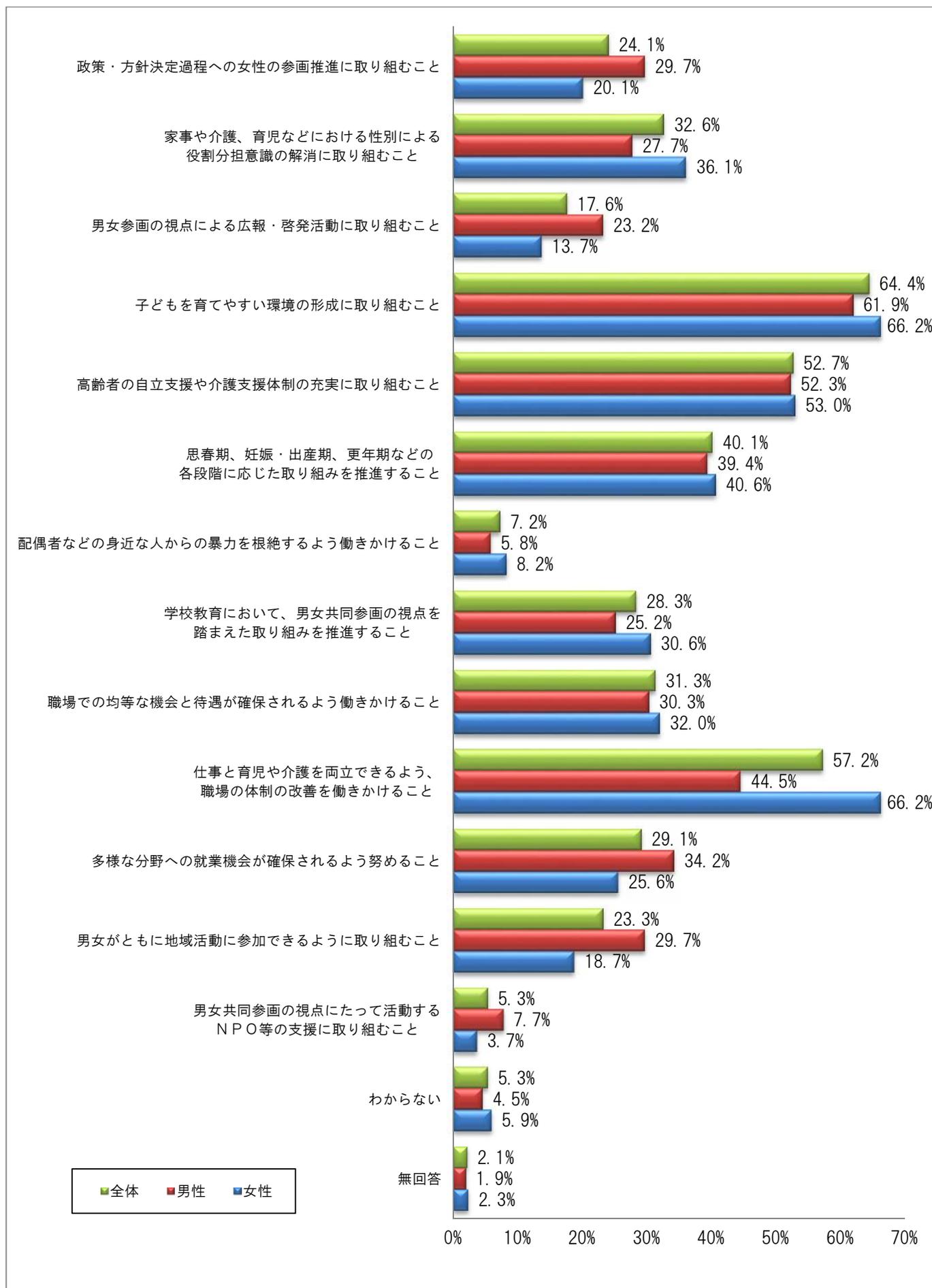


## (9) 男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み

【問20】あなたは、今後、利府町でどのようなことに最も力をいれていくべきだとお考えですか。(5つ以内)

「子どもを育てやすい環境の形成に取り組むこと」、「仕事と育児や介護を両立できるよう、職場の体制の改善を働きかけること」「高齢者の自立支援や介護支援体制の充実に取り組むこと」が多く、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
政策・方針決定過程へ女性の参画推進に取り組むこと	90	24.1%	23.7%	46	29.7%	31.7%	44	20.1%	16.2%
家事や介護、育児などにおける性別による役割分担意識の解消に取り組むこと	122	32.6%	32.3%	43	27.7%	23.0%	79	36.1%	40.8%
男女共同参画の視点による広報・啓発活動に取り組むこと	66	17.6%	21.9%	36	23.2%	27.9%	30	13.7%	16.2%
子どもを育てやすい環境の形成に取り組むこと	241	64.4%	58.1%	96	61.9%	54.6%	145	66.2%	60.7%
高齢者の自立支援や介護支援体制の充実に取り組むこと	197	52.7%	52.1%	81	52.3%	56.3%	116	53.0%	48.2%
思春期、妊娠・出産期、更年期などの各段階に応じた取り組みを推進すること	150	40.1%	40.9%	61	39.4%	39.3%	89	40.6%	43.5%
配偶者間などの身近な人からの暴力を根絶するよう働きかけること	27	7.2%	9.6%	9	5.8%	9.3%	18	8.2%	10.5%
学校教育において、男女共同参画の視点を踏まえた取り組みを推進すること	106	28.3%	27.9%	39	25.2%	30.6%	67	30.6%	26.2%
職場での均等な機会と待遇が確保されるよう働きかけること	117	31.3%	27.6%	47	30.3%	25.7%	70	32.0%	30.4%
仕事と育児や介護を両立できるよう、職場の体制の改善を働きかけること	214	57.2%	52.9%	69	44.5%	47.5%	145	66.2%	58.6%
多様な分野への就業機会が確保されるよう努めること	109	29.1%	29.4%	53	34.2%	31.1%	56	25.6%	27.7%
男女がともに地域活動に参加できるように取り組むこと	87	23.3%	19.8%	46	29.7%	16.9%	41	18.7%	22.0%
男女共同参画の視点にたって活動するNPO等の支援に取り組むこと	20	5.3%	8.3%	12	7.7%	10.4%	8	3.7%	5.8%
わからない	20	5.3%	5.5%	7	4.5%	7.1%	13	5.9%	4.2%
無回答	8	2.1%	4.2%	3	1.9%	3.3%	5	2.3%	4.2%
計	1,574	420.9%	414.1%	648	418.1%	414.8%	926	422.8%	415.2%
回答者数	374	-	-	155	-	-	219	-	-



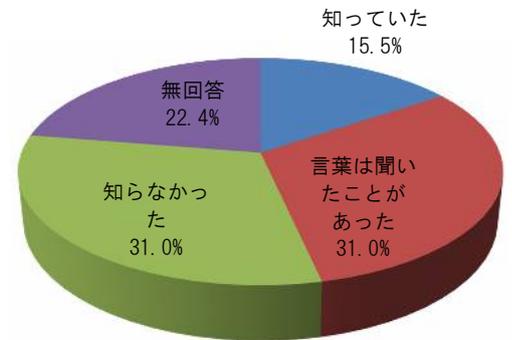
### 3. 男女共同参画社会に関する事業所アンケート調査結果（法人）

#### （1）属性等

##### F 0 【利府町男女共同参画基本計画を知っていましたか】

「知っていた」が15.5%、「言葉は聞いたことがあった」を合わせ46.5%となっている。

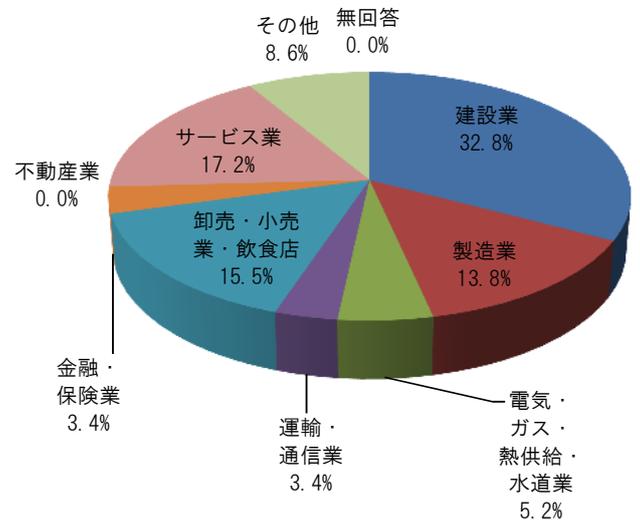
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
知っていた	9	15.5%	15.9%
言葉は聞いたことがあった	18	31.0%	36.5%
知らなかった	18	31.0%	38.1%
無回答	13	22.4%	9.5%
計	58	100.0%	100.0%



##### F 1 【業種】

「建設業」が32.8%と最も多く、次いで「サービス業」17.2%となっている。

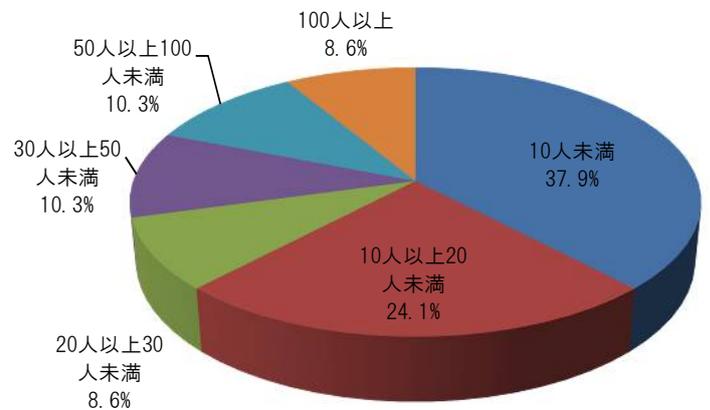
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
建設業	19	32.8%	22.2%
製造業	8	13.8%	27.0%
電気・ガス・熱供給・水道業	3	5.2%	0.0%
運輸・通信業	2	3.4%	7.9%
卸売・小売業・飲食店	9	15.5%	12.7%
金融・保険業	2	3.4%	1.6%
不動産業	0	0.0%	0.0%
サービス業	10	17.2%	11.1%
その他	5	8.6%	14.3%
無回答	0	0.0%	3.2%
計	58	100.0%	100.0%



## F 2 【従業員の性別雇用形態数】

従業員の総数は「10人未満」の事業所が37.9%と最も多く、次いで「10人以上20人未満」「30人以上50人未満」「50人以上100人未満」となっている。

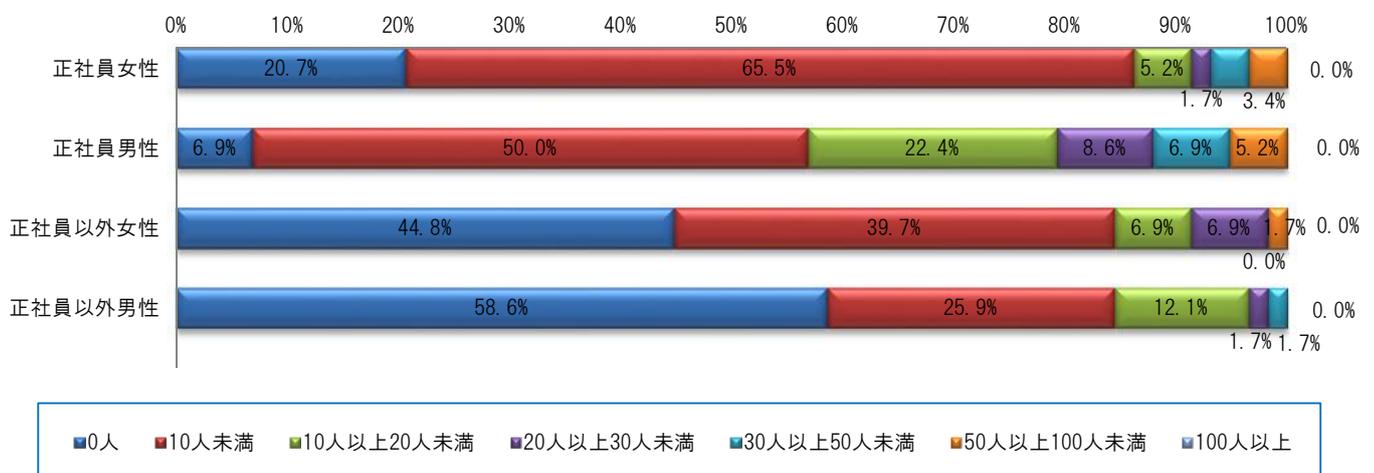
	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
10人未満	22	37.9%	12.9%
10人以上20人未満	14	24.1%	25.9%
20人以上30人未満	5	8.6%	16.1%
30人以上50人未満	6	10.3%	12.9%
50人以上100人未満	6	10.3%	17.7%
100人以上	5	8.6%	14.5%
計	58	100.0%	100.1%



## 【従業員の性別雇用形態】

「正社員女性」は「10人未満」の事業所が65.5%と大半を占めている。「正社員男性」は「10人未満」が50%と最も多く、次いで「10人以上20人未満」となっている。「正社員以外の女性及び男性」は「0人」が最も多く、次いで「10人未満」となっている。

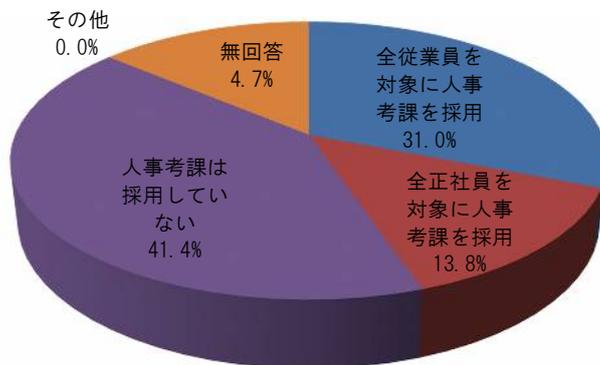
選択項目	正社員女性			正社員男性			正社員以外女性			正社員以外男性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	12	20.7%	6.5%	4	6.9%	6.5%	26	44.8%	37.1%	34	58.6%	43.5%
10人未満	38	65.5%	79.0%	29	50.0%	33.9%	23	39.7%	33.9%	15	25.9%	40.3%
10人以上20人未満	3	5.2%	8.1%	13	22.4%	21.0%	4	6.9%	6.5%	7	12.1%	8.1%
20人以上30人未満	1	1.7%	3.2%	5	8.6%	19.4%	4	6.9%	12.9%	1	1.7%	3.2%
30人以上50人未満	2	3.4%	0.0%	4	6.9%	14.5%	0	0.0%	1.6%	1	1.7%	3.2%
50人以上100人未満	2	3.4%	1.6%	3	5.2%	3.2%	1	1.7%	4.8%	0	0.0%	1.6%
100人以上	0	0.0%	1.6%	0	0.0%	1.6%	0	0.0%	3.2%	0	0.0%	0.0%
計	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%



F 3 【人事考課】人事考課を採用されていますか。

「人事考課は採用していない」が41.4%と最も多く、次いで「全従業員を対象に人事考課を採用」が31.0%となっている。

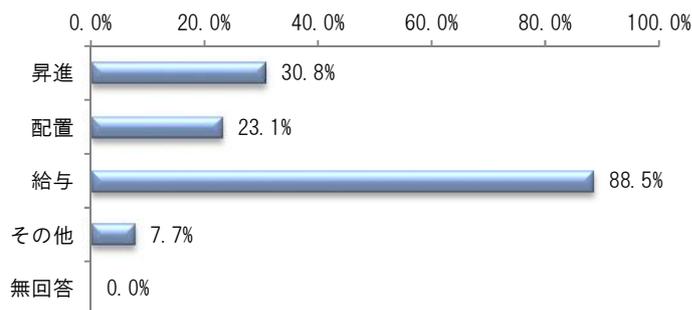
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
全従業員を対象に人事考課を採用	18	31.0%	38.1%
全正社員を対象に人事考課を採用	8	13.8%	14.3%
一部の正社員を対象に人事考課を採用	0	0.0%	0.0%
人事考課は採用していない	24	41.4%	39.7%
その他	0	0.0%	3.2%
無回答	8	13.8%	4.7%
計	58	100.0%	100.0%



F 3 - 2 【人事考課採用活用内容】採用されている場合（1～3を選んだ場合）、それをどのようなことにご活用されていますか。

「給与」が88.5%と最も多く、次いで「昇進」30.8%となっている。前回調査と同様の結果となっている。

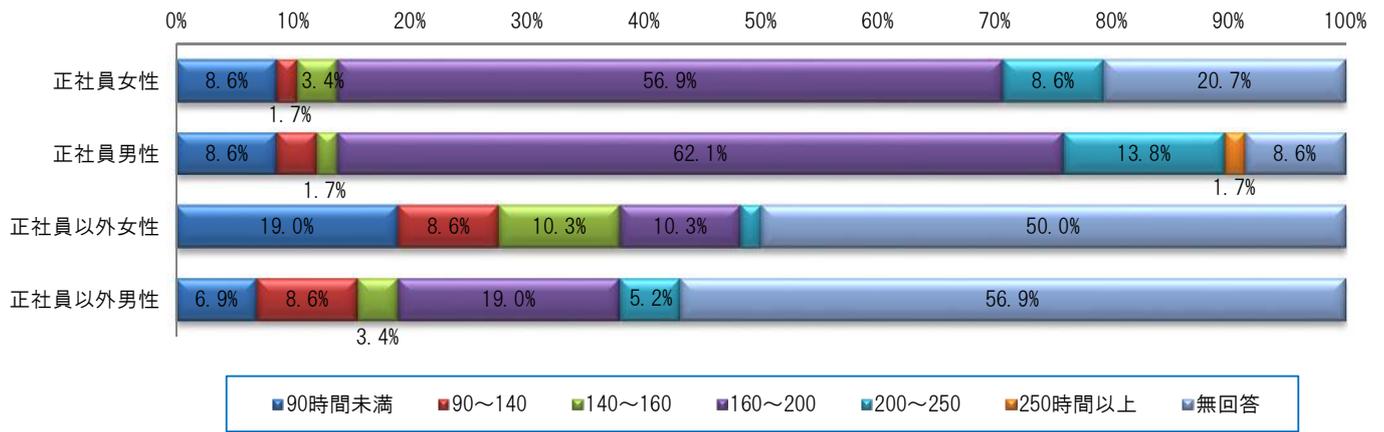
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
昇進	8	30.8%	72.7%
配置	6	23.1%	45.5%
給与	23	88.5%	78.8%
その他	2	7.7%	3.0%
無回答	0	0.0%	9.1%
計	39	150.0%	209.1%



F 4 【1か月の平均労働時間】

「正社員」では、男女ともに「160時間以上200時間未満」が最も多くなっているが、前回調査と比べ、「正社員男性」では、「160時間以上200時間未満」が17.7ポイント増加し、200時間以上が減少している。「正社員以外」では、「女性」は「90時間未満」、「男性」では、「160時間以上200時間未満」が最も多く「男性」の方が労働時間が長い傾向となっている。

	正社員女性			正社員男性			正社員以外女性			正社員以外男性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
90時間未満	5	8.6%	14.3%	5	8.6%	14.3%	11	19.0%	15.9%	4	6.9%	12.7%
90～140	1	1.7%	3.2%	2	3.4%	0.0%	5	8.6%	23.8%	5	8.6%	14.3%
140～160	2	3.4%	6.3%	1	1.7%	4.8%	6	10.3%	9.5%	2	3.4%	4.8%
160～200	33	56.9%	55.6%	36	62.1%	44.4%	6	10.3%	6.3%	11	19.0%	19.0%
200～250	5	8.6%	9.5%	8	13.8%	22.2%	1	1.7%	0.0%	3	5.2%	1.6%
250時間以上	0	0.0%	3.2%	1	1.7%	4.8%	0	0.0%	1.6%	0	0.0%	1.6%
無回答	12	20.7%	7.9%	5	8.6%	9.5%	29	50.0%	42.9%	33	56.9%	46.0%
計	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%

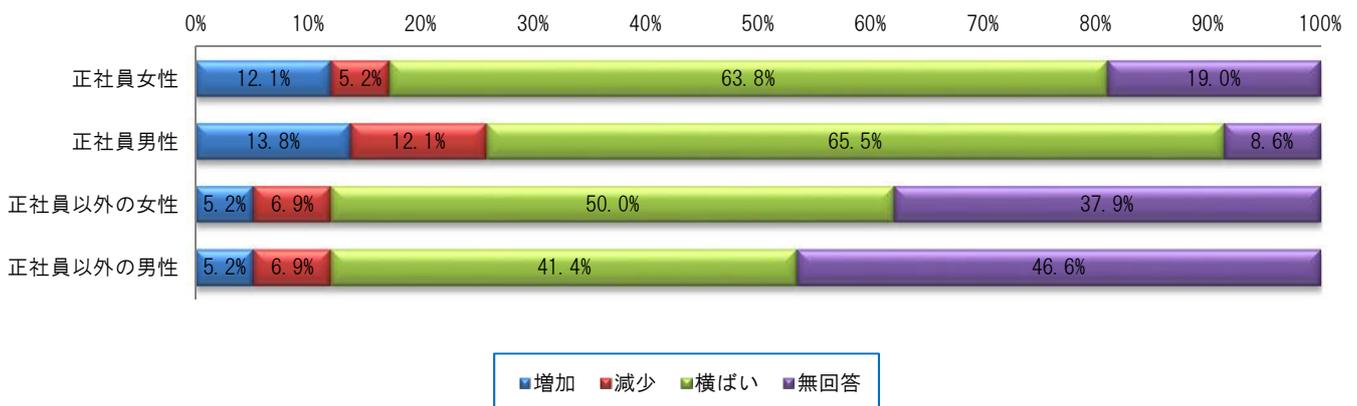


F 5 【最近2～3年程度の男女別労働時間の増減傾向】

全ての従業員で「横ばい」が最も多くなっている。前回調査と比べ全ての従業員で「増加」が減り、「正社員以外の男性」を除く従業員で「減少」が多くなっている。

選択項目	正社員女性			正社員男性			正社員以外の女性			正社員以外の男性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
増加	7	12.1%	14.3%	8	13.8%	15.9%	3	5.2%	7.9%	3	5.2%	9.5%
減少	3	5.2%	4.8%	7	12.1%	6.3%	4	6.9%	4.8%	4	6.9%	11.1%
横ばい	37	63.8%	73.0%	38	65.5%	69.8%	29	50.0%	47.6%	24	41.4%	34.9%
無回答	11	19.0%	7.9%	5	8.6%	7.9%	22	37.9%	39.7%	27	46.6%	44.4%
計	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%

【最近2～3年程度の男女別労働時間の増減傾向】



## (2) 募集・採用

【問1】貴事業所では、過去5年間に従業員や派遣の募集・採用を何名ずつ行ってこられましたか。

### ○正社員 女性

過去5年間、「正社員女性」を採用していない事業所が平均して7割と多く、次いで「1人以上5人未満」となっている。

選択項目	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	回答数	構成比								
0人	46	79.3%	44	75.9%	41	70.7%	43	74.1%	40	69.0%
1人～5人	10	17.2%	11	19.0%	14	24.1%	10	17.2%	14	24.1%
5人～10人	2	3.4%	2	3.4%	2	3.4%	5	8.6%	3	5.2%
10人以上	0	0.0%	1	1.7%	1	1.7%	0	0.0%	1	1.7%
計	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%

### ○正社員 男性

過去5年間、「正社員男性」を採用していない事業所が平均して5割以上と多く、次いで「1人以上5人未満」となっている。

選択項目	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	回答数	構成比								
0人	41	70.7%	28	48.3%	32	55.2%	29	50.0%	26	44.8%
1人～5人	15	25.9%	24	41.4%	19	32.8%	23	39.7%	26	44.8%
5人～10人	0	0.0%	4	6.9%	5	8.6%	4	6.9%	4	6.9%
10人以上	2	3.4%	2	3.4%	2	3.4%	2	3.4%	2	3.4%
計	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%

### ○パート等 女性

過去5年間、「パート等女性」を採用していない事業所が平均して7割以上と大半を占めている。

選択項目	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	回答数	構成比								
0人	45	77.6%	42	72.4%	41	70.7%	46	79.3%	40	69.0%
1人～5人	7	12.1%	13	22.4%	13	22.4%	9	15.5%	14	24.1%
5人～10人	3	5.2%	1	1.7%	1	1.7%	1	1.7%	3	5.2%
10人以上	3	5.2%	2	3.4%	3	5.2%	2	3.4%	1	1.7%
計	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%

### ○パート等 男性

過去5年間、「パート等男性」を採用していない事業所が7割以上と大半を占めているが、採用はわずかに増加傾向となっている。

選択項目	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	回答数	構成比								
0人	48	82.8%	46	79.3%	46	79.3%	44	75.9%	44	75.9%
1人～5人	7	12.1%	8	13.8%	8	13.8%	10	17.2%	11	19.0%
5人～10人	2	3.4%	4	6.9%	3	5.2%	4	6.9%	3	5.2%
10人以上	1	1.7%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
計	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%

○派遣 女性

過去5年間、「派遣女性」を採用していない事業所は9割以上と大半を占めている。

選択項目	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	回答数	構成比								
0人	56	96.6%	57	98.3%	57	98.3%	57	98.3%	54	93.1%
1人～5人	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.2%
5人～10人	1	1.7%	1	1.7%	1	1.7%	1	1.7%	1	1.7%
10人以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%

○派遣 男性

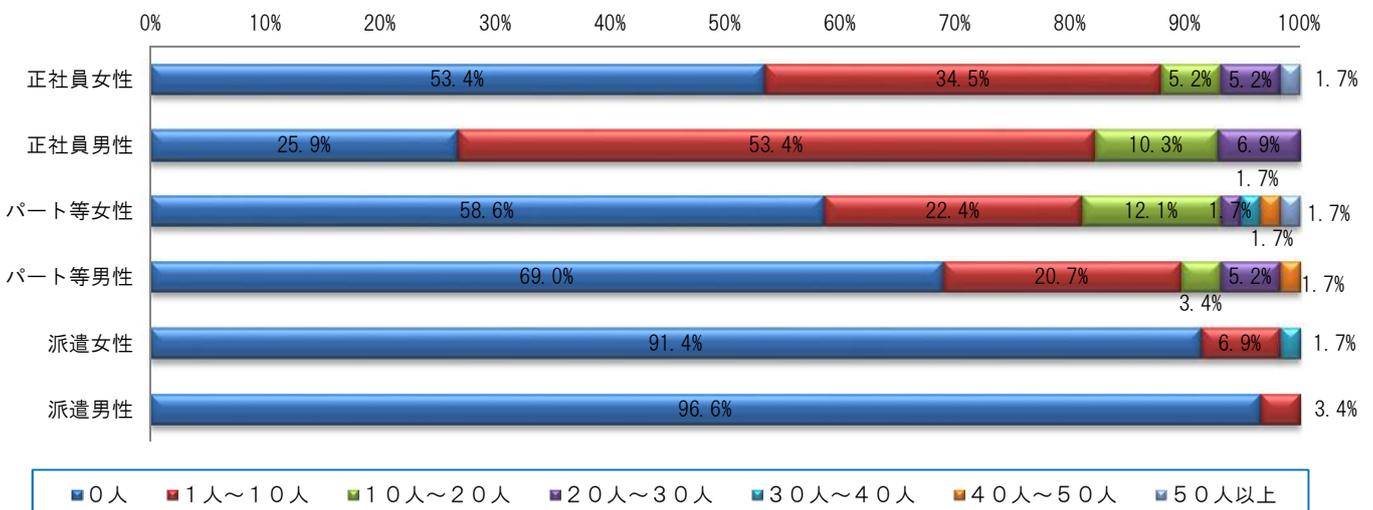
過去5年間、「派遣男性」を採用した事業所はわずか1事業所となっている。

選択項目	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	回答数	構成比								
0人	57	98.3%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	57	98.3%
1人～5人	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%
5人～10人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10人以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%

○5年間合計

「正社員男性」の採用人数の割合が最も多く、次いで「正社員女性」となっている。

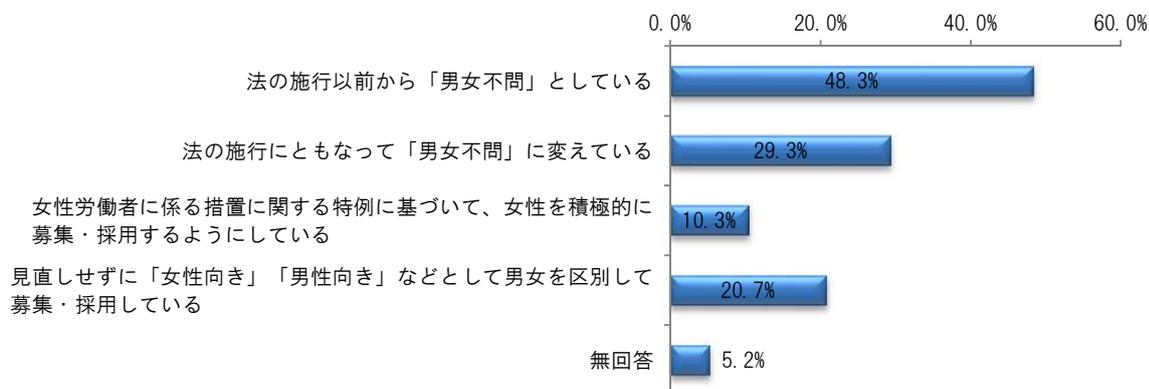
選択項目	正社員女性		正社員男性		パート等女性		パート等男性		派遣女性		派遣男性	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	31	53.4%	15	25.9%	34	58.6%	40	69.0%	53	91.4%	56	96.6%
1人～10人	20	34.5%	31	53.4%	13	22.4%	12	20.7%	4	6.9%	2	3.4%
10人～20人	3	5.2%	6	10.3%	7	12.1%	2	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
20人～30人	3	5.2%	4	6.9%	1	1.7%	3	5.2%	0	0.0%	0	0.0%
30人～40人	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%
40人～50人	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
50人以上	1	1.7%	2	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%	58	100.0%



【問2】貴事業所では、改正男女雇用機会均等法の施行（平成19年4月1日付け施行、以下「法」と記しています。）をうけて、従業員の募集・採用に際して、どのように対応されていますか。（2つまで）

「法の施行以前から『男女不問』としている」が48.3%と最も多く、次いで「法の施行に伴って『男女不問』に変えている」が29.3%と、前回調査と同様の結果となっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
法の施行以前から「男女不問」としている	28	48.3%	47.6%
法の施行にともなって「男女不問」に変えている	17	29.3%	39.7%
女性労働者に係る措置に関する特例に基づいて、女性を積極的に募集・採用するようにしている	6	10.3%	6.3%
見直しせずに「女性向き」「男性向き」などとして男女を区別して募集・採用している	12	20.7%	12.7%
無回答	3	5.2%	1.6%
計	66	113.8%	107.9%



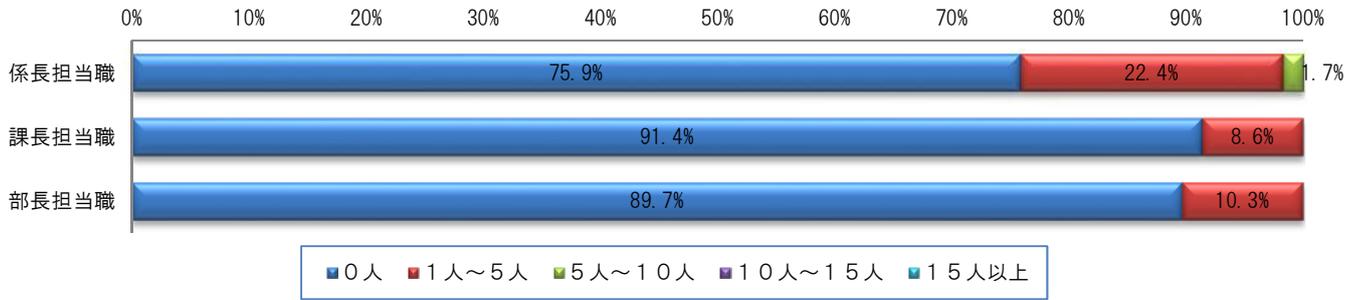
### （3）配置・昇進

【問3】貴事業所における係長相当職以上の管理職の男女別人数をご記入ください。

○女性

「女性管理職がない」事業所が大半を占めており、前回調査と比べ、「1人以上5人未満」についても減少している。

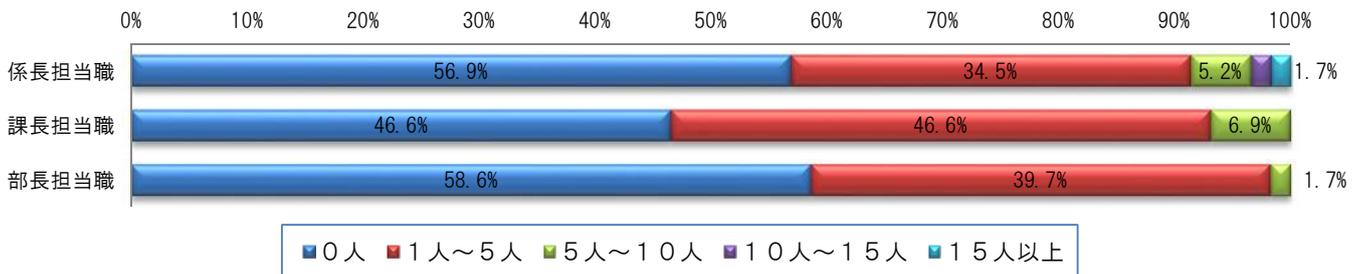
選択項目	係長相当職			課長相当職			部長相当職		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	44	75.9%	65.1%	53	91.4%	85.7%	52	89.7%	87.3%
1人～5人	13	22.4%	31.7%	5	8.6%	12.7%	6	10.3%	12.7%
5人～10人	1	1.7%	3.2%	0	0.0%	1.6%	0	0.0%	0.0%
10人～15人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
15人以上	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%



○男性

すべての職位で「男性管理職」の割合が減少している。特に「部長職」で減少している。

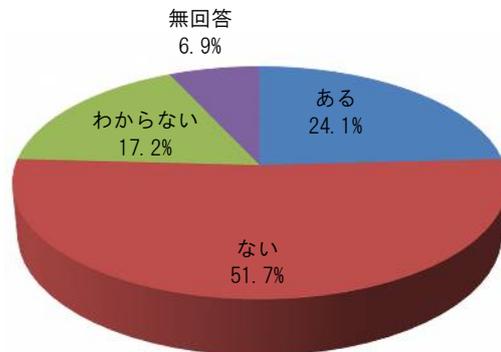
選択項目	係長担当職			課長担当職			部長担当職		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	33	56.9%	46.0%	27	46.6%	30.2%	34	58.6%	36.5%
1人～5人	20	34.5%	34.9%	27	46.6%	57.1%	23	39.7%	58.7%
5人～10人	3	5.2%	17.5%	4	6.9%	11.1%	1	1.7%	4.8%
10人～15人	1	1.7%	1.6%	0	0.0%	1.6%	0	0.0%	0.0%
15人以上	1	1.7%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%



【問4】貴事業所で女性の管理職を増やそうとした場合、課題となることはございますか。

「ない」が51.7%、「ある」が24.1%と、前回調査より「ない」は5.7ポイント増加し、「ある」は7.6ポイント減少している。

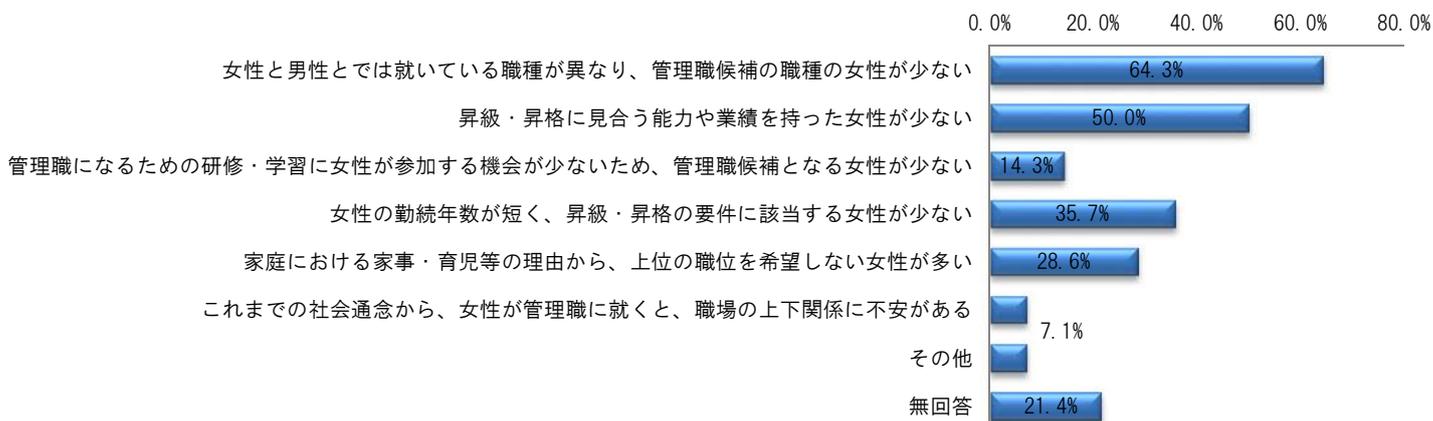
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
ある	14	24.1%	31.7%
ない	30	51.7%	46.0%
わからない	10	17.2%	20.6%
無回答	4	6.9%	1.6%
計	58	100.0%	100.0%



【問4 - 2】「ある」を選ばれた方 課題は具体的にどのようなことですか。(あてはまるもの全て)

「女性と男性とでは就いている職種が異なり、管理職候補の職種の女性が少ない」が 64.3%と最も多く、次いで「昇級・昇格に見合う能力や業績を持った女性が少ない」となっている。

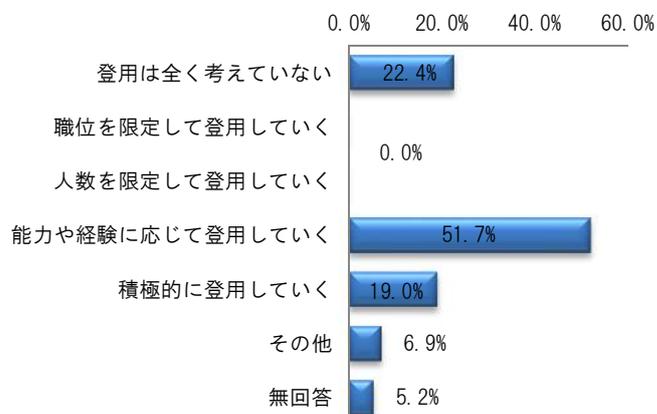
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
女性と男性とでは就いている職種が異なり、管理職候補の職種の女性が少ない	9	64.3%	60.0%
昇級・昇格に見合う能力や業績を持った女性が少ない	7	50.0%	50.0%
管理職になるための研修・学習に女性が参加する機会が少ないため、管理職候補となる女性が少ない	2	14.3%	15.0%
女性の勤続年数が短く、昇級・昇格の要件に該当する女性が少ない	5	35.7%	30.0%
家庭における家事・育児等の理由から、上位の職位を希望しない女性が多い	4	28.6%	35.0%
これまでの社会通念から、女性が管理職に就くと、職場の上下関係に不安がある	1	7.1%	20.0%
その他	1	7.1%	5.0%
無回答	3	21.4%	0.0%
計	32	228.6%	215.0%



【問5】貴事業所では、女性の管理職の登用についてどのようにお考えですか。(あてはまるもの全て)

「能力や経験に応じて登用していく」が 51.7%と圧倒的に多く、「積極的に登用していく」は前回調査より 12.7ポイント増加している。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
登用は全く考えていない	13	22.4%	14.3%
職位を限定して登用していく	0	0.0%	6.3%
人数を限定して登用していく	0	0.0%	0.0%
能力や経験に応じて登用していく	30	51.7%	69.8%
積極的に登用していく	11	19.0%	6.3%
その他	4	6.9%	3.2%
無回答	3	5.2%	4.8%
計	61	105.2%	104.8%



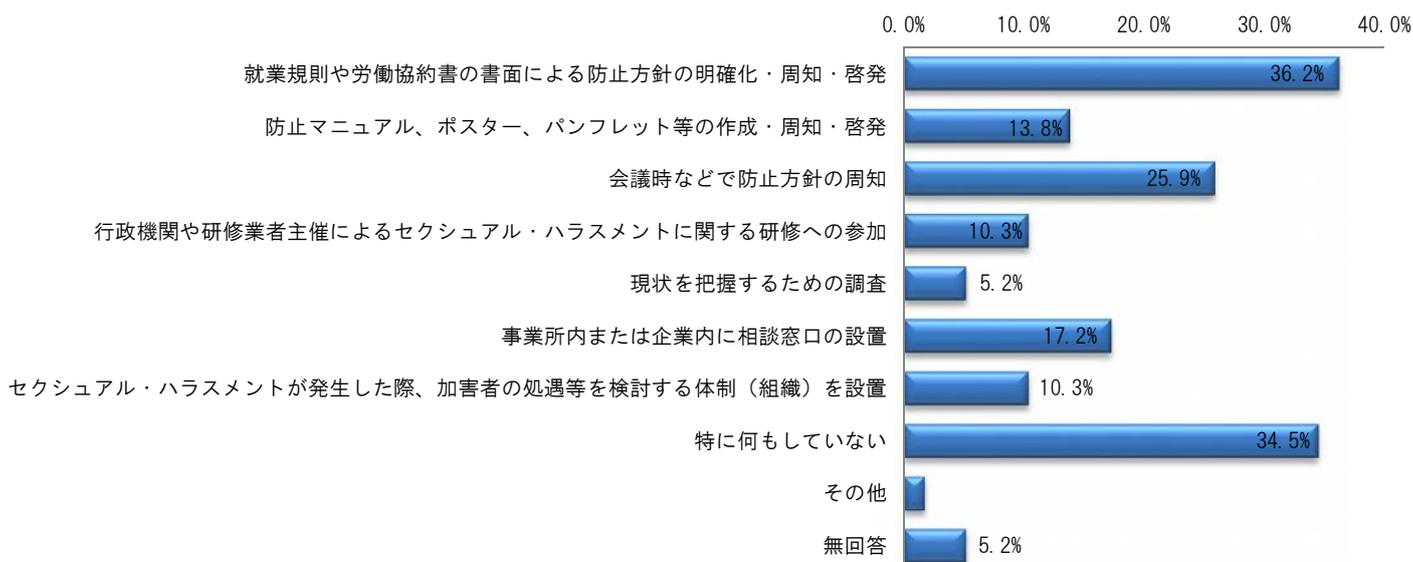
#### (4) セクシュアル・ハラスメント防止に向けた取り組み

【問6】改正男女雇用機会均等法の施行にともない、セクシュアル・ハラスメントについて必要な措置を講ずることが事業主の義務となりました。

貴事業所において、現在実施している、もしくは今後実施を考えている取り組みはございますか。  
(あてはまるものすべて)

「就業規則や労働協約書の書面による防止方針の明確化・周知・啓発」が36.2%と最も多く、次いで「特に何もしていない」となっている。「行政機関や研修業者主催によるセクシュアル・ハラスメントに関する研修への参加」は前回調査より増加しているものの、何らかの対応を講じている比率が減少している。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
就業規則や労働協約書の書面による防止方針の明確化・周知・啓発	21	36.2%	57.1%
防止マニュアル、ポスター、パンフレット等の作成・周知・啓発	8	13.8%	23.8%
会議時などで防止方針の周知	15	25.9%	27.0%
行政機関や研修業者主催によるセクシュアル・ハラスメントに関する研修への参加	6	10.3%	6.3%
現状を把握するための調査	3	5.2%	9.5%
事業所内または企業内に相談窓口の設置	10	17.2%	30.2%
セクシュアル・ハラスメントが発生した際、加害者の処遇等を検討する体制（組織）を設置	6	10.3%	19.0%
特に何もしていない	20	34.5%	25.4%
その他	1	1.7%	0.0%
無回答	3	5.2%	1.6%
計	93	160.3%	200.0%



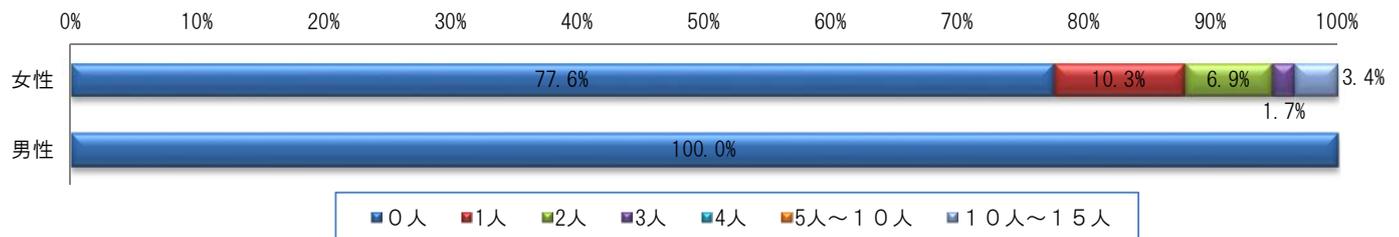
## (5) 育児・介護等

【問7】貴事業所において、育児休業または介護休業の制度を利用した方は何人いますか。

### ○育児休業制度

男女ともに育児休業制度の利用者がいない事業所が大半を占めている。利用者も減少している。また、「男性」では前回調査で2事業所で利用されていたが、今回はまったく利用されていない状況である。

選択項目	女性			男性		
	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	45	77.6%	76.2%	58	100.0%	96.8%
1人	6	10.3%	7.9%	0	0.0%	0.0%
2人	4	6.9%	6.3%	0	0.0%	1.6%
3人	1	1.7%	1.6%	0	0.0%	0.0%
4人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
5人～10人	0	0.0%	4.8%	0	0.0%	1.6%
10人～15人	2	3.4%	3.2%	0	0.0%	0.0%
計	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%



### ○介護休業制度

介護休業制度の利用者がいる事業所は、「女性」も「男性」もなかった。

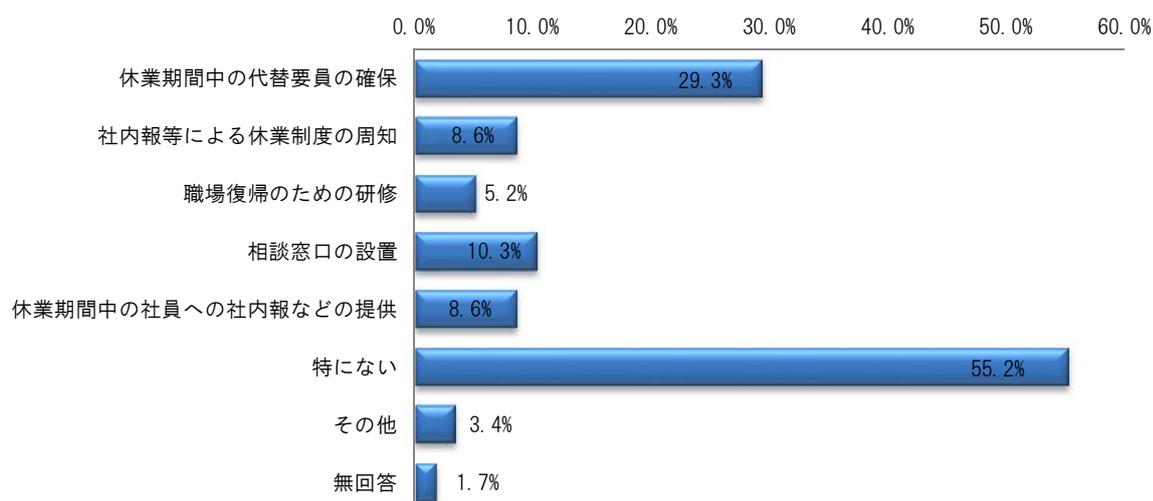
選択項目	女性			男性		
	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	58	100.0%	95.2%	58	100.0%	100.0%
1人	0	0.0%	3.2%	0	0.0%	0.0%
2人	0	0.0%	1.6%	0	0.0%	0.0%
3人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
4人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
5人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%



【問8】貴事業所では、育児休業や介護休業制度の実施に伴う取り組みをされていますか。  
 (あてはまるもの全て)

「特にない」が55.2%と最も多いものの、「休業期間中の代替要員の確保」、「職場復帰のための研修」「相談窓口の設置」「休業期間中の社員への社内報などの提供」が増加している。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
休業期間中の代替要員の確保	17	29.3%	28.6%
社内報等による休業制度の周知	5	8.6%	19.0%
職場復帰のための研修	3	5.2%	1.6%
相談窓口の設置	6	10.3%	9.5%
休業期間中の社員への社内報などの提供	5	8.6%	4.8%
特にない	32	55.2%	47.6%
その他	2	3.4%	4.8%
無回答	1	1.7%	7.9%
計	71	122.4%	123.8%



【問9】貴事業所において、育児・介護休業制度の普及にあたって、特に問題と思われることはございますか。  
（3つ以内）

「休業期間中の代替要員の確保が難しい」が56.9%と最も多く、前回より12.5ポイント増加している。また、「休業者の周りの人の業務負担が多くなる」が前回調査より9.1ポイント増加し、2番目に多くなっている。

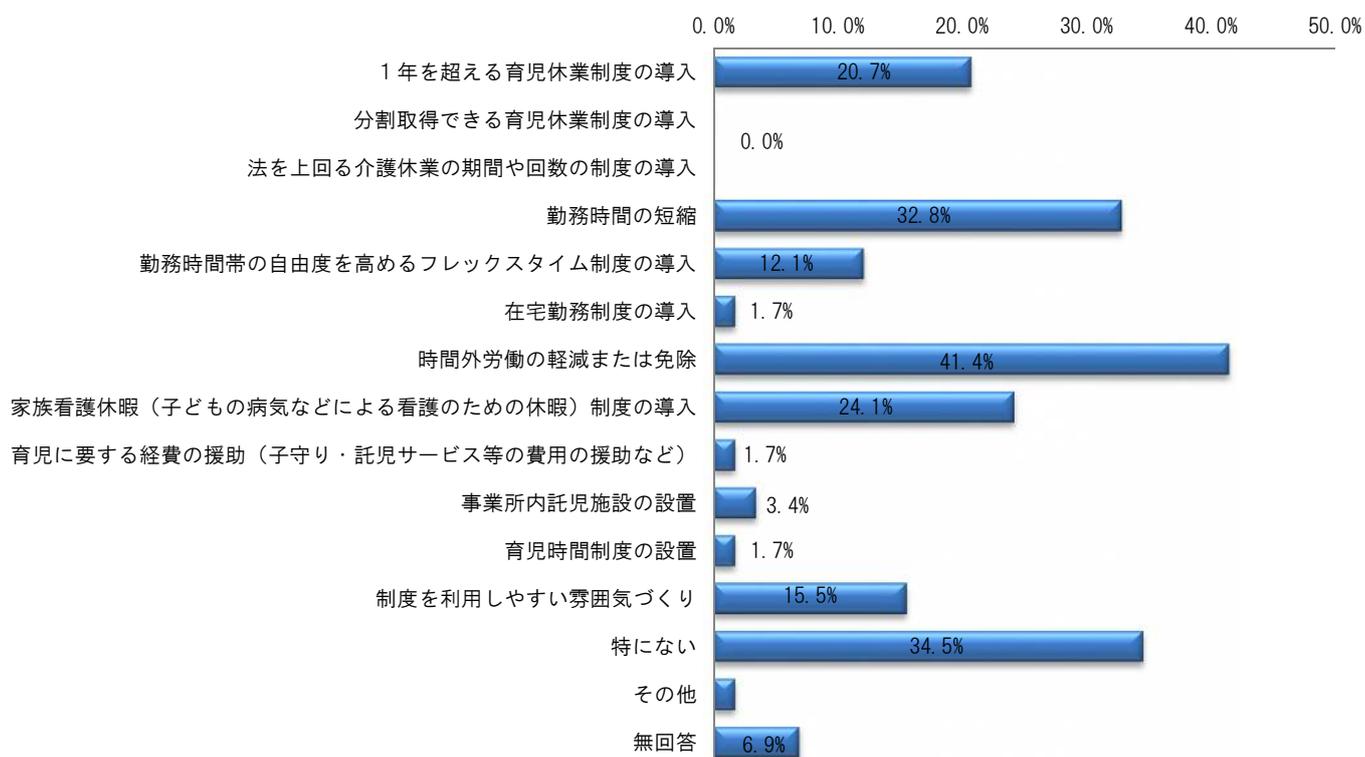
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
休業期間中の代替要員の確保が難しい	33	56.9%	44.4%
休業者の復職後、代替要員の処遇が難しい	8	13.8%	23.8%
休業中の事情の変化による休業期間の変更など、人員計画が立てにくい	7	12.1%	12.7%
休業者の周りの人の業務負担が多くなる	20	34.5%	25.4%
代替要員で務まらない性格の業務である、または代替要員では業務効率が非常に落ちる	12	20.7%	15.9%
制度を利用しやすい雰囲気が周りにない	1	1.7%	6.3%
利用する人と利用しない人の不公平感がある	2	3.4%	6.3%
休業中の賃金等の負担が大きい	7	12.1%	4.8%
復職時に能力が低下している場合がある	3	5.2%	7.9%
特にない	18	31.0%	34.9%
その他	1	1.7%	4.8%
無回答	3	5.2%	3.2%
計	115	198.3%	190.5%



【問10】貴事業所において、子どもの養育や家族の介護といった、家庭での責任を果たしながら働き続けられる環境づくりに関する取り組みはございますか。（あてはまるもの全て）

「時間外労働の軽減または免除」が41.4%と最も多く、次いで、「特にない」となっている。前回調査と比べ、「1年を超える育児休業制度の導入」や「家族看護休暇制度の導入」等で3~8ポイント増加している。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
1年を超える育児休業制度の導入	12	20.7%	17.5%
分割取得できる育児休業制度の導入	0	0.0%	0.0%
法を上回る介護休業の期間や回数の制度の導入	0	0.0%	3.2%
勤務時間の短縮	19	32.8%	38.1%
勤務時間帯の自由度を高めるフレックスタイム制度の導入	7	12.1%	7.9%
在宅勤務制度の導入	1	1.7%	3.2%
時間外労働の軽減または免除	24	41.4%	39.7%
家族看護休暇（子どもの病気などによる看護のための休暇）制度の導入	14	24.1%	15.9%
育児に要する経費の援助（子守り・託児サービス等の費用の援助など）	1	1.7%	3.2%
事業所内託児施設の設置	2	3.4%	6.3%
育児時間制度の設置	1	1.7%	3.2%
制度を利用しやすい雰囲気づくり	9	15.5%	12.7%
特にない	20	34.5%	33.3%
その他	1	1.7%	0.0%
無回答	4	6.9%	7.9%
計	115	198.3%	192.1%

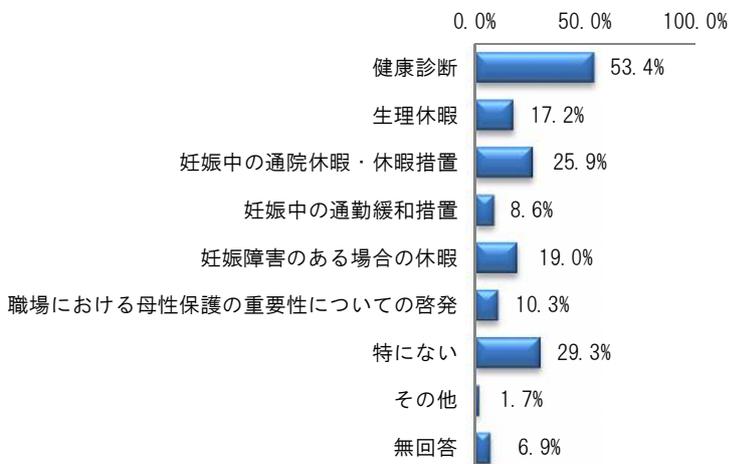


【問 1 1】貴事業所において、母性保護の観点からどのような配慮をされていますか。

(あてはまるもの全て)

「健康診断」が 53.4%と最も多く、次いで「特にない」「妊娠中の通院休暇・休暇措置」となっている。前回調査と比べ、「生理休暇」が 16.1 ポイント減少し、「妊娠中の通勤緩和措置」が 0.7 ポイント増加している。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
健康診断	31	53.4%	68.3%
生理休暇	10	17.2%	33.3%
妊娠中の通院休暇・休暇措置	15	25.9%	22.2%
妊娠中の通勤緩和措置	5	8.6%	7.9%
妊娠障害のある場合の休暇	11	19.0%	19.0%
職場における母性保護の重要性についての啓発	6	10.3%	11.1%
特にない	17	29.3%	19.0%
その他	1	1.7%	3.2%
無回答	4	6.9%	3.2%
計	100	172.4%	187.3%



## (6) パートタイム等

【問 1 2】貴事業所では、パートタイム等を雇用されていますか。

約 5 割の事業所で、パートタイムを雇用しているが、前回調査より雇用している事業所の比率は少なくなっている。

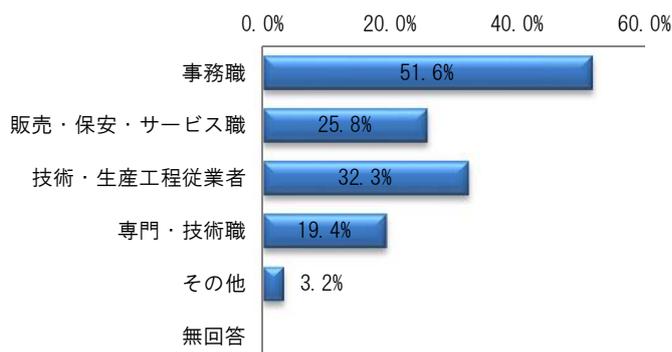
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
している	31	53.4%	69.8%
していない	23	39.7%	30.2%
無回答	4	6.9%	0.0%
計	58	100.0%	100.0%



【問 1 2 - 2】「している」を選ばれた方 雇用している職種について。(あてはまるもの全て)

「事務職」が 51.6%と最も多く、次いで「技術・生産工程従業者」、「販売・保安・サービス職」となっている。前回調査と比べ、「事務職」が 6.1 ポイント増加し、「販売・保安・サービス職」が 3.7 ポイント減少している。

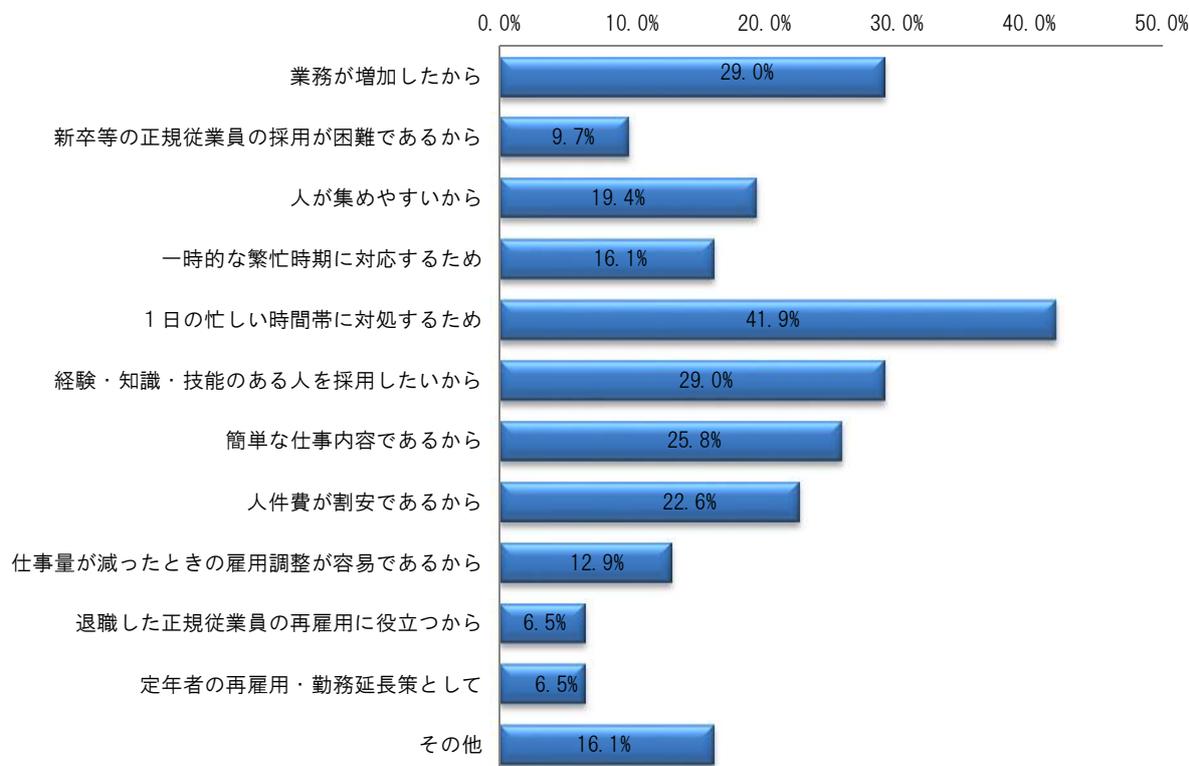
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
事務職	16	51.6%	45.5%
販売・保安・サービス職	8	25.8%	29.5%
技術・生産工程従業者	10	32.3%	25.0%
専門・技術職	6	19.4%	22.7%
その他	1	3.2%	11.4%
無回答	0	0.0%	0.0%
計	41	132.3%	134.1%



【問13】パートタイム等労働者を雇用しているのは、どのような理由からですか。（あてはまるもの全て）

「1日の忙しい時間帯に対処するため」が41.9%と最も多く、次いで「業務が増加したから」「経験・知識・技能のある人を採用したいから」となっている。前回調査と比べ「人件費が割安であるから」が9.2ポイント減少している。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
業務が増加したから	9	29.0%	31.8%
新卒等の正規従業員の採用が困難であるから	3	9.7%	2.3%
人が集めやすいから	6	19.4%	15.9%
一時的な繁忙時期に対応するため	5	16.1%	11.4%
1日の忙しい時間帯に対処するため	13	41.9%	34.1%
経験・知識・技能のある人を採用したいから	9	29.0%	15.9%
簡単な仕事内容であるから	8	25.8%	29.5%
人件費が割安であるから	7	22.6%	31.8%
仕事量が減ったときの雇用調整が容易であるから	4	12.9%	11.4%
退職した正規従業員の再雇用に役立つから	2	6.5%	4.5%
定年者の再雇用・勤務延長策として	2	6.5%	13.6%
その他	5	16.1%	6.8%
計	73	235.5%	209.1%

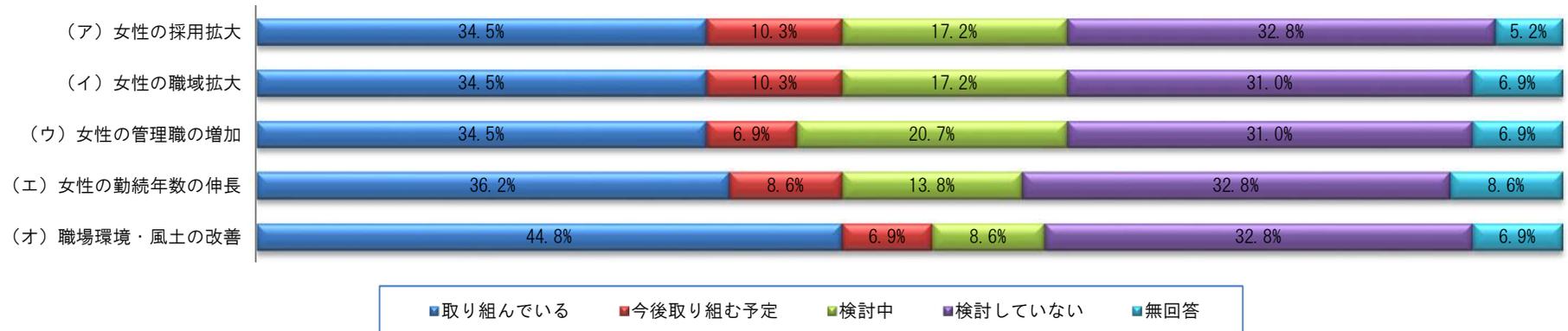


## (7) 積極的女性の活用

【問14】(ア)～(オ)は、男女共同参画社会基本法で定める「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)」の取り組み例です。これらに関して、貴事業所ではどのように対応されていますか。

「(オ) 職場環境・風土の改善」では、他の項目に比べ「取り組んでいる」が44.8%と多くなっている。また、「(オ) 職場環境・風土の改善」以外の項目でも、「取り組んでいる」が増加し、「検討していない」が減少している。

選択項目	(ア) 女性の採用拡大			(イ) 女性の職域拡大			(ウ) 女性の管理職の増加			(エ) 女性の勤続年数の伸長			(オ) 職場環境・風土の改善		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
取り組んでいる	20	34.5%	34.9%	20	34.5%	33.4%	20	34.5%	22.2%	21	36.2%	33.3%	26	44.8%	41.3%
今後取り組む予定	6	10.3%	3.2%	6	10.3%	6.3%	4	6.9%	4.8%	5	8.6%	4.8%	4	6.9%	3.2%
検討中	10	17.2%	20.6%	10	17.2%	22.2%	12	20.7%	31.7%	8	13.8%	27.0%	5	8.6%	12.7%
検討していない	19	32.8%	33.3%	18	31.0%	31.7%	18	31.0%	34.9%	19	32.8%	31.7%	19	32.8%	34.9%
無回答	3	5.2%	7.9%	4	6.9%	6.3%	4	6.9%	6.3%	5	8.6%	3.2%	4	6.9%	7.9%
計	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%	58	100.0%	100.0%

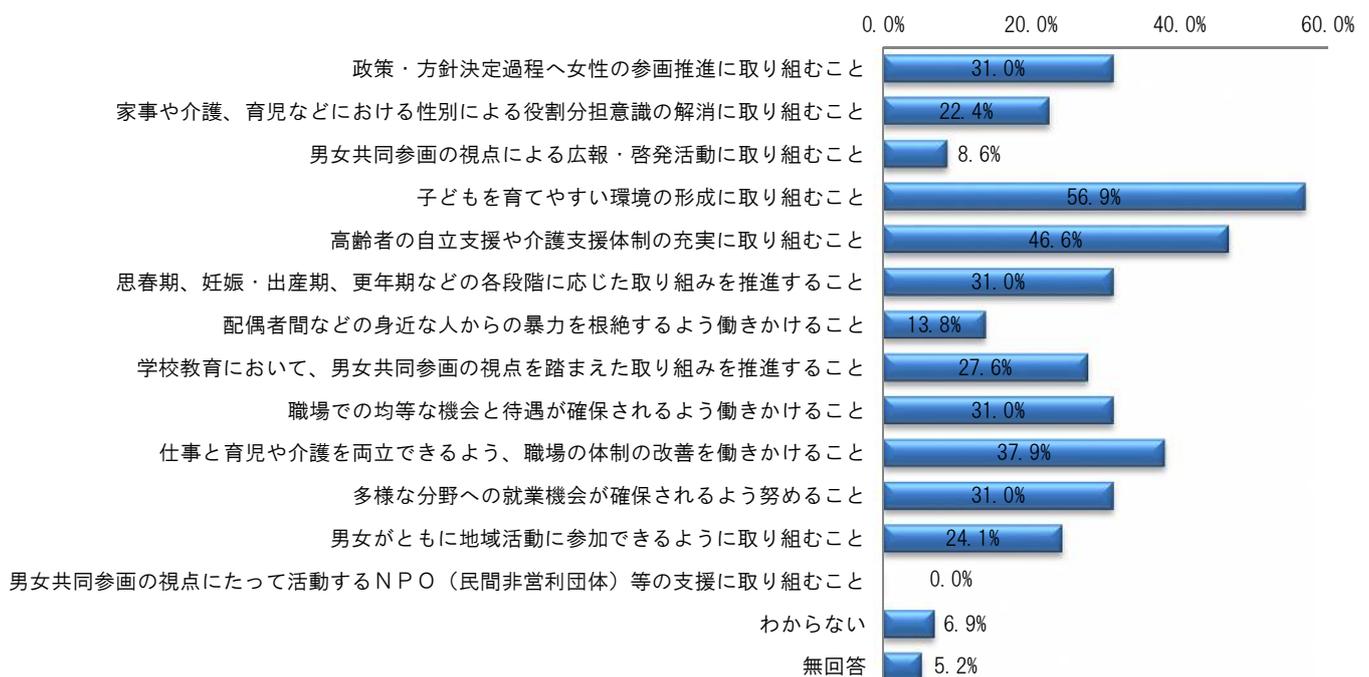


## (8) 男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み

【問15】あなたは、今後、利府町でどのようなことに最も力をいれていくべきだとお考えですか。(5つ以内)

「子どもを育てやすい環境の形成に取り組むこと」が56.9%と最も多く、次いで「高齢者の自立支援や介護支援体制の充実に取り組むこと」となっている。前回調査と比べ「政策・方針決定過程へ女性の参画推進に取り組むこと」が12ポイント増加している。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
政策・方針決定過程へ女性の参画推進に取り組むこと	18	31.0%	19.0%
家事や介護、育児などにおける性別による役割分担意識の解消に取り組むこと	13	22.4%	25.4%
男女共同参画の視点による広報・啓発活動に取り組むこと	5	8.6%	20.6%
子どもを育てやすい環境の形成に取り組むこと	33	56.9%	66.7%
高齢者の自立支援や介護支援体制の充実に取り組むこと	27	46.6%	50.8%
生涯をとおして、健康で生活できるよう、思春期、妊娠・出産期、更年期などの各段階に応じた取り組みを推進すること	18	31.0%	27.0%
配偶者間などの身近な人からの暴力を根絶するよう働きかけること	8	13.8%	12.7%
学校教育において、男女共同参画の視点を踏まえた取り組みを推進すること	16	27.6%	23.8%
職場での均等な機会と待遇が確保されるよう働きかけること	18	31.0%	28.6%
仕事と育児や介護を両立できるよう、職場の体制の改善を働きかけること	22	37.9%	33.3%
多様な分野への就業機会が確保されるよう努めること	18	31.0%	30.2%
男女がともに地域活動に参加できるように取り組むこと	14	24.1%	25.4%
男女共同参画の視点にたって活動するNPO（民間非営利団体）等の支援に取り組むこと	0	0.0%	3.2%
わからない	4	6.9%	11.1%
無回答	3	5.2%	6.3%
計	217	374.1%	384.1%



#### 4. 男女共同参画社会についてのご意見、ご要望等

～個人編～

NO	意見・要望
1	私の知人には結婚、出産、仕事がしたいという人がかなりいます。子供も3人は欲しいと、安心して産休し保育園に預け働きたいです。しかし保育料にパート料を取られてしまうので家にいる友人もいます。
2	私の職場でも人が足りなく、ギリギリで、子供たちが、いつ熱を出して仕事を休まなければいけないのか、また従業員みんなに頭を下げ出勤をかわってもらわなければならないのか常に不安がっぱいです。しかし住宅ローンは支払いがあるので本当は家でんびりしたい。
3	妊娠、出産など女性は環境が変化しやすいと思います。男性は変わらずに生活ができるが女性は様々な支援が必要となると思います。
4	育児休暇が取りづらい職場があったりなど、女性は大変な立場にあると思います。少しずつでも、女性に優しい子に優しい社会になってくれるといいなと思います。
5	人口減少、子供も少なくなるのに図書館など必要ない。
6	高齢化を迎えるので特養施設の建設を要望します。よろしくおねがいします。
7	必ずしも男女で全て平等に生きているわけではないと思うので男女がそれぞれが仕事や育児に自信と余裕をもって取り組める社会になればいいなと思います。
8	男性よりも仕事のできての給与や待遇が男性よりも下っているのは不思議に思います。
9	私の会社では男性正社員よりも女性パートの方がよっぽど仕事をし、仕事ができるので変な会社だと思っています。
10	男女共同参画社会実現には国・県・町それぞれの役割があると思う。
11	町は住民と向き合って様々な事業を実施していく最先端に立っているはずなので、よりきめ細かい施策が求められるのではないだろうか。
12	男女共同参画社会を推進する前に一人一人が社会人として生活ができているか？（非常勤社員で自分のことでいっぱい等）そこが改善していなければ、そんな絵に描いたよな社会は成立しないよ。
13	アンケートだけで終わらないように本気で取り組んでほしい。
14	女性は、男性の分野に入って来ていると思う（特に職業面で）しかし、男性が女性の分野に入って来ていないのが残念。
15	特に家事について・・・定年後など、時間的に余裕が山ほど出来たのに家事が出来ない男性は多い。特に、料理等はスキル、ノウハウがない。
16	様々な動きがあるようですが、男女共同、平等にを変えていくことは、本当に難しいことだと思う。まずは、今まで女の人が、とやってきたことを、男の人にもやってもらう。知ってもらう機会を、強制的に場をつくり、感じないことには、何をやってもダメだと思う。例えば、1日まるごと、取り替える日、仕事も何もかも（子どもがいる男は、休んで育児の日とか、全国一斉にとか、地域で。今の社会、職場の方針を全ての地域で行わないといけないと思う。
17	仕事が優先になってしまっている世の中、子どものことを優先に動ける世の中であれば、男女共同など、まったく意味がない。
18	過去の政策や社会の過ちを今更って気がする。「男女共同参画社会」のスローガンも政治的に利用されているだけで、期待は出来ない。

NO	意見・要望
19	だいたい薄給の非正規社員40%の生活実態を政治家は理解しているのでしょうか。
20	男女共同参画社会については、良くわかりません。
21	各職場内に保育所（保育士常駐）の義務付け、そうすれば、待機児童がなくなるし、安心して仕事ができる。
22	一昔、二昔と比較すれば、男女役割分担意識は、かなり、変化してきていると感じます。やはり、一人一人の意識が変えられたことによるものだと思います。
23	ただ、ワーク・ライフ・バランス、DVについては、ニュースや新聞等の報道によると悪化しているのではないかと思えるので、何とか、よい方向に向かったらと思っています。
24	エイジハラスメントについても、同様に取り組むべきである。
25	私はまだ社会に出て働いた経験がなく、女性が不遇されているということは人から聞いた情報でしか知りません。そのため男女の違いと聞くとレディースデー等プラスの印象も同じ位あります。
26	問20は今の状況をどうすればよいかの視点のようだ。コミュニティは基本は子供である。育てやすい環境ではない。子供がいるから大人や年配が笑顔でいられる。思い起こせば昔はあちこちで、子供の声が聞こえた。今はうるさいと言って公園から追い出している地域があるようだ。自ら無くなる自治体となろうとしているらしい。サークル等に可愛い笑顔が入る町づくりは無理なのか。
27	「男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方は、女性の社会進出（そうせざるを得ない）によって形をかえつつあると思う。専業主婦が多い時代ではなく、30歳以下の人たちは「夫婦で分担・協力をして家事を担う」というふうに教えられているので、すでにそれ以上の年齢の人たちよりも、ずっと柔軟な考え方をしているように感じます。社会の体制が、少しずつ変わってはきているものの（かなりよくなっている。）まだ、男性に有利だな・・・と思うところが残っているのが、現実では、ないでしょうか。男女平等とはいいますが、結局子どもを産むのは女性であり、その性差を考慮した上での平等であってほしいと思います。会社等、トップの人の意識によって働きにくい人がいるのでは・・・という印象があります。
28	国の政策で「男女共同・・・」の計画があるのは知っていましたが、利府町で計画期間があることは知りませんでした。広報などには、載せてあるのでしょうか、具体的に町で活動しているのか、住民には、見えていないと思います。一部、活動参加されている方のみ周知されているだけなのではないでしょうか？町として本気で取り組むのであれば、それぞれの地区に職員が出向いてもっと積極的に活動しないと期間だけが長くなり何の成果も出さないとします。広報などで文面を配布で活動しましたというのは意味のない事・税金のムダ使いに過ぎません。
29	利府町職員の方々、本気で取り組んで下さい。仕事の仕方が甘いです。
30	私の前の職場は、ものづくりを専門とする会社で男社会でありましたが、年々女性の雇用も増え、女性が働きやすい環境が整ってきていると思います。しかし、そのほとんどは、パートであったり派遣であったりします。企業が女性の正社員を推進しているにも関わらず、パートや派遣が多いのは、育児や介護に対して、労働環境が万全でないこともあります。その他に女性自身が家庭に入ることを望んでいることもあるのではと思っています。
31	最近、女性が働きたくても働けない社会から、女性も働かなければ食っていけない社会へと変わってきたと思います。男女平等というのであれば、女性だけでなく男性へも育児休暇、介護休暇等、労働環境の見直しが必要だと思います。
32	夫婦ともに利府町では、職（仕事）をしないので、良く判りませんが、町で計画している事が広く町の人達に判り易く浸透し、全ての基本目標が達成出来る様に取り組んで行って下さい。私達が、町から将来世話を受けることになるのであれば、介護支援体制について今後どうなっていくのか？不安と希望等々が一番の関心です。

NO	意見・要望
33	男は男としての役割、女は女としての役割が、あるということをふまえての構築をしていただきたい。
34	老若男女の意識なく思いある環境づくり。
35	個性・特徴を生かせる社会づくり。
36	男女共同参画社会についてあまりわかってませんが、男には男の良さ、女には女の良さがあっても良いのではないのでしょうか？お互いに特徴を伸ばせた方がいいと思います。
37	すべて男性教育！！
38	得意なもの、性差、育ってきた環境、学歴等いろいろな差があつてあたりまえなのだと思う。だからこそ、その差を含めて互いに人間として尊重していける社会であると良いと思う。
39	本計画の基本理念を満足するに足る政策、施策が目先の利益だけを考えたものではなく、中長期的に支持され継続するものであることを願っております。
40	「男女平等」は賛成ですが、女性に重点を置きすぎるのも良くないと思います。昔の人のように、男は仕事、女は家庭、子供が出来れば仕事をやめても、育児優先にする気持ちは大事で、現代は、男性を立てる謙虚さが、足りないと思う。あまりに、便利になりすぎてお金のかかる世の中、課題は大きいです。
41	親の教育は、とても、子供の成長に影響があると思います。
42	このような意識調査を行うことは、今後も利府町に住む者として、大変興味深いものであり、さらに、誰もが生きやすくなっていく活動だと思う。度々、調査を行っていき、住みやすい町づくりをお願いします。
43	子育て中の女性が仕事を見つけやすいシステムを作してほしいです。
44	調査の趣旨は充分理解できますが、1回目の計画の結果、評価はどうだったのか？それに基づき、改善、再計画がなされたのか、甚だ疑問を感じます。私が思うには、第2次の計画の結果も1回目とほぼ同じだと思います。私は、基本計画の施策、事業が、どの様に広報され実施したのかさえ理解していません。又、どの様に何方が推進計画を策定したのか。
45	もっと、オープンにしてできそうな事から一つ一つ実行していく姿勢が大事に思います。少なくともこのアンケートで第2次基本計画の結果とする事のない様に、あくまでも今後の実践の一考となることを切に願います。
46	基本理念及び目標の設定は良く理解できる。施策の方向も良いと思うが、具体策を提案できていれば良いと思う。
47	年金生活で大変でも、心にゆとりを持てる様な社会であってほしいです。ゆとりを持てた時に、地域活動等参加出来る様に活力になると思います。家計が苦しければ、何の余裕もない！！
48	第2次男女共同参画基本計画を実践している中で町民に対してアピールを強くし、町民と一体になれる様、努力を続けて欲しいと思います。
49	アンケートには、ずれますが、離婚により母に育てられた子供は親（特に母）の就職など支援体制があると助かると思います。
50	実現に向けた社会づくりは、当然のことながら、家庭教育、家庭環境が大事なことと思われます。子供は、親の背をみて育つといます。知らずに意識せず、身についてしまうものと思われるので・・・学校教育での指導も大切かもしれませんね。
51	今の生活がいっぱいです。

NO	意見・要望
52	どのような時代、社会の変化があろうとも、女性が子供を産み、幼児期の子育てを担うこと。男性が仕事に打ち込み生計を担うことも変わらない。男女にはそれぞれの根源的な役割は不変である。女性が十分な環境下での出産から育児期間終了までの間、家族社会の支援が必要。
53	若い男性が介護職につく事など、本末転倒で、男は大志や夢をもって社会を担い、何でも、男女が共同参画すれば、よいものではない。男女には、それぞれの特性があり、経済的理由が根源に見える。
54	自分の周辺の女性は一般的な職場より優遇されていることが分かった反面まだまだ世の中に浸透していない事が分かった。時代に合わせた男らしさが必要なかもしれない。身体的な特性もある為、全てに均等とはいかないまでも、女性が性別で不利益を受けないようにしなければいけないと思う。
55	主婦でいる自由も守って欲しい。保育所の数を増やして欲しい。
56	一人息子が結婚して別居しています、一人子供ができて保育所に預けて二人で働いています。二人目が欲しくて今頑張っているところです。二人目ができて育休をとるつもりです。そのまま今の職場に戻るかはわからないと言っています。その時は利府町内で働きたいと言っています、育児手当や支援の充実を希望します。
57	どんなに男女平等にと考えて、そういう体制の改善を働きかけたとしても、そういう（平等）考えを持たない人がいる以上無理なのかな？と思います。
58	どうしても女性からみた男性が年上だった場合バカにした態度が多いです。今の時点で年齢が上の人は平等という考えなんて、どうでもいいと思っているんじゃないでしょうか？
59	こり固まった頭の人、50代後半の男性に特に多い気がします。時代背景もあるとは思いますが、これからの子どもたちがこのような大人にならないようにしっかりとした教育が必要だと思います。
60	行政はこの男女共同参画社会。本当に目指しているのでしょうか？ゆるい進捗状況で物足りません。
61	男社会の政治家の方々も何をやっているのか！残念です！庶民の税金で生活しているのですから、もっともっと本腰をいれてやってください。
62	保育者に入所できないため、働けない女性が多くいる。
63	待機児童解消が急務である。
64	特別に男女共同参画と掛け声をかけなくても、出来ることからやればいい。
65	「大い・力が強い」という特性がある、女は男と比べて上記の部分で若干劣るだけだと思う。
66	夫婦別性や離婚後6か月内の再婚禁止など憲法違反の法律を廃止するよう国に働きかけてほしい。
67	男性、女性では肉体的に女性にはハンディキャップがある。社会全体がハンディキャップをカバーする組織、体製造りが必要と考える。
68	男性、女性問わず知識、能力、実力がある者が評価される社会構成をつくるべきで、頭から女性を優遇するという〇%、〇人登用するとか採用するという事は如何と思う。
69	日本女性特優の優しさ、きめ細やかさを発揮できる職域拡大と教育を忘れてはいけない。
70	女性の社会進出などといって女性を優遇していくのは反対。
71	何か数字の上で均等にすることが平等でないし、男と女で能力に差があるのはあたりまえ。
72	特に政治の分野で女が強く主張してるのを見る不快。

NO	意見・要望
73	女性のほうが能力があると思う、偏見が強い。
74	意見の尊重、主張を引き出してやる（上から目線だが）
75	能力のあるものなら地位、職階を上げてよいが員数合わせなら逆に男の地位の低下も考えられるのでは。
76	日本の職場は残業、労働時間が長いために家族との時間が少ない為に家事、育児、介護の分担が上手くいかない理由だと思われます。
77	女性のみを優遇するという誤った制度を策定せず、各特性に応じた機会を設け、互いが、社会の貢献に役立てるようにして欲しい。
78	男女共同参画基本計画という立派な神輿ができれば、「(a) それを担ぐ人、未来や夢を持ってそれをながめ願いを託す人」がいてはじめて神輿が力を持つものだと思う。今後は、この部分「(a)」が問われていると思うので、未来や夢を現実のものに少しでも近づけていく為、具体性を示すこと。
79	日々の小さな積み重ね、社会とのつながりが始まったら実践につなげる（幼児教育・学校教育・社会教育）という地道な活動が必要と思う。意識を変えること。
80	問の中に性に関するセルフコントロール・・・等々とありますが、設問に違和感を持ちました。どんな意図なのでしょう。
81	何事も男女平等でなくても良いと思います。互いに協力して生きて行けば良いと思います。男性向き、女性向きの事も多々あるので・・・老若男女皆の協力で社会が出来て行くのではないかと思います。
82	男中心社会の長い歴史があり、改革していくことは、容易ではありません。ブラック企業なども横行する中では、ありますが、企業環境、教育環境、社会環境などを変えていく必要があります。金のバラマキではなく、女性も働きやすい環境づくり、諸施設の充実・拡大は急務です。また、女性リーダーを育成していくことも重要です。
83	男性社会の日本にとって女性側にたったの主張が目立ちますが男性の主張や言い分もあるはず、無視すれば協力も得られず結婚も進まず、離婚も増えるはず。
84	性が違う以上に何もかも同じという訳にもいかず、それぞれの違いを尊重し生かし、協力してよりよい社会を築いていくのが望ましい。
85	お互いの立場ばかり主張している中で子供たちの心はすさんで男も女も疲弊している。将来が心配です、子供たちが可哀そうです。男はふてくされ女は放棄している。
86	男性しか出来ないこと、女性しか出来ないこと、男女それぞれに向いていることは、どんなに平等にしてもあると思います。それをお互いに理解した上で、平等になる社会を目指してほしいです。
87	すべてを平等に、と考えると、出来ない事も無理してやらなければ、ならないストレスが出ます。
88	大手企業に働いていても、様々な制度があるが、やはり、男は仕事と考えている人間が多い。個々の問題もあるが、日本全体の問題として、男女平等をもっと考えるべきである。
89	法律や支援の充実はもちろん必要ではあるが、その枠組みがなくてもまずは男性だから女性だからという意識（区別）をなくしていけば自然にお互いを尊重し、助けあう社会になると考えます。制度が整っていても、例えば育休を取るなら会社を辞めるのは当然という雇用側の意識が改善されなければ何も変わらないです。
90	男女平等＝男性と女性が全く同じことができるようにする。ではないように思います。男性には、男性の得意なところ、女性には女性の得意なところがあるので、男性・女性という分け方に語弊があるかもしれないので訂正。個々人の得意なところをのばしてお互いに認めあえるような雰囲気、社会通念が広がると良いと思います。

NO	意見・要望
90 (続)	それをうまく伸ばしなおかつ、お互いに補いあう或いは時にはお互いの役割を交換してみるという個人の能力を最大限に発揮できる社会になってほしいと考えます。勿論、男女ともに社会に貢献できる機会は平等にあるべきで、それを自由に選択できれば、良いのです。
91	男女の役割分担論など、日本社会が長年維持してきた体制に疑問を持ち意識変革に取り組むには、個人、家庭、地域、職場、学校・・・そして社会全体での施策と実践が必要です。町政で出来ることと、その限界もあると感じます。まずは、町民が身近なコミュニティーで素直に意見交換や家庭での体験などを語る場などがあるといいかもしれません。
92	男女ともに健やかに暮らせる社会の実現の一步になればと思います。
93	男女共同参画社会などという愚かな発想に利府町が影響されずに、利府町町民が「幸せ」を感じる町づくりは何かを真剣に考えていくべきである。平等は公的なものと私的なものとの区別なしにアンケートをとるやり方はやめた方がより良い意見が出てくると思う。
94	拝啓 明日は師走の候 益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は私達利府町民に対しまして格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。この度は、男女共同参画推進の一助とするためのアンケート調査をお送り頂いて拝見して始めて知りました。恥ずかしく思いましたが、1000人の中の一人に選ばれたことに有り難く平成22年度の目標指数現状を見て想像以上に低くての驚きでした。私ことも退職後も今日まで体を張って日々を過ごしていますので、この指数の現状の低さに同感してしまいます。利府町の計画の目的にもある通りまだまだ従来からの、固定的な役割分担意識は根強く残っており、男女共同参画社会の実現に向けては、なおなお解決すべき課題が沢山あります。今後も引き続きこの計画に取り組みを是非是非推進していくものです。本当に私達にとって切実な問題であります。
95	「男女共同参画社会」という表現自体差別と言える。差別ではなく「区別」を理解させる社会を考えるべきではないかと思う。
96	女性が働く事になると子供がいる場合は、保育所にあずけるという選択肢になりますが、幼稚園と保育所では、中身も違うし管轄する省庁も違います。保育所に通う子供達が幼稚園に通う子供達と大差ないように親が罪悪感を感じずに預けられるように。
97	幼稚園と保育所を併せ持つ子供園（結局は幼稚園と保育所が分かれているので。）もありますが、それは、利用しようと思えないので。

～企業編～

NO	意見・要望
1	経営者の考え方を改めない限り昇進等は、難しいと思います。欠勤・外出等の理由は聞かれるが、駄目と言われることは無いので、その辺りは休み易く良い会社だと思われま
2	男性、女性の区分け（仕事、採用他に関して）は、減ってきていると思われるが、職を求める方が、女性には、向かないとか、昇進を希望しないとか、責任を持ちたくない等、法に対しての乖離が生じているのではないのでしょうか。「権利と義務」を一方的に自己防衛的主張をされても、会社は成り立たないと思われま
3	中小零細企業が対応するには、無理があり実情に全く合わない。零細企業の実態をもっと把握すべき。
4	今現在、女性社員の雇用はありませんが、女性の採用拡大を図り、男女が共に、働きやすい環境で取り組んでいきたいです。
5	平たく言えば、男女平等という事だと思いますが、利府は、まだまだ古い習慣が残っており、何をすることも、男性の理解と協力なしには、女性の活躍は期待できません。幼少時からの男子の教育（家庭においても）を改めた方が・・・
6	男女共同参画社会づくりとはいったい何でしょう。いったい何に取り組み、何をやり遂げなくては、ならないのでしょうか。ここに挙げた1～13の中は、すべて大切なことだと思いますが、もっと、いろんな方の話を身近に感じられるものであってほしいと思います。
7	当社は、女性が中心で仕事が成り立っているのです、男性、女性と区別なく能力に応じて任せている。
8	本人の働き方の希望が、優先されると思う。女性自身が対等な社会の構成員になりたいかどうかで、対応が変わると思う。
9	女性が育児をしながら働くのは、当たり前となっています。育児についてももう少し町でフォローがあれば、もっと働きやすくなるのではないのでしょうか。利府町も子供が少なく介護は増加していくと思います。子供会もない所があり大変住みにくいと聞きます。小学校もいっぱいありますが、まとめて子供がもっと楽しく学校に行けるように小学校を減らしたほうが良いのではないのでしょうか。その方が社会性があって良いと思います。
10	企業の取り組みを前に進めるのは、国や自治体の財政的な支援につきます。意識が変わる為には、財政出動なくしてありません。企業は、理念も大切ですが、その理念を達成する為には利益が必要です。
11	企業の体制に色々望む前に待機児童の問題を解決すべき。

## 男女共同参画参画に関する住民意識調査結果

項 目	平成19年度	平成22年度	平成25年度	平成27年度
<b>目標指標1</b> 1. 「男女平等」の意識を高めます。 ・「家庭生活」における平等感	36.9%	39.0%	46.6%	43.8%
・「職場」における平等感	25.4%	24.2%	26.8%	25.0%
・「社会通念」における平等感	14.7%	15.7%	11.5%	17.8%
・「社会全体」における平等感	17.1%	16.6%	14.6%	15.5%
2. 「男女共同参画社会」の認知度を高めます。	30.0%	35.6%	33.2%	33.7%
3. 利府町男女共同参画基本計画の認知度を高めます。	16.1%	18.5%	11.4%	13.5%
<b>目標指標2</b> 1. 家庭における役割に対する男性の関わりを増やします。 ○夫・夫婦・家族の合計	16.7%	17.0%	23.1%	21.1%
<b>目標指標3</b> 1. 町のすべての審議会等へ女性委員を登用します。 (女性委員のいない審議会等)	75% (9委員会)	83.8% (6委員会)	91.4% (5委員会)	94.5% (2委員会)
2. 審議会等における、女性委員の割合を増やします。 ○女性委員の構成比	22.5%	19.3%	24.2%	25.5%